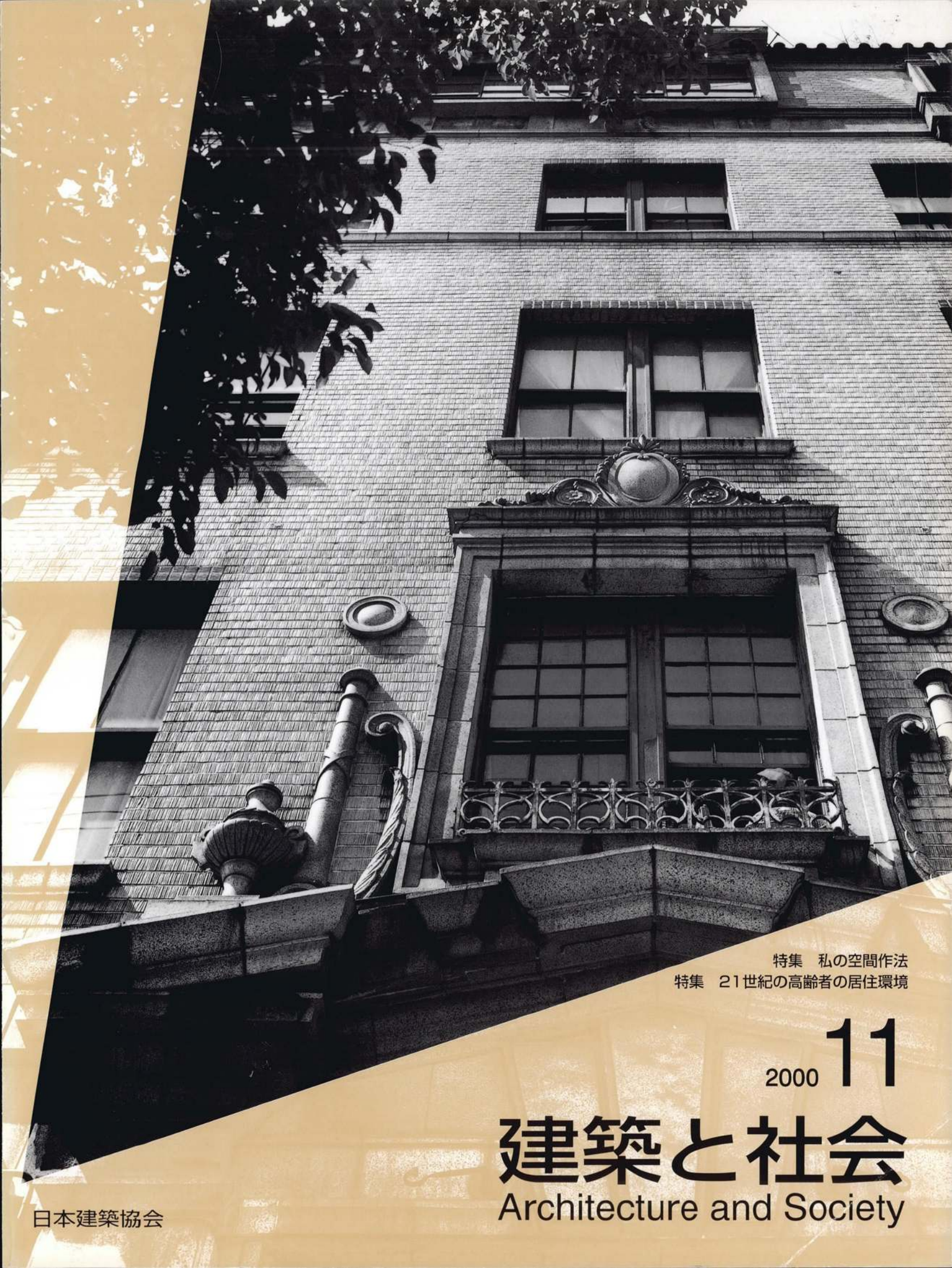


特集　私の空間作法
特集　21世紀の高齢者の居住環境

2000 11

建築と社会

Architecture and Society

日本建築協会

夢我夢中。



今は、小説や映画の中だけのおとぎ話かもしれませんが…。
電設工は、先進テクノロジーの積み重ねにより、
夢のような未来社会の創造に貢献したい、と考えます。

あなたの立場になって考える　設計・施工

電設工

日本電設工業株式会社

本店：〒110-8706　東京都台東区池之端1-2-23　Tel.03-3822-8811(代)　Fax.03-3822-8960

「日本建築協会80年史1917-1996」増刷決定！

頒布予約開始

1999年７月に発刊した「日本建築協会80年史1917-1996」は、各方面から好評をいただいておりますが、このたび、皆様の強いご要望により、増刷・頒布することにいたしました。大正６年３月30日に関西建築協会として誕生した日本建築協会の80年の歴史を、様々な事業や委員会活動を通じて、また、本会設立者の片岡安、武田五一以降現在までの会員たちの社会活動を通して知ることができる記念誌として、A4判・240頁にまとめています。

とくに、協会草創期の大正・昭和初期の片岡安ら協会のメンバーと当時の大阪市長・関　一との交流を物語る一文は、大阪の都市計画史、あるいは関西の建築人物誌ともなっています。本会の歴史を知るだけでなく、建築を通して、それぞれの時代の雰囲気を身近に感じることができる大変貴重な資料となるものです。

購入ご希望のかたは、下記要領でお申し込み下さい。

＊

申 込 先　社団法人 日本建築協会
〒530-0001　大阪市北区梅田1-1-3-2100
TEL 06-6348-0635　FAX 06-6348-0634

申込締切　平成12年**11**月**30**日(木)

頒　　価　１部3,000円(税・送料込み)

※増刷部数には限りがございますので、お早めにお申し込み下さい。なお、発送は12月中旬頃の予定です。

「日本建築協会80年史」



A4判・240頁・並製本

●日本建築協会の沿革／委員会活動／「建築と社会」の変遷／大正時代から現在までの本会主催の博覧会・展覧会・講演会／よろず相談住宅展／青年建築家・青年技術者顕彰／工高生デザインコンクール入選者etc.

●日本建築協会創立者と会を支えた38人のプロフィール（片岡　安・設楽貞雄・武田五一・池田　實・波江悌夫・竹腰健造・尾崎久助・東畑謙三・塚本猛次・福田朝生・佐野正一・葛野壮一郎・横濱　勉・松本禹象・宗　兵蔵・園部文雄・日高　胖・野村一郎・古宇田　實・松室重光・松井貴太郎・安井武雄・中澤誠一郎・坂　静雄・今林彦太郎・井上新二・松本儀八・池田宮彦・銭高輝之・中西六郎・大林芳郎・鴻池藤一・伊東五郎・竹中錬一・鷲尾健三・松村雄吉・横尾義貫・足立　孝）

●座談会「戦中から戦後初期の協会活動」―尾亀清四郎・大林芳郎・小西　岬・佐野正一・横尾義貫・三品哲夫の6氏による終戦前後の協会活動の証言―

＊

■執筆ワーキンググループ

坂本勝比古／安達英俊／石田潤一郎／植松清志／梅宮弘光／桐浴邦夫／酒井一光／橋寺知子／山形政昭／吉田高子／和田康由

■80年史編纂委員会

長谷部朔郎／安達英俊／近藤達夫／谷淳之介／十倉　毅／原見昌志／和田康由／吉田悦二



「日本建築協会の遺産と功績」（坂本勝比古）より



「草創期の人々」より片岡安の項

臨時総会議決報告

平成12年９月27日開催の臨時総会において右記議案が原案どおり承認されましたので報告します。

●定款変更について承認を求める件
（議案については９月号に掲載のため省略）

第46回工高生デザインコンクール入選者発表

― 設計課題：地域に建つ「郵便局」 ―

日本建築協会主催による平成12年の標記コンクールの入選者が、右記のとおり決定いたしましたので発表します。なお、入選作品は平成13年１月号に掲載いたします。

●応募校数 / 33校
●応募作品数 / 146点

	氏　名	学　校　名	学年
入選・最優秀賞	井　澗　拓　也	大阪市立工芸高等学校	3年
入選・優秀賞	児　玉　　稔	私立名古屋工業高等学校	3年
入選・優秀賞	坂　本　重　勝	三重県立四日市工業高等学校	3年
入　選	井　谷　年　伸	三重県立伊勢工業高等学校	3年
入　選	五十嵐　悠	群馬県立前橋工業高等学校	3年
入　選	谷　岡　　亮	大阪市立工芸高等学校	3年
入　選	土　井　勝　信	大阪市立工芸高等学校	3年
入　選	中　島　　佳	大分県立日田林工高等学校	3年
入　選	林　　正　宗	私立名古屋工業高等学校	3年
入　選	村　田　葉　奈	高知県立高知工業高等学校	3年

順不同・敬称略

2000建築関係団体合同忘年懇親会

日　時　平成12年12月14日㈭
　　午後６時～７時30分
会　場　太閤園迎賓館
　　ダイヤモンドホール（ビュッフェ・スタイルのパーティー）
　　大阪市都島区網島町9-10
　　電話 06（6356）1111
会　費　8,000円

●11月27日までに事務局へお越し下さるか、現金送金にてお申込み願います。
（土曜休務）
●申込者には忘年懇親会参加証をお渡しします。

参加者　400名予定

お願い
(1) 申込の際に氏名・勤務先をお知らせ下さい。
(2) 申込者で12月４日までに欠席の連絡がない場合は会費のご負担を願います。
(3) 当日は参加証を必ずご持参願います。

2001建築関係14団体合同新年交礼会

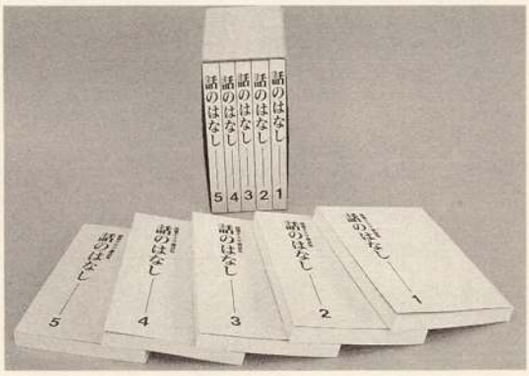
日　時　平成13年１月４日㈭
　　午後２時30分～３時30分
会　場　マイドームおおさか・３階
　　大阪市中央区本町橋2-5
参加者　800名予定

会　費　5,000円（当日欠席されても会費をいただきます）
申　込　12月８日までに会費を添えて最寄り団体にお申込み下さい。

共　催　㈳日本建築協会／㈳大阪府建築士会／㈳日本建築学会近畿支部／㈳日本建築家協会近畿支部／㈳建築設備技術者協会等

講演記録集「話のはなし」残部頒布します!

昭和47年6月に発足した「建築クラブ」（日本建築協会会員有志の集まり）は、毎月1回、大阪市内のホテルに学者やジャーナリストをはじめ政界・経済界・文芸界・スポーツ・芸能界など広い分野から講師をお招きして、お話を聞く朝食会を開いております。
1997年、この朝食会の第300回を記念して、講演速記録を集約し、最終的に118回分を5冊1セット（1冊平均約320ページ）の本に編集いたしました。「話のはなし」の講話の内容はとても多彩で、「おもしろい話」「貴重なはなし」「裏ばなし」などがいっぱい詰まっています。
残部を建築クラブの格別のご好意により、1セット・5,000円（消費税別途）



B6判　5分冊

でおわけできることになりました。ご希望のかたは電話またはFAXでお申し込み下さい。

申込先：日本建築協会事務局
TEL06-6348-0635
FAX06-6348-0634

30's EYE- 21世紀へのエスキス
第34回
丸谷勝也 アーク・ユニット・スタジオ
「のりツッコミ」でいこう!





塚本さんと貝島さん達がメイドイントウキョウで「ダメ建築」というカテゴリーを提出したときから考えていたのですが、実はある企画の編集に加わったときに、大阪のボケ建築というものを構想していました。（ボケ建築という命名は木下氏、長田氏によるもので、私は関西のお笑い気質と建築について執筆するはずであったのですが、共に御蔵入りとなってしまっていたのです。）ですがそれだけでは、単なる分析的な考察にしかならないため、この機会に「のりツッコミ」という用語にまで拡げ、関西の閉塞状況を突破する提言にまで迫る事ができればと考えています。

ちなみに、「ボケ／ツッコミ」は、最近全国区で認知されているので特に関西方面では解説の必要はないと思いますが、「のりツッコミ」については説明が必要になるかと考えています。もともとツッコミ的役割（キャラクター）のほうがボケを兼ねるとこのスタイルになるわけですが、ボケとツッコミの二役を独りでこなしてしまうので自己完結型の独り時間差攻撃ということになります。ダメを指摘するツッコミ。ダメを分かっていないとできないボケ。ダメをネタに自分でボケて自分にツッコむ究極の「のりツッコミ」。これらを通して、少しでもオチのある話になればと思っています。　（丸谷勝也）

丸谷勝也（まるたに かつや）
1960年　大阪市生まれ
83　京都府立大学生活科学部住居学科卒業
　　貴志雅樹＋環境企画室
90　アーク・ユニット・スタジオ設立
92　京都府立大学非常勤講師
93　平安女学院短期大学非常勤講師
主な受賞
SD Review入選（東京・大阪展）
国際コンクール「夢シティ」21への提言優秀賞
インター・イントラスペースデザインセレクションデザイン賞など
主な作品
遠里小野の家／山本邸（住宅建築1995.12）
大亀谷の家／元広邸（新建築住宅特集1995.11）
CAGE HOUSE SCW／末村邸（新建築住宅特集1997.7）
LODGING 2／Herbel Heart（SD1998.1）
Re-Site House／山口邸
（新建築住宅特集1998.5、GA JAPAN32）
ロイヤルシティ阿倍野／集合住宅　など

日　時　2000年**11**月**24**日(金)
　　18:30—20:30
会　場　日本建築協会サロン
　　＊大阪駅前第３ビル21階
講　師　丸谷勝也
　　アーク・ユニット・スタジオ
定　員　30人
　　＊申込多数の場合は抽選
参加費　会員 1,000円、一般 1,500円
　　学生500円引　＊飲物付、税込
申　込　11月16日(木)までに、ハガキ、FAX、電話でお申込み下さい。
　　①催し名：30's EYE
　　②氏名
　　③個人会員・団体会員・一般の別
　　④職場・学校名
　　⑤参加証郵送先
　　⑥連絡先電話番号
　　をお知らせ願います。
　　＊参加証を11月17日(金)に発送します。
申込先　㈳日本建築協会事業課
　　大阪市北区梅田1-1-3-2100
　　TEL.06-6348-0633
　　FAX.06-6348-0634
　　〒530-0001
主　催　㈳日本建築協会
　　若い会員の集い小委員会
　　担当主査：杉本真一／大阪芸大

近代建築見学会
第11回
大阪市立愛珠幼稚園を訪ねる

日　時　2000年**12**月**15**日(金)
　　15:00—17:00
講　師　山形政昭
　　大阪芸術大学教授
集　合　現地／大阪市中央区今橋3-1-11
　　＊地下鉄「淀屋橋」駅徒歩５分
定　員　30人　＊申込多数の場合は抽選
参加費　会員 1,000円、一般 1,500円
　　＊税込
申　込　12月７日(木)までに、ハガキ、FAX、電話でお申込み下さい。
　　①催し名:近代建築見学会
　　②氏名
　　③個人・団体会員・一般の別
　　④職場・学校名
　　⑤参加証郵送先
　　⑥連絡先電話番号
　　をお知らせ願います。
　　＊参加証を12月８日(金)に発送します。
申込先　㈳日本建築協会事業課
　　大阪市北区梅田1-1-3-2100
　　TEL.06-6348-0633
　　FAX.06-6348-0634
　　〒530-0001
主　催　㈳日本建築協会
　　事業委員会見学会小委員会
　　担当主査：熊野健司／大阪市都市整備局



大阪市中船場の町なかに長大な瓦葺きの高塀をたて、武家屋敷のような格式ある構えをもつ建築が、明治13年創立の歴史をもつ愛珠幼稚園です。明治34年の建築で現存最古かつ現役という生きた文化財として著名なもので、平成11年大阪市指定有形文化財となっています。

当時、計画に際しては主席保母の作案をもとにして建築家（大阪府技師中村竹松ら）が具体化したもので、その先進的な計画性は、今でも新鮮に思えるところが所々にあります。

全国的にも類例のないといわれる明治の幼稚園の見学会に、どうぞご参加ください。

（山形政昭）

読者と織りなす

たて糸よこ糸

「建築と社会」では、読者の声を誌面づくりに役立てるために、皆様の意見と、編集担当者の声を掲載していきます。

読者と編集者との交流の場を目的としてはじまった「たて糸よこ糸」欄も、先月号で半年を経過しました。その間ご意見を頂いた読者の皆さん、ありがとうございました。

2000年初頭より、本誌掲載の建築作品、論文、記事を対象に本会会員の投票による顕彰制度、読者と選ぶ『建築と社会賞』を実施いたします。これは各号の読者アンケートに記載のコメント、及び12月号に綴じ込まれる投票ハガキにより第一次選考を行うものです。よいと思われた作品・論文に対するご意見をお寄せください。

私たち、編集委員一同は、紙面のいっそうの充実を図るため、読者諸氏のさまざまなご意見をお待ちしております。

（編集委員長）

■「空間の魔力」

私事であるが、最近英国の大学の通信講座を始め、電子メールを利用する機会が増えた。教官からの指導、学生同士の討論などはネット上で行われる。この講座には世界中から様々な人が参加している。メールは電話のように相手の時間を強制的に束縛しないし、時差の問題もない。また手紙よりは即時性があり、話し言葉に近いため心理的な敷居も低い。直接的・双方向に情報がやりとりされる。

しかし幼年期からの完全遠隔学習の可能性も囁かれる一方、児童の学習意欲を決定するのは、数年に及ぶ教室での友達との空間共有体験である、と教育学者も指摘する。上記の通信講座でも、オプションで開催されるスクーリングの有義性を主張する学生が多い。

編集委員会でも、膝をつき合わせて議論を戦わせなければ、最終の特集案は煮詰まらない。建築を創る意義は、人と人、物、文化の出合いの場における「空間の魔力」を生み出すことにあるのだと思う。

（編集委員　K·N）

■名刺を繰っていて…

21世紀まであと２カ月である。

先日、名刺を整理していて気づいたのだが、メールアドレスやHPのURLが印刷されている名刺が、ここ数年急激に増えてきている。10年、いや５年前でも、あまり見かけた記憶がない。（そういえば、私の名刺に印刷されたのもここ２年ぐらいか）

この情報技術、情報産業の進むスピードは速い。そのうち名刺を交換しあわなくても、例えば小さな端末を向かい合わせるだけで、お互いの情報がやり取りされる…というような時代がやって来るかもしれない。

なんて思いながらわれらが建築業界を思い返してみると、たしかに、技術やツールは進化してきている。ただ、根本的には旧態依然としていて何も変わってない。

われわれも発想を変え、このスピードについていかないと、われわれだけがいつまでも20世紀に取り残されてしまうのでは…と思う。

（編集委員　H·W）

切り取り線

「建築と社会」読者アンケート

「建築と社会」では、読者の方々のご意見を参考に、充実した誌面づくりをめざしております。今月号で、とくによいと思われた作品、記事、その他についてのご意見をFAXでご送付下さい。
なお、このご意見は、読者と選ぶ第1回『建築と社会賞』の1次選考に反映されます。

□とくによいと思われた作品

よいと思われた理由

□とくによいと思われた記事

よいと思われた理由

□その他、本誌についてのご意見や、取り上げてほしい内容などがありましたらご記入下さい。

2000年11月号

送付先：
㈳日本建築協会
「建築と社会」

FAX 06-6348-0634

お名前 _____

□ご意見は、誌面に取り上げさせていただくことがありますが、その場合はイニシャルのみを掲載させていただきます。

勤務先 _____ TEL _____

建築と社会 11 2000

ARCHITECTURE AND SOCIETY
JOURNAL OF THE ARCHITECTURAL ASSOCIATION OF JAPAN

1917年創刊　第81集／通巻944号

今月の表紙

表紙デザイン／笹村欽也
建築写真／河合止揚

●宇川病院
設計／不詳
施工／不詳
竣工／昭和初期？
所在地／大阪市西区九条南1丁目29-2

●建物は、港通りを海の方に向かい九条を越えた辺りにある。秋晴れの日、ポプラ並木に立って見る光景は不思議な洋風という感じで、上海やハルビンの裏通りのよう。南向きのせいか、古い病院特有の暗さがない。入口には西区の電話第一号を示す古いプレート、看護婦募集の文字が……。

撮影をしながら、看板を見てやって来る看護婦のストーリーを勝手に考えてみたりする。

（河合止揚）

■特集予告
12月号／第47回青年技術者
1月号／エヌ・テイ・ティファ シリティーズ

編集委員会（平成12年度）

■副会長
井上　豊
薬袋　公明
■編集理事
内田　直樹
小島　雄
佐野　吉彦
竹中　統一
畠山　祐治
広原　盛明
松村　慶三
◎宮田　照久
山田　修
■特集小委員会
□計画分科会
★計画系
伊藤　憲幸
梅田　善愛
梅村　宏尚
小浦　久子
※鈴木　克彦
田中　直人
紅谷　昇平
松田奈緒子
横関　真紀
吉村　英祐
★建築計画系
江副　敏史
菅野　忠司
小林　優子
佐藤不二男
桜井　則雄
※笹村　欽也
塚本　史郎
所　千夏
野田　隆史
服部　光宏
吉村　淳二
★インテリア・住宅系
※石川　佳子
石谷　彰敏
加藤　力
北浦かほる
小梶　吉隆
小島　保人
佐藤　勝紀
中村　孝之
中村　雅人
西田　和子
畑　康之
ペリー史子
□構造分科会
岩永　速典
※大氏　正嗣
金田　興熙
河野　隆史
木下　隆嗣
岸本　一蔵
佐治　明志
園田　隆一
田中　剛
田辺　太一
陶器　浩一
松村　和夫

□設備分科会
梶井　宏修
河津　隆之
近藤　国夫
※近藤　正一
田ノ畑好幸
西岡　道雄
野口　太郎
桝井　貴廣
村上幸三郎
谷津　和久
山根　敏和
□施工材料分科会
※植田　実
小椎八重猛
竹中　秀文
太刀川丈爾
十倉　毅
能美　敏男
増田　信久
□法令分科会
伊勢　照男
衣笠　春幸
黒木　省二
※椎名　辰之
西　輝行
■作品作風小委員会
△赤木　隆
淺尾　宏
朝倉　一晃
居内　章夫
井上　雅祐
川上比奈子
倉渕奈千子
寺岡　宏治
中村　文紀
前川　治彦
増田　敬彦
増田　俊哉
山田　俊紀
吉田　健二
■会員企画小委員会
稲木　裕子
大谷由紀子
河崎　敦子
△高岡　伸一
高田　光雄
高橋　麗子
辰巳　清一
塚口　明洋
辻川ひとみ
福田　瑞穂
■広告企画小委員会
小幡　義明
加納伸太郎
小山　昭
斉藤　治久
田淵　博昭
△武田　修示
千葉　耕作
平松　勉
福西　廷招
前田　衛
渡邊　浩文

◎委員長　△副委員長　※幹事

印　刷　2000年10月25日
発　行　2000年11月1日
発行人　社団法人日本建築協会
発行所　社団法人日本建築協会
大阪市北区梅田1-1-3-2100
電　話　06-6348-0635
振替口座　00910-9-39975
印刷所　青葉印刷株式会社
日本データネット株式会社
定　価　1200円〔本体価格1143円〕

CONTENTS

特集●　私の空間作法—会員作品—

下京の町屋●森村政悦 — 18
公園前の住宅●岡崎善久 — 19
東大阪の住宅●阿久津友嗣 — 20
小林の家●安田憲二 — 21
RE-SOUL清水谷●田中啓文 — 22
サトー㈱本社ビル●岩下博美・小島富士夫 — 23
橿原神宮崇敬会館●日浦啓充 — 24
上野芝の家●木原千利 — 25
帝塚山学園エントランス広場●中西富仁広 — 26
堺刃物伝統産業会館●中原文雄 — 27
八尾の家●一尾晋示 — 28
竜田川の家●歌　一洋 — 29
OD邸●前川治彦 — 30
石井・城の内の家●新居照和&ヴァサンティ — 31
丹波篠山渓谷の森公園●才本謙二 — 32
愛東町総合福祉センターじゅぴあ●藤城義丈 — 33
巽病院介護老人保健施設●塚口明洋 — 34
RESTRUCTURAL CAGE●貴志雅樹 — 35
御影の家●小南一郎 — 36
T's style●池上　明 — 37
東大邸タウン東光苑●美濃吉昭 — 38
錦見の家●村重保則 — 39
西陣の町家●長瀬博一 — 40
晴美台の家●村田直人 — 41
吉野の家●岩本貞幸 — 42
上月町幕山センター●上谷重男 — 43
鳥見町の家●藤山利夫 — 44
S邸●松田憲夫 — 45
松利ビル●志村公夫 — 46
大覚寺ライトスケープ'99—雅と華●村上幸三郎 — 47

特集●　21世紀の高齢者の居住環境

[座談会]
高齢者の居住環境づくり
出席者●服部万里子／佐伯博章／後藤義明／司会・田中直人 — 60

[事例ルポ]
特色ある高齢者福祉施設を訪ねて
□老人保健施設　みあ・かーさ — 67
□特別養護老人ホーム　愛知たいようの杜 — 68
□ウエル・エイジング・プラザ　奈良ニッセイエデンの園 — 70
□特別養護老人ホーム　K-maisonときめき — 72
□介護専用型有料老人ホーム　ナイス・ケア大和田 — 74
□小山田福祉施設群 — 76

[アンケート]
運営者に聞く高齢者福祉施設の課題と展望
—アンケート調査に見る建築関係者へのメッセージ—●田中直人 — 77

会告
「日本建築協会80年史1917～1996」増刷決定！頒布予約開始.臨時総会議決報告.第46回工高生デザインコンクール入選者発表—設計課題：地域に建つ「郵便局」—.2000建築関係団体合同忘年懇親会.2001建築関係14団体合同新年交礼会.講演記録集「話のはなし」残部頒布します！.30'sEYE㉞丸谷勝也「のりツッコミ」でいこう！.近代建築見学会⑪大阪市立愛珠幼稚園を訪ねる.読者と織りなす“たて糸よこ糸”. — 1

作品作風
洲本市健康福祉館 — 6
オムロン京都センタービル — 8
ホテルモントレ大阪（マルイト西梅田ビル） — 10

gallery
環境を建築する（清水泰博）●前川治彦 — 12

Sketch Book
各地にみる建築作品8点 — 14

建築の眼
家とイエ●辻　正矩　都名所巡りの系譜●富山育子
人と自然についての一考●遠松展弘　中間検査●松岡昭吾 — 16

法令コーナー
京都市土地利用の調整に係るまちづくりに関する条例●和田豊志 — 49

構造の頁
再生骨材の現状●伊藤信孝 — 50

設備の頁
日本のディスポーザーの現状●鎌田　久 — 51

施工材料の頁
焼却灰・下水汚泥を再利用した外装壁タイル●新井一彦／柳田克巳 — 52

REPORT
舞洲でアラビアンナイトの世界？をのぞく●植村典人 — 53

基礎講座A
最新の同窓会だよりと文章チェックリスト●山田　修 — 54

基礎講座B
非常警報器具・非常警報設備—1—●西尾　勇 — 55

information
村野藤吾建築設計図展.「草のちから、藁の家」.ART BOX NAGOYA2000.国際学生照明デザインコンペ.「Archi-space2001」建築100人×100冊展.青年海外協力隊、平成12年度秋の募集.大阪まちなみ賞等の表彰式.エコプロダクツ2000.Japan Home Show2000.建設省建築研究所平成12年度秋季講演会.ロレアル賞連続ワークショップ2000「色」.「インテリアプランニング賞2000」入賞作品決まる. — 56

月間の動き
平成12年8月分 — 58

南側正面アプローチ

▼エントランスホール



▼保健センター待合（2〜3階吹抜け）



作品
作風

設計・監理■
昭和設計

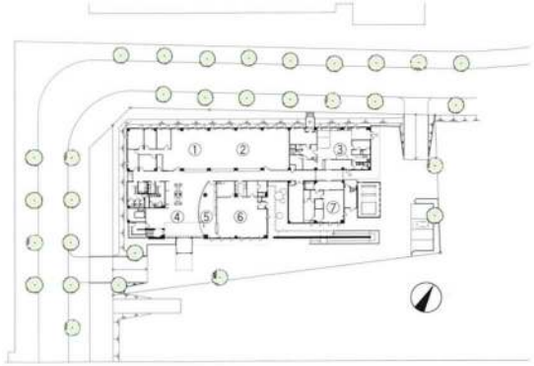
施工■
淡路土建

洲本市健康福祉館

煉瓦工場の再生という明確な主題を持つ修景エリアである洲本市港地区は、一連のロマンチックな雰囲気をもつ市民ゾーンを形成し観光客の誘致や市民へのサービス、ひいては市の対外的な顔としてイメージを展開しています。この一画に港埋立による用地を得て「保健・医療・福祉」の総合施設「洲本市健康福祉館」が建設されました。「煉瓦」という年月により増強された素材に対してはいかなるデザインも抗しがたく、外観のテクスチャーはこれに迎合する要素としての割肌タイルに、素材としての力をもつRC打放しとアルミ・ガラスという現代表現を組み合わせています。これらの要素は何れも先行の建築群に使用されているもので、例えば屋上の設備隠しの金属ルーバーは淡路瓦の屋根の濃銀灰色というように、隣接する素材や色彩を引用することに徹して、景観に突出することなく馴染ませているつもりですが、これに原風景としての港にちなんだ「船の丸窓」のモチーフなどを組み入れて、古っぽくて新しい「抑えた個性」を盛り込むことを目指しました。

平面形は中廊下を原型とした単純なものですが、ブロックを割って中庭を作り込み、小さな2層の吹き抜けを1～2、2～3と段階的に配置して天窓光を落としたり、車椅子のスロープや周囲の煉瓦風景が楽しめる展望EVなどユニバーサルな要素も含めて、空間の変化を楽しめる構成に努めています。特に2階は保健センターとして赤ちゃんからお年寄りまでの検診機能を持つため、壁面のモニュメントや家具の張り地を含めて「素朴ななかに柔和で洗練された色がちりばめられた空間」を心がけています。ハードな要素とソフトな要素の対比で、より優しさが強調されるインテリアを意図しました。

（池本　裕・松村文代・楊　裕茂／昭和設計）



配置図兼1階平面図　1：1800

①福祉事務所
②保健センター事務室
③休日応急診療所
④エントランスホール
⑤展示コーナー
⑥訪問看護ステーション／ヘルパーステーション／在宅介護支援センター
⑦身体障害者歯科診療所

所在地 ——兵庫県洲本市港1-1
敷地面積 ——2,933.082㎡
建築面積 ——1,360.171㎡
延床面積 ——3,539.808㎡
構造規模 ——RC、3F
工　期 ——1999年2月～2000年3月
最寄駅 ——洲本バスセンター
撮　影 ——松村芳治


東側外観ーブロック化により表情をつくる


西側アルファビア美術館との景観


2階機能訓練室

▼2階ロビー





北側外観（夜景）


北側低層部外観及びピロティ型公開空地


南西部公開空地と排気塔

作品
作風

設計■
アーバン・エース
安井建築設計事務所

監理■
アーバン・エース

施工■
大林・竹中・日本国土共同企業体

オムロン京都センタービル

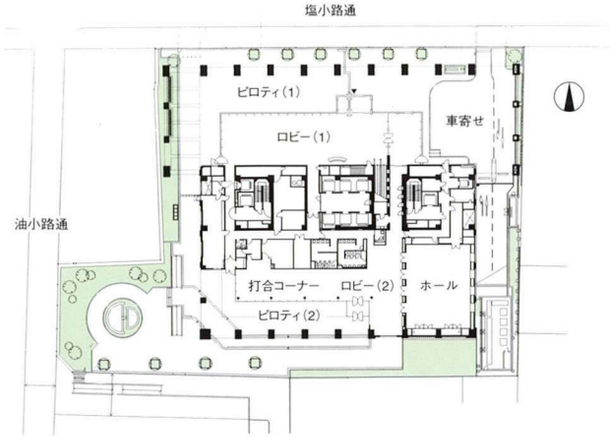
「オムロン京都センタービル」は「京都駅地区土地区画整理事業」区域の西端に位置し、阪急電鉄株式会社が建築主として建設し、オムロン株式会社及びそのグループ会社が世界拠点として全館入居するオフィスビルである。

計画を進めるにあたって、総合設計制度の適用を受けて、ビルの足元まわりに地域住民が憩える緑豊かな公開空地を広く配置し、31m高度地区に1段高い地上45mのビルを建設することにより、京都駅前北西地区のランドマークとすると共に同地区の良好な街並み・環境形成に貢献することを基本方針とした。

外観は、1，2階の低層部に石造りの基壇部を設けオムロンの安定性を、3階以上の高層部は大型タイル打込みのPC版で変化のある格子状の壁面として京都らしさとオムロンの先進性を表現した。

内部は、1，2階を接客フロアとし、3階以上を執務フロアとして南北に各々約1,000㎡の無柱の執務スペースを確保し、中央に縦動線等を配置したセンターコア形式とした。また、環境に優しいビルとして、非常用発電機兼用のガスコージェネシステムや氷蓄熱システム及び生ゴミ処理や井水利用等の設備の導入を行った。

（杉本正三／アーバン・エース）



配置図兼1階平面図　1：1400

所 在 地 ―― 京都市下京区塩小路通堀川東入
敷地面積 ―― 4,763.98㎡
建築面積 ―― 2,899.20㎡
延床面積 ――36,232.88㎡
構造規模 ――SRC、S（3Fより上部）、B2F、11F、P2F
工　　期 ――1998年7月～2000年7月
最 寄 駅 ――JR京都線・京都駅
撮　　影 ――山本冨實成（ヤマモト写真工房）

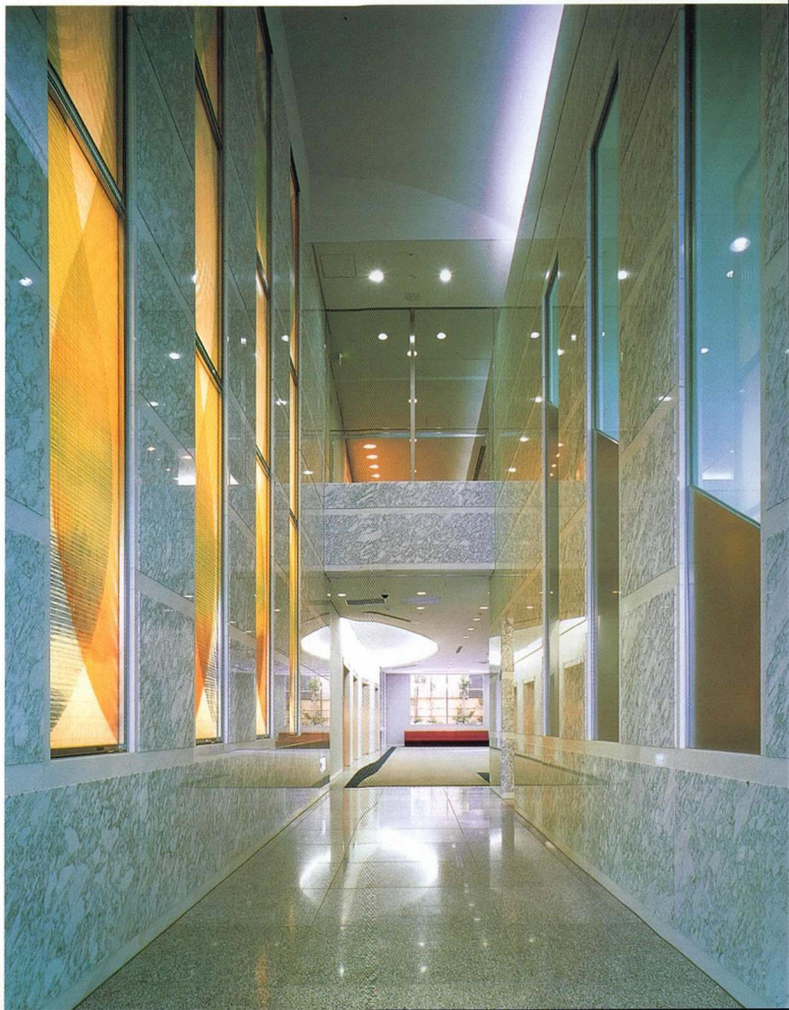


北側ピロティとガラス越しに見るエントランスロビー



エントランスロビー

▼1階南側へのアプローチ空間




HOTEL MONTEREY OSAKA

作品
作風

設計・監理■
レールシティ西開発・大林組

施工■
大林組・大本組共同企業体

ホテルモントレ大阪
（マルイト西梅田ビル）

「ホテルモントレ大阪」は、本物志向のクラシックホテルとして全国展開するモントレシリーズ・関西地区の拠点として、JR大阪駅前、オオサカ・ガーデンシティの一角に建設された。同シリーズでは毎回異なるテーマが設定され根強い人気を得ているが、今回はウィーンを中心としたハプスブルグ帝国に出典を求め、この時代の持つ精神・様式を積極的に取り入れている。

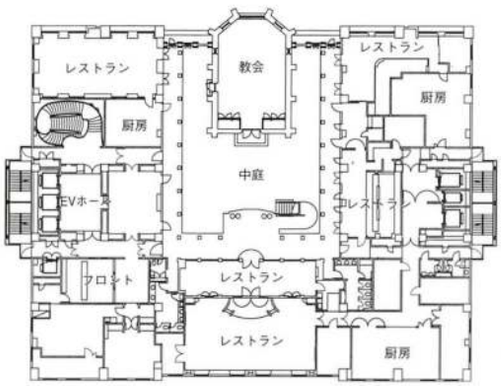
外観は、マリアテレジアイエローを基調としたウィーンの伝統的な配色を採用し華やかさを演出する一方、吹付木鏝塗装によりやわらかで落ち着いた風合いの仕上げとしている。

メインとなる８Ｆ中庭には、現存する小さなゴシック教会＜Chapel Goedele＞を再現した。この教会を取り囲む形で、広場、回廊、カフェ、レストラン、城壁跡を配置、ヨーロッパの街が教会を核として成立してきた歴史を表現している。

内部空間は、部屋と部屋の連続で形成されるヨーロッパの邸宅をベースに組み立てられている。また、ホテルオーナーと共にヨーロッパ現地にて購入したアンティーク家具を随所に配置し、これを中心としてインテリアデザインを展開している。

ひとつひとつ丹念に造り込まれた空間には、ここを訪れる方々の物語が刻み込まれ、年月を経てなお、末永く愛され続けるホテルとなることを願っている。

伊藤直幸（建築担当）、三好誠人（インテリア担当）／大林組

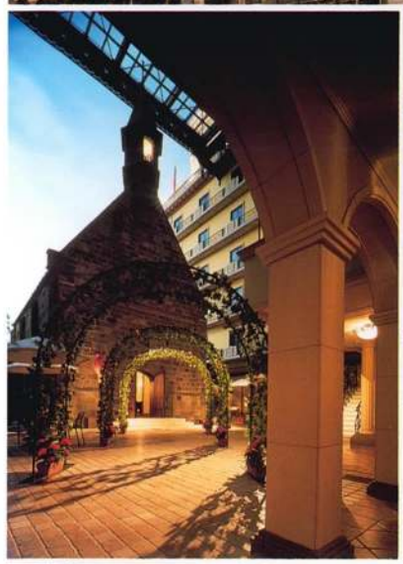


8階平面図　1：800

所 在 地 ――大阪市北区梅田３丁目３番45号
敷地面積 ―― 2,644.33㎡
建築面積 ―― 1,843.19㎡
延床面積 ――23,217.37㎡
構造規模 ――S＋SRC、14F、B2F、P1F
工　　期 ――1997年10月～2000年２月
最 寄 駅 ――JR大阪駅、阪急・阪神・市営地下鉄梅田駅
撮　　影 ――末廣久詔（エスエス大阪）、安川　正（内田写真）

左頁：北側外観見上げ
右頁上より、北面遠景／（左）8階中庭より教会を見る／（右）8階教会／8階ドローイングルーム／客室インテリア











gallery

環境を建築する

環境建築家
清水泰博

建築外構と言われる建築をとりまく「外部空間」も建築のように考えられないか。橋や公園などの土木構造物や空間も「環境建築」と考えれば面白くできるのではないか。そんなことを考えて空間のデザインをしています。
建築だけが魅力的で、外に出れば興ざめしてしまうことのないような外部空間、公共空間を創れないか。そこでテーマとするのは「感性に訴えかけるような空間」。
自然の水や風や光、また影や音を使って空間を構成していくことによって、街に単に彫刻を置くのではないかたちで、新たな風景（ART SCENE）を作り出せればと思っています。

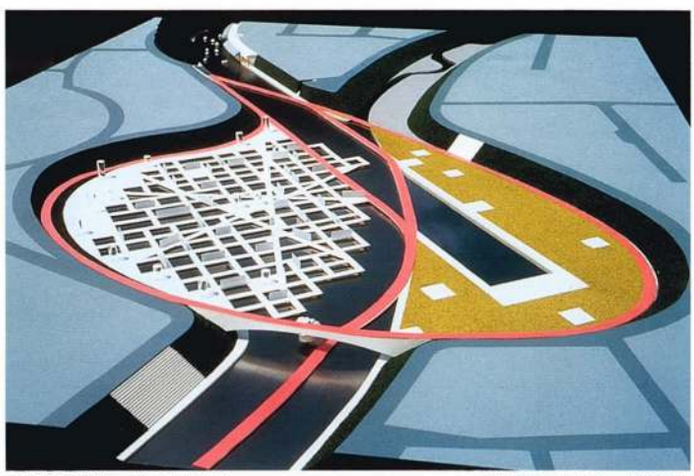


西宮市平和モニュメント「平和の交響」1996～水の像を作る

清水泰博（きよみず やすひろ）
1957年　京都市生まれ
早稲田大学理工学部建築学科卒業
東京芸術大学大学院修了（環境造形デザイン専攻）
黒川雅之建築設計事務所を経て独立
1987年　SESTA　DESIGN設立
1991年、1995年　環境芸術大賞受賞
都市環境デザイン会議会員
現在　SESTA DESIGN代表。東京芸術大学、京都市立芸術大学非常勤講師
撮　　影―平井広行（左下）
　　長町凌志（左上）
企画編集―前川治彦（作品作風小委員会）



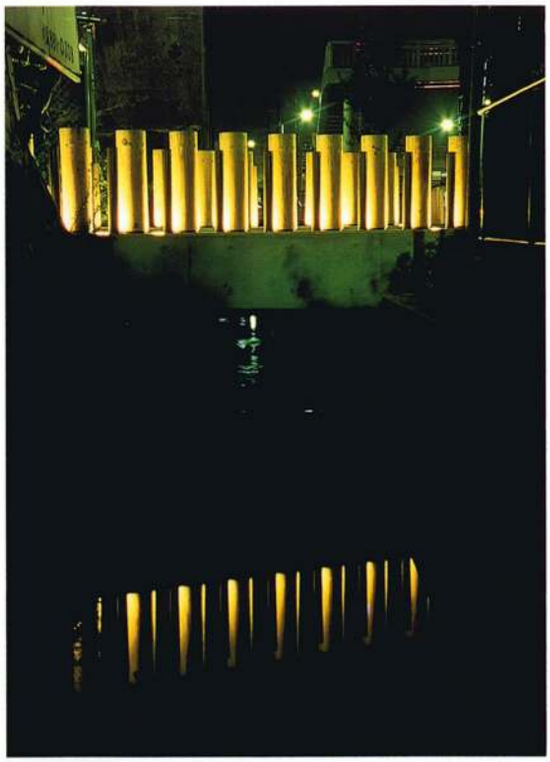
立川「URBAN FOREST」～都市の虚構の森　（環境芸術大賞88・佳作受賞）



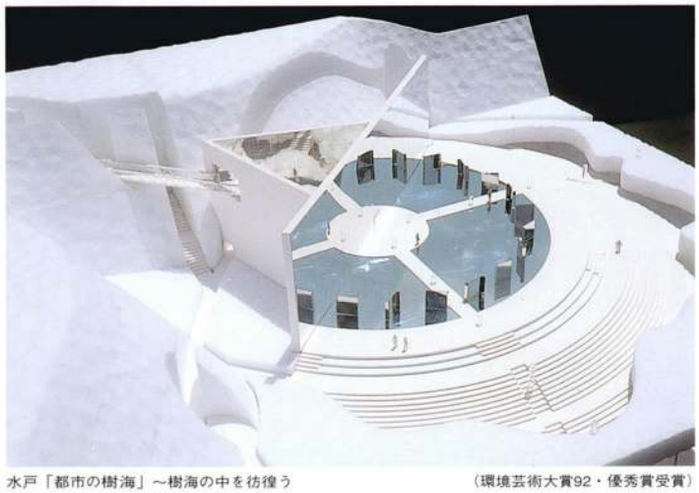
三島「水の道」～川の上を歩く　（環境芸術大賞91・大賞受賞）



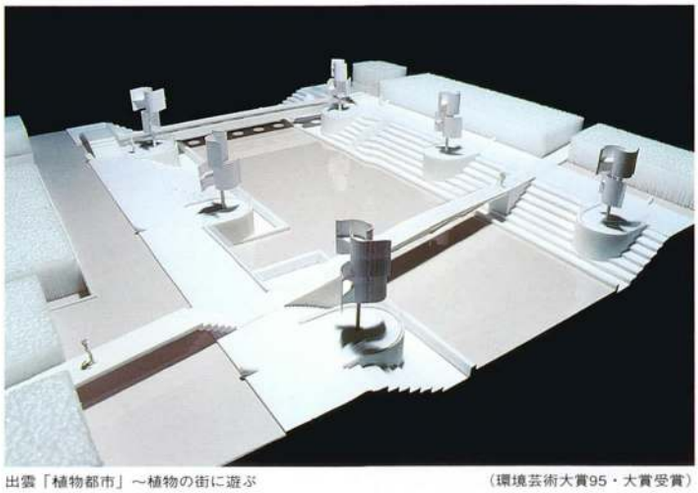
三島「月見橋」1995～光るアーチ



神戸「水あかり（船寺第二橋）」1994～闇に浮かび上がる列柱



水戸「都市の樹海」～樹海の中を彷徨う　（環境芸術大賞92・優秀賞受賞）



出雲「植物都市」～植物の街に遊ぶ　（環境芸術大賞95・大賞受賞）



2732

2732 青垣町営特定公共賃貸住宅 応相寺団地

設　計：昭和設計
施　工：熊谷・開田特別共同企業体
a. 兵庫県氷上郡青垣町中佐治字應相寺361, 364
b. 5,479.73㎡
c. 合計 969.28㎡
d. 合計 1,465.98㎡
e. W、２F、１戸建て14戸（３タイプ）
f. 平成11年２月～平成12年３月

応相寺団地は、「青垣町生涯学習のむら」の第１期となる計画である。
各住戸には、創作・趣味のためのスペースとして「通り庭土間」・「キッチン土間」・「玄関土間」の３種類の土間をタイプ別に設けた。また、小さな子供をもつ若い世帯を主な対象としているため、可動間仕切による家族構成の変化への対応や、地場産木材・珪藻土など自然素材の多用による健康への配慮をすると共に、オール電化により安全性・機能性を追及している。
屋外では、リビングや土間に連続したデッキテラスを設け、豊かな自然を生活空間に取り込む計画を行った。また、団地共用空間が住民同士の日常的なコミュニティの場となるよう、玄関アプローチ・デッキテラス・花壇やベンチ等、各住戸の顔となる部分をこれに向けて配置している。



2733

2733 新金岡－Ａ団地一般分譲住宅

設　計：熊谷組大阪支店
施　工：熊谷組大阪支店
a. 大阪府堺市新金岡町５丁1005－１及び1004－２
b. 2,050㎡
c. 1,301.62㎡
d. 6,270.17㎡
e. SRC、14F
f. 平成10年８月～平成12年２月

この建物のコンセプトとしては、「良好な住環境の形成」「住宅居住性の向上」「良好な住宅ストックの形成」の実現としプラン作りを行った。
外観デザインは、駅前という立地からランドマークとなるアイデンティティのある建物をテーマとし高層化させ、格子と水平線を強調したシャープなシルエットで塔をイメージさせた。建物構成は、１階に郵便局と住宅エントランス、２階から14階を１フロア４戸の住宅（14階は１フロア２戸）とし、全ての住戸を独立性の高いポーチ付の大型住宅とした。
住戸計画は、幹線道路に面する部分を騒音対策を施し、健康住宅をキーワードに住環境の向上に努めた。
当建物が、住まう人だけでなく、新金岡地区の人々においてもシンボル的なものになればと考える。


2734


2735

2734 津田くにみ坂　風見の丘 第１期分譲

設　計：大阪府住宅供給公社建設課
施　工：積水ハウス・ミサワホーム・近鉄不動産・昭和工務店

a. 大阪府枚方市津田山手１丁目
b. 5,064.80㎡（平均187.58㎡）
c. 1,938.26㎡（平均71.78㎡）
d. 3,327.89㎡（平均123.25㎡）
e. 軽量鉄骨・木質プレハブ・在来木造・ツーバイフォー
f. 平成11年６月～平成12年１月

2735 法音寺　神戸支院

設　計：鴻池組大阪本店一級建築士事務所
施　工：鴻池組大阪本店

a. 兵庫県神戸市兵庫区五宮町82－１
b. 1,829.66㎡
c. 487.36㎡
d. 1,009.98㎡
e. ＲＣ造、２Ｆ、Ｂ１Ｆ
f. 平成11年２月～平成12年３月


2736


2737

2736 コート北野田Ⅰ番館、Ⅱ番館、Ⅲ番館

設　計：錢高組一級建築士事務所
施　工：錢高組大阪支社

a. 大阪狭山市池之原４丁目18－４
b. 15,935.99㎡
c. 4,863.75㎡
d. 29,311.12㎡
e. ＲＣ、８Ｆ、一部Ｂ１Ｆ
f. 平成７年３月～平成12年２月

2737 東大阪市営稲田鷲島住宅１期・２期建替新築工事

設　計：市浦都市開発建築コンサルタンツ
施　工：日産建設大阪支店

a. 大阪府東大阪市楠根１丁目16－１
b. 11,756.37㎡
c. 3,037.63㎡
d. 15,148.26㎡
e. ＲＣ及びSRC
f. 平成７年12月～平成９年５月（１期）
平成10年３月～平成12年３月（２期）


2738


2739

2738 山口県立周南養護学校新築工事

設　計：双樹設計
施　工：洋林建設、アキタ建設共同企業体

a. 山口県徳山市久米752番地４
b. 27,310.35㎡
c. 3,711.97㎡
d. 8,044.53㎡
e. ＲＣ、３Ｆ（一部Ｓ）

2739 兵庫県立神戸高等学校校舎第Ⅰ期建築工事

設設・監理：兵庫県まちづくり部営繕課
施　工：新井組

a. 兵庫県神戸市灘区城の下通１丁目５－１
b. 神戸高校敷地内
c. 講堂棟1,496.73㎡、科学館棟692.89㎡、渡廊下棟50.47㎡
d. 講堂棟2,435.06㎡、科学館棟2,560.38㎡、渡廊下棟46.56㎡
e. RC（一部S）Ｂ1Ｆ・3Ｆ RO5Ｆ、RC2Ｆ
f. 平成10年９月～平成12年３月

凡例

a. 所在地
b. 敷地面積
c. 建築面積
d. 延床面積
e. 構造規模
f. 工期

ARCHITECT's EYE

家とイエ

辻　正矩

家という字は宀に豕と書くが、これは豚が飼われている建物に由来するという。日本で豚を飼い始めたのはそれほど古いことではないから、古代においてこれに該当するような建物はなかったろう。穴という字も屋根の形を表す宀と、左右二つに分けることを意味する八からなっており、土を掘りわけてつくった洞穴を表している。

一方、イエという言葉は古くはイヘといい、その語源についてはイは発語でヘは竈(カマド)をさすという説や、寝戸(イヘ)からきたという説などあるが、イハという言葉が転じたという説もある。イハは岩窟(イハヤ)のことであるから、家よりも穴の字の方がぴったりする。

ボルネオ島の先住民イバン族のロングハウスに泊まったことがある。ロングハウスというのは棟の長さが30mほどもある高床式の共同住宅で、十数家族が住んでいる。各住戸はルアイとよばれる５mほどの幅の広い廊下に面しているが、ここはマットや篭などを作る作業場として使われるが、子どもたちの遊び場、主婦の子育てやおしゃべりの場でもある。夜は風通しがいいので寝間にもなる。床板の間にすき間があり、住人はごみや食べものをこのすき間からポイポイと捨てる。床下には、豚や鶏などの家畜が飼われており、人間の捨てたものを食べている。彼らは自然界のスウィーパーだ。家という字のルーツはこんなイエだったのだろうか。

大阪工業大学建築学科教授

都名所巡りの系譜

冨山　育子

11月には紅葉を楽しまなくてはならないが、京都には名所がたくさんあって忙しい。京都の名景は、風景そのものの美しさはもとより、意味を担い、鑑賞する人に豊かなイメージを喚起させる。さらに、名景を含む名所とは、現実の地ではあるが、伝説や物語など人々の共有するイメージが形成される場である。その名所巡りの指南本は、古くは絵巻物や名所図会から近くはタウンガイドに及ぶが、物見遊山の輩は、ものの見方のノウハウを図書から学習して、感動を追体験するという行為にこそ価値を見いだしてしまう。

このように考えると、名所は、見方という美的記憶の集合体の蓄積装置であり、景色を鑑賞することも芸術的行為であるといえる。京都の名所はこのような性格が特に顕著であり、蓄積された見方は、日本的なものの見方の指標とされてきたのか、京都の風景になぞらえた景観に他都市で出会えることもある。

誰にも頼まれたわけではないが、名所の見方を考案する意義があるとしたら、「見型を知ることは見せ方を知ること」即ち新しい名所づくりや魅力ある散策路を形成するに当たっての普遍性のある知見を求めるものであろうか。

秋の夜長の知的ひまつぶしにつらつら考えると、仮説の実証のためのプロセスの難しさに行き当たってしまった。これで当分楽しめそうである。

京都市都市計画局建築指導部審査課

人と自然についての一考

遠松　展弘

鹿児島に行った。いつものように空港に着陸する時、機内に映し出されるモニター画面を見入っていたら映像が霞んでいた。レンズが曇っているのかと思いきや先日の噴火の影響と言うことであった。市内に入ると道路には大粒の火山灰がまだあちこちに薄く積もっており、今回の降灰がただ事でなかったのが見て取れた。目撃者の話でも外にいて体に当たると痛いほどの降灰であったとのこと。当日の亜硫酸濃度も恐らく、公害で有名な国道24号線沿いの数倍はあったと考えられる。一過性のこととは言え、このような環境の中で数百年前から多くの人々が住み着き、人口55万人の大都市に発展してきたこと自体不思議だ。普段は東洋のナポリと称されるように、桜島の浮かぶ錦江湾や緑豊かな城山等風光明媚を絵に描いたような都市ではあるが、呼吸器系疾患の人には厳しい環境である。鹿児島市が費やす降灰対策費も大きな負担と思うが、相手が桜島ではどうにもならないと言うことか、大変ですとはよく耳にするがどこかに移りたいという話はまず聞いたことがない。人間と土地との不思議な結びつきを垣間見る思いがする。先日来、出張の度に大雨、地震、噴火と自然災害の余波を受けて右往左往の日々となっているが、今更ながら自然と共に暮らすと言うことはこう言う事かと思い直し、日夜仕事に勤しむ事としている。

日建設計取締役大阪本社副代表

中間検査

松岡　昭吾

今回の建築基準法改正で中間検査制度が導入されました。

アメリカではインスペクターと呼ばれる施工検査の専門官がおり、建築、機械、電気、衛生、消防、保健所等の各部門から工事中、週１回程度現場の検査に来ます。

インスペクターは大きな権限を持っており、単に設計図書との整合性の検査だけではなく、図面審査で許可が下りていても現場の状況で許可内容を覆すことも多々あります。

従ってインスペクターといかに上手く付き合っていくかという事も現場監督の重要な能力の一つになっています。

私自身、事務所の内装工事で竣工間際に避難経路の解釈の違いから、消防のインスペクターに避難廊下を追加させられた苦い経験があります。

図面審査の担当官と一緒に消防のインスペクターの説得に努めましたが頑として聞き入れてもらえませんでした。

また自宅の屋根を葺き直しただけで、市のインスペクターが検査に来て屋根だけでなく家の中も検査し、その結果、火災報知器の電池が切れて作動していないことを指摘され、電池交換後再度の検査を受け直したこともあります。

この様な厳しい施工時の検査制度はアメリカでは長年定着していますが、今後日本においても中間検査や設計監理といった施工時の品質管理が重要な役割を占めてくるものと思われます。

鹿島建設㈱建築設計部長

建築の眼



私の空間作法

日本建築協会■会員作品特集



本会会員の作品をお届けします。本年は30作品もの応募があり関係者一同うれしい悲鳴を上げています。作品作風欄には掲載されにくい作品が多いのが本特集の特徴で、戸建住宅を主とし、バラエティーに富んだ作品が応募されています。この特集が会員皆様の参考になり、刺激となって、さらなる研鑽努力の契機となりますよう、念願しております。

編集委員長　宮田照久

企画　作品作風小委員会

掲載順については、作品作風小委員会の編集方針により決めさせていただいております。

光にゆれて

森村政悦　森村政悦建築設計事務所



外観見上げ（※）

この建物は、昔ながらの木造住宅の建替として計画された。隣接する木造住宅の外壁を境界線とした敷地は、前面道路を南側に、南北に伸びる間口4.4m奥行き13.6mからなる。
階段室を軸に南北に貫通したスリットは、パンチング階段や、床材にファイバーグレーチングを使用し、ポリカスクリーンを開閉することで、風通しや彩光、温度調節を、屋上のグラスハウスを通じて機能させた。
しっくい調に施された外観は、内部機能をそのままに、水平垂直に伸び、刻々と変化する環境に対し、軽快な浮遊感と共に、住まい続ける可能性を求める結果となった。

（森村政悦）



外観全景



2階階段室よりPHを見る



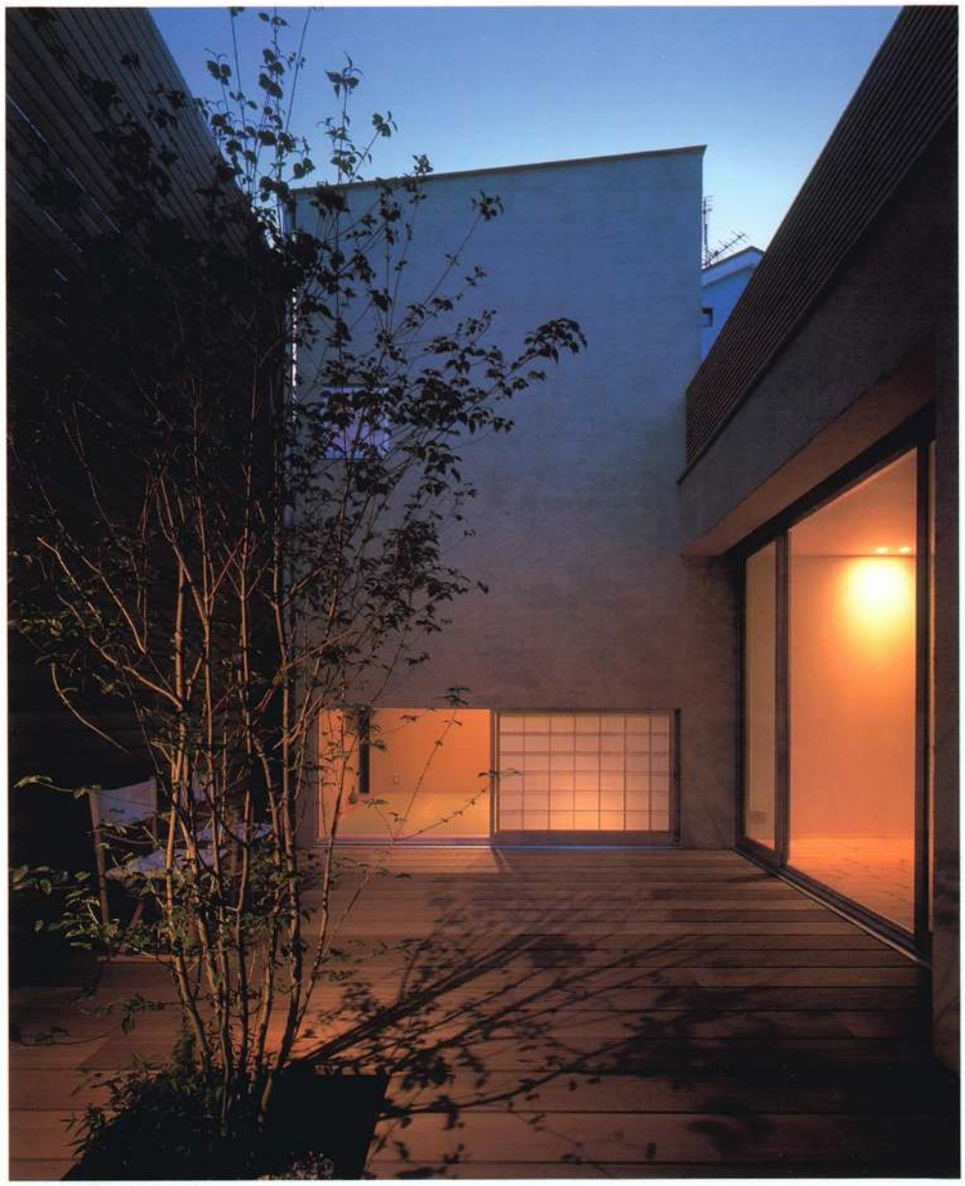
PHテラスを見る

■下京の町屋

所 在 地　京都市下京区
施　　工　公成建設
敷地面積　61.49㎡
建築面積　45.30㎡
延床面積　95.28㎡
構造規模　RC、2F＋PH
竣　　工　1999年10月
撮　　影　植田三代治、和澤一幸（※）

コートの見え方

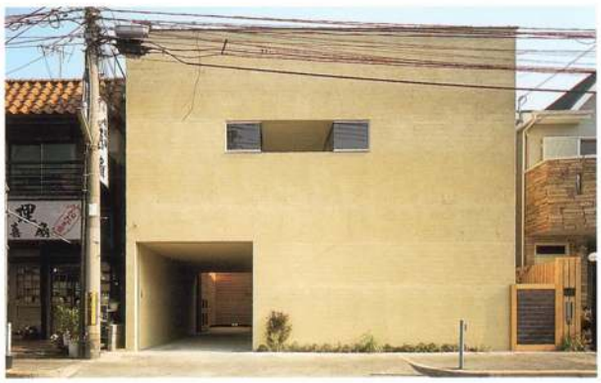
岡﨑善久　岡﨑善久建築設計事務所



コートから離れの和室を見る



キッチンダイニングからデッキを望む



ファサード（シャッターを開けるとコートが見える）

昨年、この特集で掲載して戴いた「安中町マンション」から、歩いてわずか2、3分のところにこの住宅はある。先の工事中、よく利用していた喫茶店でこの施主とは知り合い、仕事をすることになった。敷地の向かい側には公園があり、それにちなんでこの住宅を公園前の住宅と名付けた。この住宅が公園前の通りに相応しいような、穏やかな佇まいのあるものになればとういう願いが込められている。しかし公園がこれほど近くにあるというのに、この付近も雑然としているのが事実である。したがってこの住宅は都市住宅によく用いられる手法であるコートハウスを採用した。

敷地は40坪程ではあるが、建物を2棟に分けて、庭の2方を建物で、残りの2方を塀で囲ってコートヤードをつくっている。塀は建物の高さに合わせているが、鉄骨の柱に南洋材のセランカンバツを目を透かしてはり、周辺の建物を視線から遮断しながらも、隙間から光が漏れ、風を通して、柔らかに中庭を包んでいる。ダイニングと和室をこの中庭に向かって大きく開き、さらに床高と同じ高さにデッキを据えることで、空間が外部と連続し、広がっている。また、シャッターの扉を開いたときに垣間見る中庭の緑を意識して、駐車場の天井や内壁を正面の外壁と同じ仕上げとして、四角くシンプルに抜けた開口部のようにしている。些細なことだが、奥行きと開放感のある町並みづくりに貢献しているのではないか。

（岡﨑善久）

■公園前の住宅

所 在 地　大阪府八尾市安中町
施　　工　建築工事プロデュース研究所
敷地面積　142.88㎡
建築面積　 85.30㎡
延床面積　143.10㎡
構造規模　W、2F
竣　　工　2000年４月
撮　　影　福澤昭嘉

鉄骨造

阿久津友嗣　阿久津友嗣事務所



3階インナーテラス

建物の間口は僅か4m。正面向かって左から90㎝までを収納を兼ねた耐力壁とし、残り右側3.1mには耐力壁を一切設けず最大限の開口を取る。直交する長手方向の柱スパンは@1.8mで敷地の奥まで柱を均等に並べていき、隣家も迫っていることだし長手側には開口部をあまり取らない。と、ここまでは今まで木造で何度か試みてきたやり方と大差ない。一番の違いは私にとって初めての鉄骨造だったこと。木造の意識で始めていたものだから、スパンが木造的でやたら小さい。柱梁全て150㎜のH鋼で組むことができたのはそのためである。鉄骨で壁芯々90㎝の階段、1階階高2510㎜などという芸当も、この均等小スパンによる鉄骨ピン構造の恩恵によるものである。

（阿久津友嗣）



道路からの全景



3階食堂

■東大阪の住宅

所 在 地　大阪府東大阪市
構造設計　下山建築設計室　下山聡
施　　工　勝部建設
敷地面積　106.07㎡
建築面積　61.06㎡
延床面積　182.74㎡
構造規模　S、3F
竣　　工　2000年4月
撮　　影　福澤昭嘉

格子の囲い

安田憲二　安田憲二建築事務所



車や人の往来が比較的多い住宅地に建つ、夫婦と、成人した子供3人、おばあさんのための住宅である。敷地境界には塀をもうけず、建物の外壁部分で防犯やプライバシーを確保している。外部には、半私的な広場兼アプローチとなるオープンスペースを配置し、建物にひきと奥行きを与え、内部には、外部との中間領域として、格子で囲まれた中庭・坪庭等を配し、外観に反し、明るく風通しのよい空間を獲得している。都市に対して、段階的で曖昧な緩衝領域をもうけることによって、街から隔絶してはいないが、静謐で自然が感じられる、豊かな住まいになることを意図している。

（安田憲二）



外観



中庭と階段



2階廊下とデッキ

■小林の家

所在地　兵庫県宝塚市小林2丁目3-31
施　工　笹田工務店
敷地面積　235.33㎡
建築面積　65.85㎡
延床面積　117.68㎡
構造規模　W、2F
竣　工　2000年4月
撮　影　福澤昭嘉

記憶をつなぐ

田中啓文　田中啓文総合建築研究所



ファサード見上げ



アトリウム

建物を創る時、その土地の記憶を未来につなげていけないものかと、いつも思案を重ねます。
この地には、気持ちの良い中庭のある古い木造アパートがありました。そこでは、この場所に愛着と誇りを持った住民さん達が暖かいコミュニティを育んでいました。
新しい建物では、その中庭を２つの棟をつなぐ空間に置き換え、上階の住居ゾーンでは光庭として、また、下階のオフィスゾーンでは小さなアトリウムとして、自然を感じさせる心地良い空間としました。
また、1200年ほど前難波宮のあった時代の痕跡が周辺より出土している事をふまえ、その時代の街路軸と現在の街路軸に各々沿った面を組み合わせて建物を構成しました。２つの軸には５度のずれがあり、それらが生み出す空間が、時の流れを感じさせてくれればと考えたからです。

（田中啓文）

■RE-SOUL清水台

所在地	大阪市天王寺区清水谷町19-1
施工	冨士工
敷地面積	395.25㎡
建築面積	269.10㎡
延床面積	1,387.47㎡
構造規模	RC、8F、B1F
竣工	1995年10月
撮影	松村芳治

露地的空間としての階段

岩下博美・小島富士夫　大林組本店一級建築士事務所



自然光に溢れた階段室



前面ファサード見上げ



南側外観

・本建物は、「個性豊かなアーバンスモールビル」というコンセプトのもとに計画されました。
・3階まで吹き抜けた直線階段には、トップライトを設け、単なる移動空間としてでなく、社員のコミュニケーションを誘発する光に溢れた露地空間としての機能を付加しました。
・前面ファサードは大きな開口部を設け、明るく開放的な外観とし、本社ビルとしての顔づくりを意図しました。
・エントランス及び来客用駐車場は、緑豊かなアプローチ空間としてしつらえ、建物の密集する周辺地域にアメニティを提供しています。
・外構には、既存の石・瓦・植栽を再利用し、敷地の記憶を継承しています。

（小島富士夫）

■サトー（株）本社ビル

所 在 地　大阪市北区天満4-13-1、2
施　　工　大林組
敷地面積　379.07㎡
建築面積　170.19㎡
延床面積　484.50㎡
構造規模　S、3F
竣　　工　2000年1月
撮　　影　山崎浩治（伸和）

杜に佇む

日浦啓充　奥村組



休憩所土庇廻り



R屋根の重なり



研修場入口夕景

この建物は、神武天皇御鎮座百十周年を迎える橿原神宮の記念事業として計画された。表参道を進むと、一の鳥居の南側に位置し、参拝者が最初に目にする施設となる。

参拝者の休憩所、崇敬者の研修場、宝物の展示室から成る複合用途建物である。外観上から用途ごとの差別化を表現するため、透明ガラス、白御影石、掻き落し仕上と、用途に合わせて外装材を使い分けた。同時に、一つの建物としての統一感を保持出来るよう、全体を覆う瓦屋根にデザインの重点を置いた。

神社建築の屋根は無垢板、柿、桧皮、銅、瓦等で葺かれるが、建物の種類によって使い分けられており、本建物は瓦で葺くことが当初から予定された。当計画のようなR形状の屋根を瓦で葺く場合、本瓦が一般的に用いられるが、どうしても寺院建築のようなイメージになり、神社建築には似つかわしくない。そこで、角型の丸瓦と、真平らの平瓦で構成した特注本瓦葺きとした。神社建築古来の屋根形式であり伊勢神宮にも多く見られる無垢板による瓦棒葺きを瓦で表現したものである。落葉による詰まりが予想されるのと軒先のディテールが甘くなるので軒樋を設けていないが、人が通行する部分には雨雫が落ちないよう、瓦にスリットを入れて軒天に内蔵した樋に吸収している。

休憩所部分は参拝者に開かれた施設とするためと、周囲の木々が映りこみ建物が杜に融け込むよう、全面透明ガラスで構成した。（日浦啓充）

■橿原神宮崇敬会館

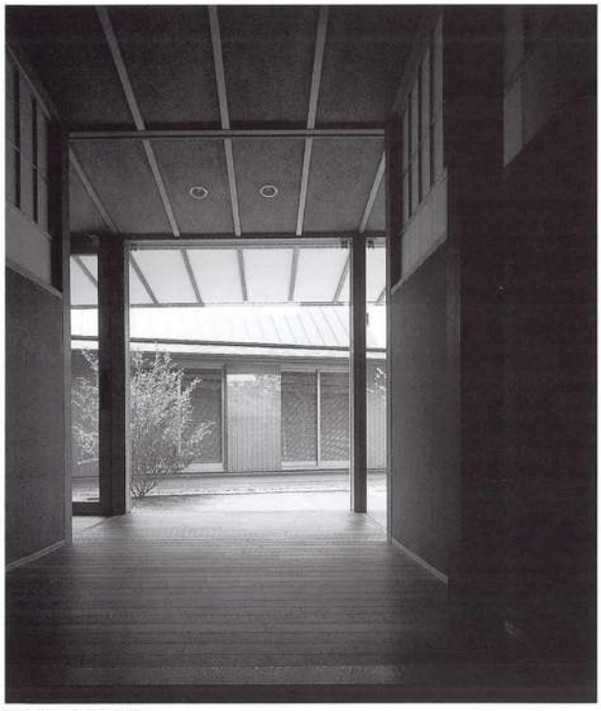
所在地　奈良県橿原市久米町934
施　工　奥村組関西支社
敷地面積　474,365.05㎡
建築面積　2,493.38㎡
延床面積　3,140.31㎡
構造規模　RC（一部S）、PCa、2F
竣　工　1999年11月
撮　影　松村芳治

やすらぎの中庭

木原千利　木原千利設計工房



子供棟と居間・食堂棟をつなぐ中庭



玄関より中庭を見る

大阪近郊にある夫婦と三人の子供のための住宅である。
内と外の仕切として、道路側に大きな曲率のRC造の壁を設け、内側は中庭を取り囲むように建家を配している。この中庭に向かって居間、食堂、子供室が開放され、どこにいてもお互いの様子が確認しあえる守られた空間である。
この家にはもう一つの中庭がある。和室東側にある浅く水を張った池である。芝生の中庭が人が集い遊ぶ空間であるのに対し、外と隔離されたこの空間に、光と風が起こす水面のゆらぎが静寂を感じさせる。こころ落ち着く和室の為のしつらえである。
中庭は、この家に安心感とこころの安らぎをもたらしている。

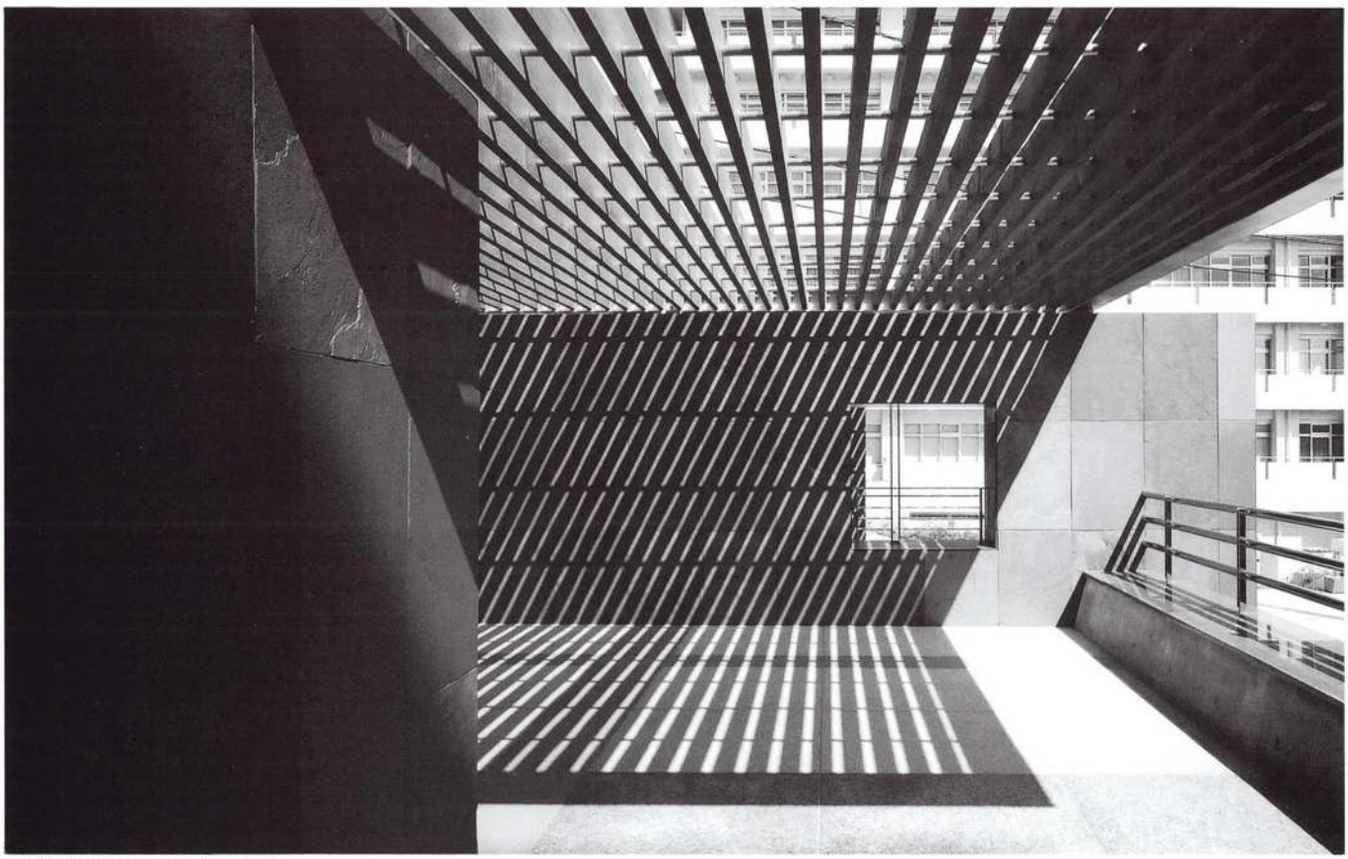
（木原千利、多田雅）

■上野芝の家

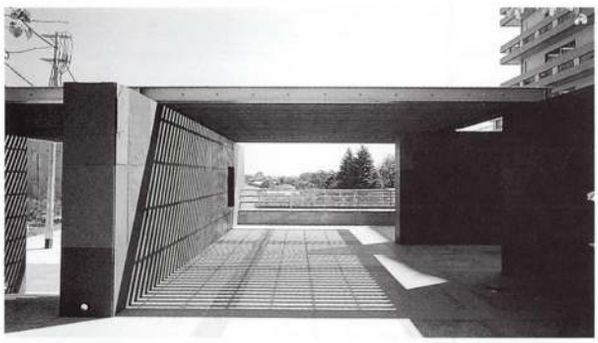
所 在 地　大阪府堺市
施　　工　あめりか屋
敷地面積　614.61㎡
建築面積　226.46㎡
延床面積　246.81㎡
構造規模　W、一部S＋RC
竣　　工　1998年5月
撮　　影　松村芳治

風景との対峙

中西富仁広　東畑建築事務所



小建築は木製ルーバーと玄晶石の壁で構成



奈良盆地への眺望



ベンチ代わりになる大階段

奈良・学園前、帝塚山キャンパス。駅前の再開発事業が進むなか、キャンパスの新しいエントランス広場としての整備が望まれた。

計画地は、三方向を新旧様々な建物に囲まれているが、唯一東側に奈良盆地を縁取る山並みが望める。この眺望を生かし、この風景と対峙するよう、ベンチ代わりにもなる大きな階段と日差しを和らげるルーフルーバーを持つ小建築を配置した。ますます高度利用が図られる校舎群に対して、この風景のもと、日溜まりのなかで学生たちが会話を弾ませ、気持ちよく憩い、また楽しく食事をしている姿そのものが、キャンパスの表情であると考えた。

（中西富仁広）

■帝塚山学園エントランス広場

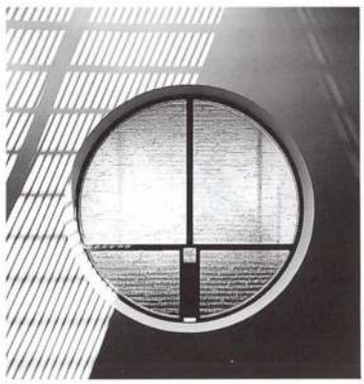
所在地　奈良県奈良市学園南3丁目1-3
施　工　竹中工務店他JV
規　模　広場全体約3,000㎡
竣　工　1999年９月
撮　影　末廣久詔（SS大阪）

消えてゆく線

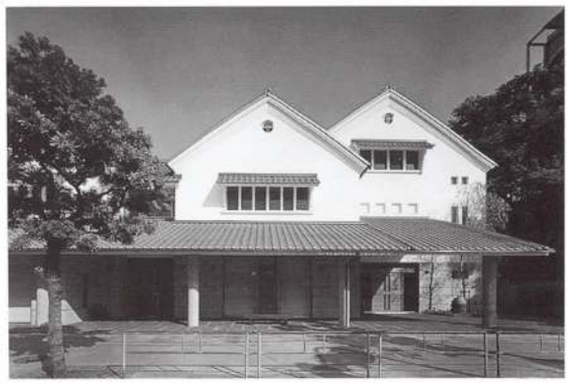
中原文雄　竹中工務店



妻壁の重なり



2階円窓とトップライト



東側正面アプローチ廻り

「消えてゆく線」の集まりとして、建物を想う。大地の中へ、空の中へ、緑の中へ、重なり合って消えてゆく線。
光と陰のさかい目にある優しい線。
生まれてそして消えてゆく線。
そのような線の集まりとして、よきこともあしきことも受けとめ、朽ち果てる姿まで予感する、愛しくて優しい「佇まい」について想う。
（中原文雄）

■堺刃物伝統産業会館

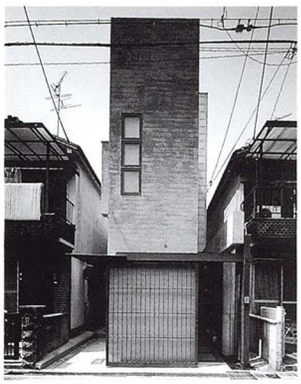
所 在 地　大阪府堺市材木町西1-1-30
施　　工　竹中工務店
敷地面積　617.50㎡
建築面積　478.54㎡
延床面積　884.74㎡
構造規模　RC壁式、3F
竣　　工　2000年７月
撮　　影　松村芳治

光と影のシークエンス

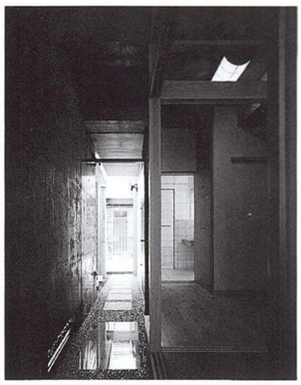
一尾晋示　一尾晋示建築総合研究所



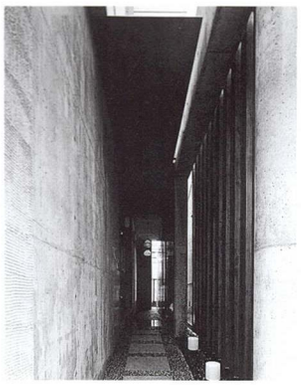
自然素材で構成された通り土間



ファサード



玄関ホール



アプローチ

25年前に開発された、間口2間あまりの長屋が建ち並ぶ、一区画約15坪の建替え計画である。敷地はJR関西本線八尾・志紀駅間のほぼ中央に位置し、敷地南側に線路が接し、木造2階建のもとの住宅は、列車が通るたび、揺れや騒音で打合わせも出来ない状態であった。1階をRC造、2・3階を木造とし、断熱・遮音性の優れた輸入サッシを用い、コスト面を含めた構造的解決を図った。

建物は、御影石と那智黒石の洗出しや杉の列柱が玄関・土間へと続き、外部から内部へのアプローチ空間の露地に一体感を持たせている。1階に和室と水廻り、2階にLD、3階に寝室を配置し、内装は桧の縁甲板・和紙・珪藻土等、自然素材で仕上げている。

（一尾晋示）

■八尾の家

所 在 地　大阪府八尾市南本町
施　　工　辻本工務店
敷地面積　50.57㎡
建築面積　29.74㎡
延床面積　80.37㎡
構造規模　W（一部RC）、3F
竣　　工　2000年5月
撮　　影　絹巻　豊

人・地球に優しい家

歌　一洋　歌一洋建築研究所



風の道からの見上げ空間

私は目に見えない「遠くの何か」を観て建築を設計する場合が多い。この住宅は遠くに大気（風）の龍田神社を観、神社に向って風の道の空洞を建物中央部・対角線上に貫通させた。近くの矢田丘陵、竜田川、生駒山系の斜面の地勢にも呼応している。また地球環境、心と身体の健康、九感覚（五感に留まらない）を多少なりとも考慮され、体現した住宅でもある。太陽光発電システムを屋根から離し、浮かせた。木材（植物性油ヌリ）、珪藻土などが使用された空間には光が溜まり、良い風（気）が流れる。半地下にはイベント用の暗空間が設けられた。ここから地域へ文化というARROWを発したいという施主の思いである。ちなみに施主は配置の図形からBow Houseと名づけられた。思想を持った、おおらかなBow Houseである。

（歌　一洋）



風の道



西側から見る



半地下多目的スペース

■竜田川の家

所 在 地　奈良県生駒郡平群町
施　　工　山中工務店
敷地面積　218.77㎡
建築面積　86.35㎡
延床面積　176.76㎡
構造規模　2F、B1F
竣　　工　1999年２月
撮　　影　歌　一洋

素材に聞く

前川治彦　前川治彦建築研究所



1階ホール

敷地は祭りで有名な大阪の下町にある。

そこはすでに住宅地が商業業務施設に取って代わられているエリアで、建築主は幼少からこの土地に住み、都市化の変遷に応じた経済効果に戸惑いながらも結局戸建て住宅の建設を決意した。

設計にあたってのご希望は安全性、堅牢性を備えたモダン住宅とお聞きしたが、実は旧家屋にあったアジア古美術のコレクションが大変気になっていた。

井戸の底に埋もれるようなスケールの中で、何とか閉塞感を与えないように外に、特に空に開いた住まいを求めながら、それらのコレクションの落ち着く場所として素材の選択が重要と思われた。

いろいろの検討を経て、コンクリート、左官、鉄、木、紙と言ったベーシックな素材が選ばれたのだが、どこにいても空を感じる事のできる空間構成と相まって、光を意識できる、落ち着いたギャラリーのような住まいができあがったのではないかと思う。

伝統的な気配を感じることができるモダン住宅として、いつまでもこの場所にこの建物に住み続けていただきたいと思う。

（前川治彦）



アプローチ



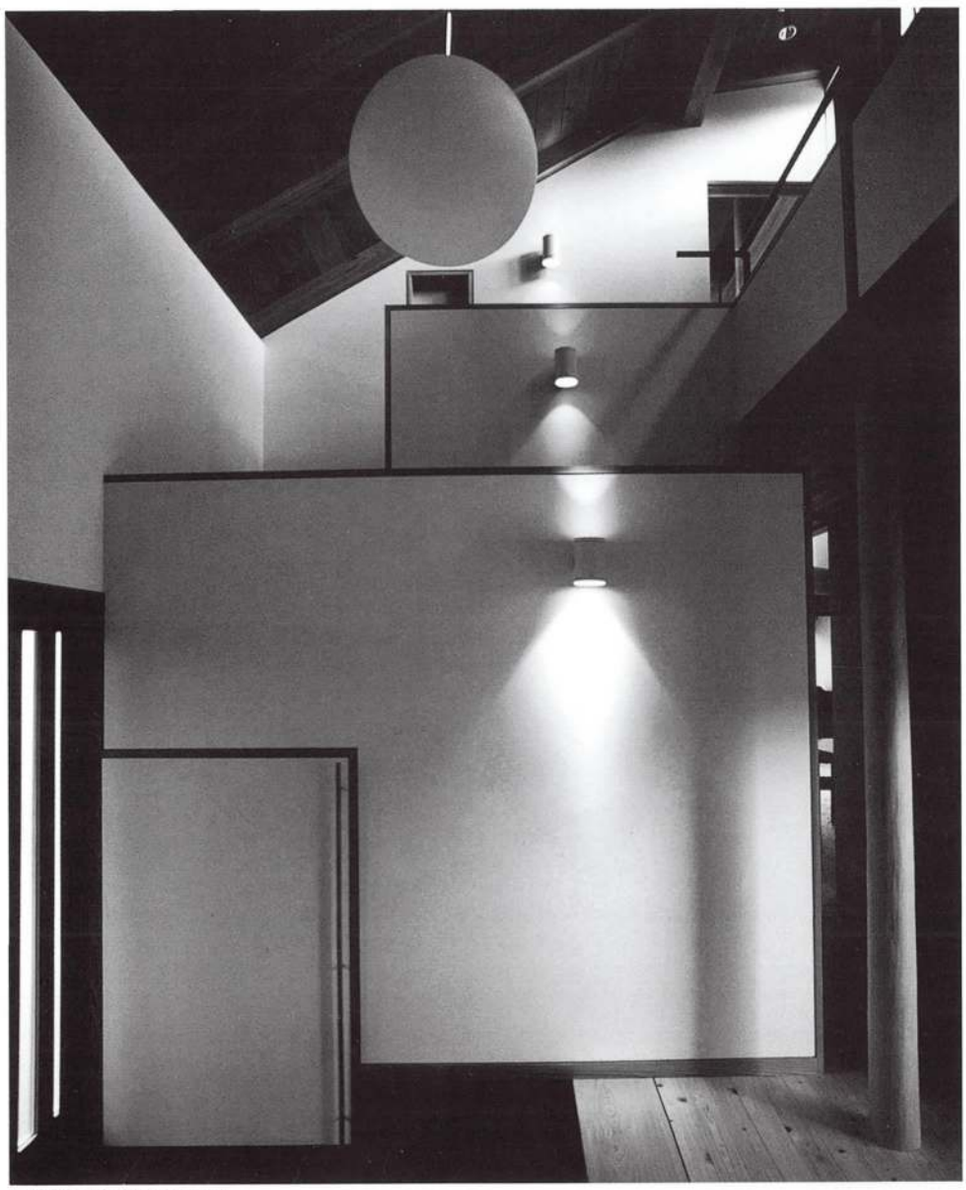
正面外観

■OD邸

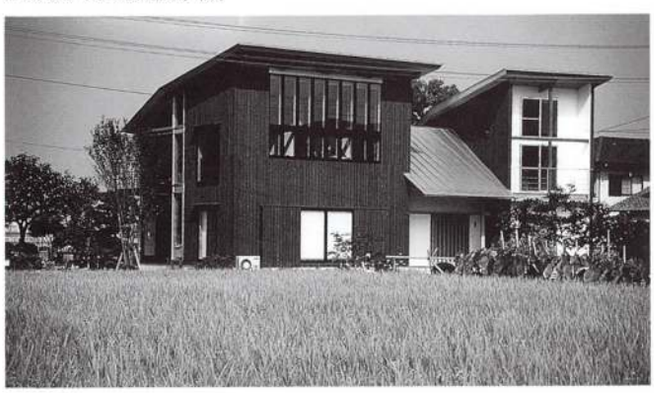
所在地　大阪市北区
施　工　徳岡工務店
敷地面積　245.98㎡
建築面積　110.72㎡
延床面積　209.72㎡
構造規模　RC＋W、3F
竣　工　1999年3月
撮　影　賀川憲男（KP工房）

環境を3つの空間に反映さす

新居照和＆ヴァサンティ　新居建築研究所



2つの棟をつなぐ玄関広間（※）



南東外観



3つのヴォリームをつなぐ2階廊下

木頭の山で育てた80年の杉を、山で葉枯らし乾燥をし、その後も天然乾燥を十分行い、生産者の思いが伝わってくる上質一等の杉材を活かすことができた住宅である。南北に長い限られた敷地の中で、できるだけ自然の恩恵を得ようとする。同時に、身近なお隣の作物から周囲の山々まで関係をもつために、３つのゾーンに分節する。３種類の特色ある架構形態と、外から入る風景や光を開口部で捉えることによって、それぞれに固有性のある空間をつくる。３つのゾーンと外部環境との関係は一様でなくなる。それらを南北の軸でつなげ、異なった空間経験ができていく構成をした。

当初、見慣れた風景にはさほど関心を示されなかった主人は、生活をし始めて、お隣の古い柿木や畑から、前山の風でなびく竹林まで、私たちの庭であり、環境であることを子供達に言っていた。

おばあちゃんは、ご近所の方々と軒下でよくおしゃべりをしていた光景を思い出す。旧家屋での光景が継承されるように、境界のない広い玄関ポーチや玄関土間をつくりそれに連続して祖母室の内外に縁を設けた。

（新居照和）

■石井・城の内の家

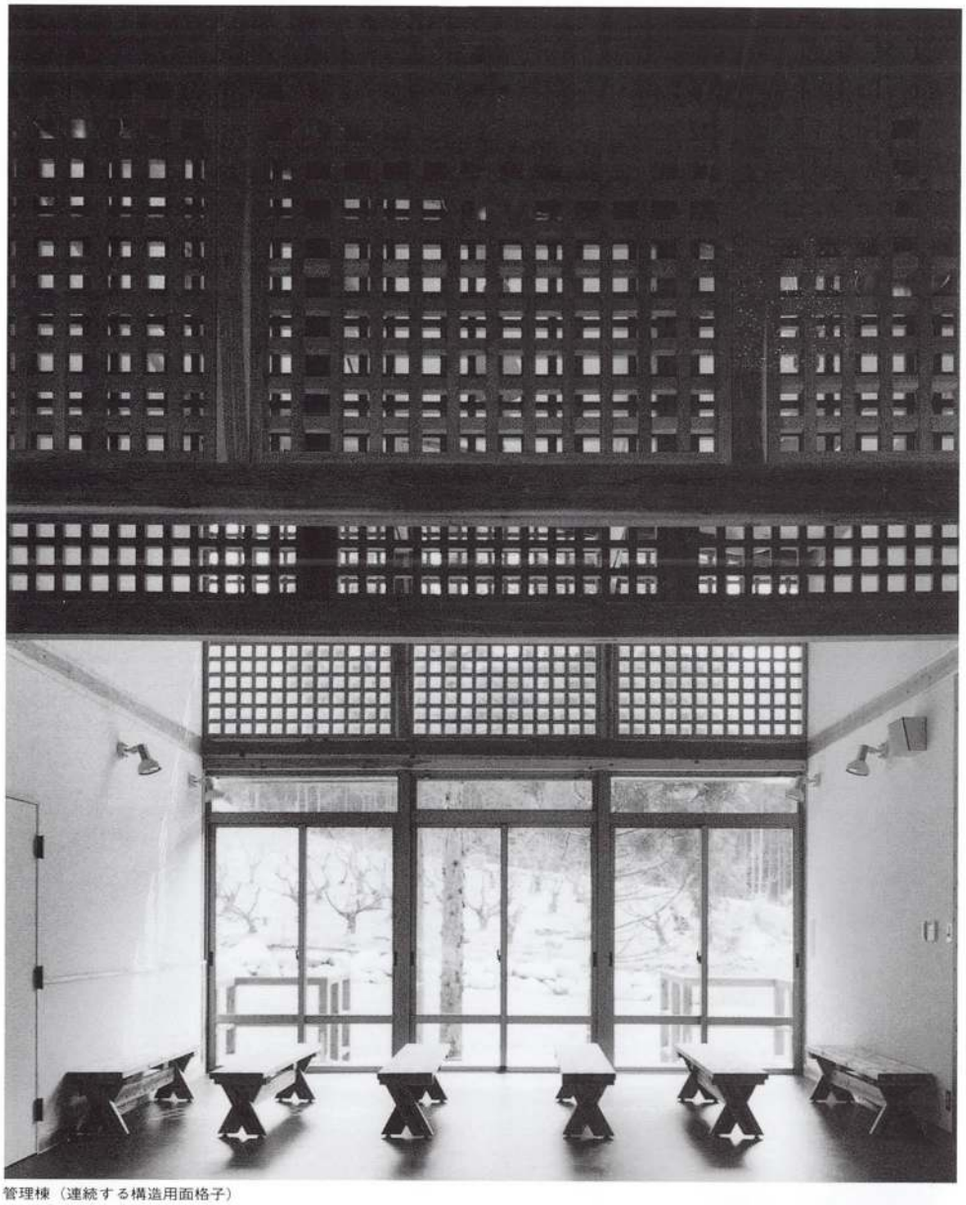
所 在 地　徳島県名西郡石井町城の内
施　　工　アーキテック
敷地面積　461,716㎡
建築面積　126,41㎡
延床面積　198,00㎡
構造規模　W、2F
竣　　工　1999年１月
撮　　影　北田英治（※）、新居照和

杉が奏でる

才本謙二　才本建築事務所

丹波篠山渓谷の森公園は、篠山の市街地より南東寄り猪名川町との市境に位置する。「野外活動施設」としてハードウェアーが担う事は、非日常性を創出する事と周囲の自然をダイレクトに取り込む事だと考えた。山に点在する転石は、建物内部の床から突出しそのまま束石として斜めに掛かった柱を受け、屋根を支える。丹波の杉材は、決して美人ではないが優しい表情と使われる部位によって力強さを発揮している。過激な架構は、施設に躍動感や可能性を与え、さりとて、自然の中ではさりげなく納まり、決して目障りなものでない。

（才本謙二）



管理棟（連続する構造用面格子）



管理棟（夜景）



コテージ（扇垂子）

■丹波篠山渓谷の森公園

所在地	兵庫県篠山市後川上1170	
施工	上西住研・大市住宅産業・いない建築	
敷地面積	2,239.01㎡	
建築面積	管理棟	349.98㎡
	コテージ7棟	357.95㎡（51.14）
	体験棟	177.84㎡
延床面積	管理棟	452.13㎡
	コテージ7棟	340.55㎡（48.65）
	体験棟	159.28㎡
構造規模	W	
竣工	2000年3月	
撮影	杉野　圭	

対話を生む空間を創る

藤城義丈　徳岡昌克建築設計事務所



北側外観



エントランスホール越しにアトリウムを望む

保健・福祉・医療の連携から統合へという言葉が語られる現在、人口5800人の農村地域の町で、保健サービス、福祉サービス、在宅介護支援サービス、介護保険部門を統合し、既設の診療所と連絡する複合施設として、総合福祉センターじゅびあが誕生した。このアトリウム空間は、農家の軒下空間のような半外部空間を内部に取込んだかたちで、地域のコミュニケーションのあり方を、複合化した施設の共有空間として構成している。

複数の施設が同居することで、空間的にも活動的にも相乗効果を生み、町の人々の居場所をつくり、滞留と交流を生み出す空間となっている。

（藤城義丈）

■愛東町総合福祉センターじゅびあ

所在地	滋賀県愛知郡愛東町大字妹29番地
施工	平和奥田
敷地面積	16,987.28㎡
建築面積	3,723.37㎡
延床面積	3,164.98㎡
構造規模	RC＋S、1F
竣工	1999年12月
撮影	松村芳治

自然の変化を楽しむ

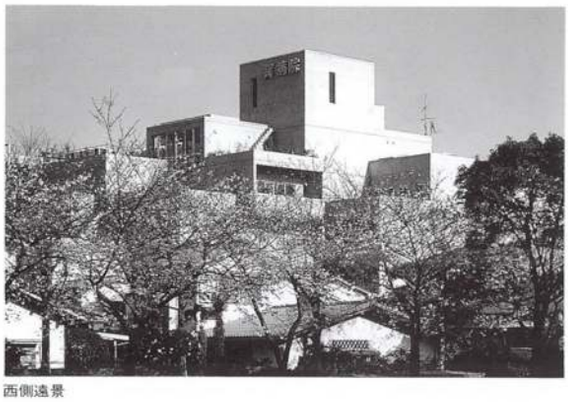
塚口明洋　塚口明洋建築研究室



エントランスコート

建物は、阪急の石橋駅の池田寄りに位置する。介護保険対象施設で120人の入所者と20人のデイケア利用者が生活する施設である。１階が病院施設になっているため２階から５階が老健施設である。入所者の生活施設として、いかに生活を楽しんでもらえるかを中心に計画を進めた。療養室のある生活棟は中心に中庭をもつガラス張りの吹抜けをもち、お互いの気配を感じることができる。リハビリテーション、浴室等は別棟になっており、生活棟からは「ロッジア」と呼ぶ外部空間を経て行くことになる。テーマとしては「思い出に残る風景としての建築」「活気ある生活の背景としての建築」「自然の変化を感じる場としての建築」を考えた。

（塚口明洋、越智嗣夫）



西側遠景



東側ファサード

■巽病院介護老人保健施設

所在地　池田市天神１丁目５番22号
施　工　淺沼組
敷地面積　6,461.32㎡
建築面積　2,157.45㎡
延床面積　7,710.23㎡
構造規模　RC、5F、B1F
竣　工　1999年３月
撮　影　納村達夫

倉庫再利用のアトリエ

貴志雅樹　貴志雅樹環境企画室



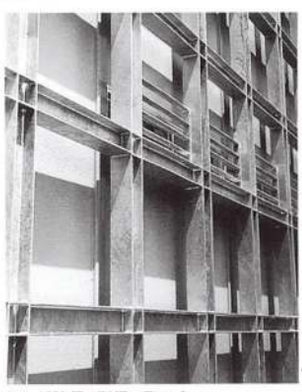
1階エントランス部分。開き戸にはポストが内蔵してある

4軒×5軒の2階建プレファブ倉庫を、3階建の事務所に改装したものである。
折板の屋根を再利用する為一度取り外し、壁面のサッシュ、パネルを取り外し事務所用に位置替えを行う。その後、C型鋼の柱を補強するのにH型鋼でプレファブのモデュールである910㎜のグリッドを組みカゴをかぶせるようにして、外部から補強を行った。
無節操なスクラップ・アンビルドという建設行為に批難が集る中、資源の再利用（産業廃棄物を出さない）という試みである。

（貴志雅樹）



階段見下ろし



柱と補強用H型鋼の取り合い



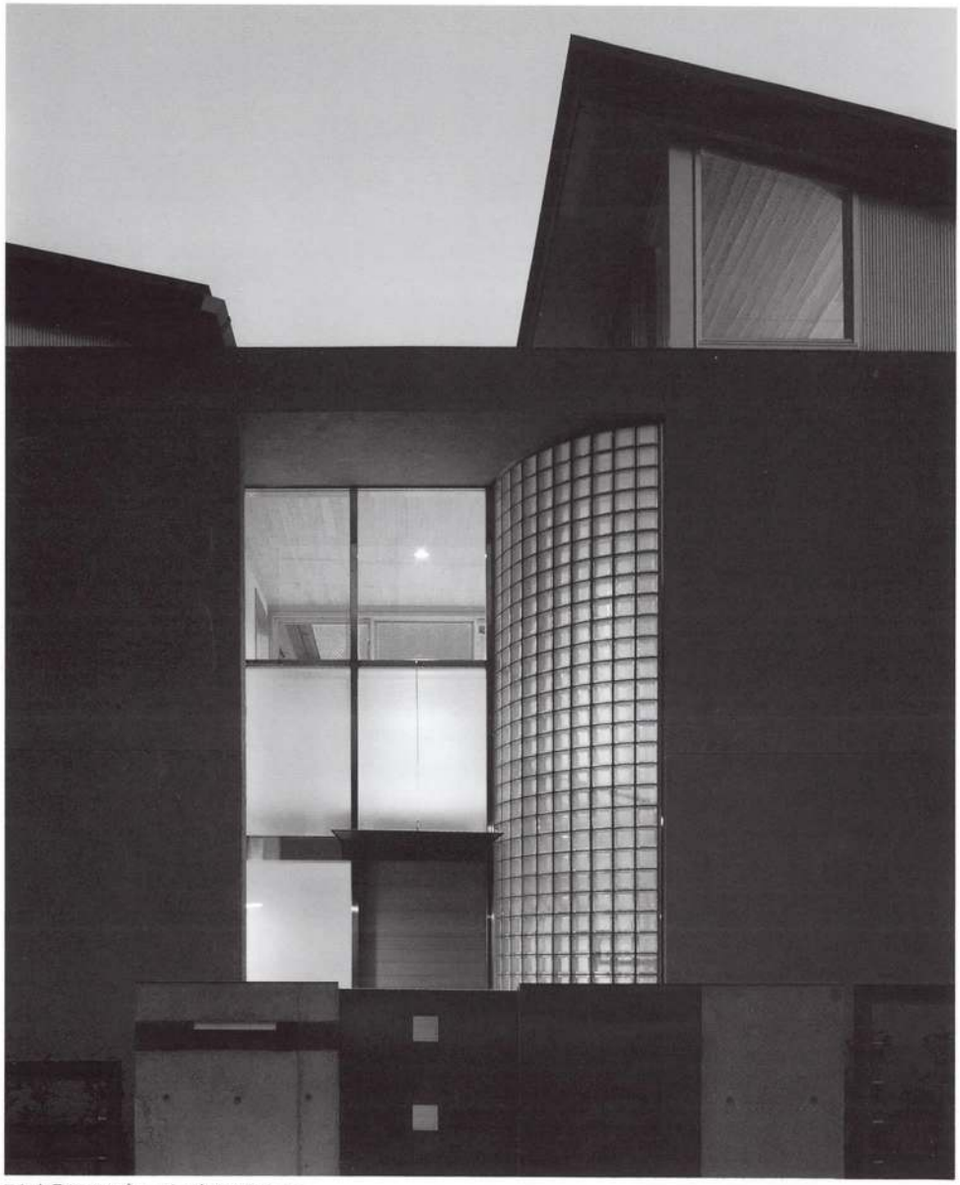
鉄骨建て方

■RESTRUCTURAL CAGE

所 在 地　大阪市東住吉区
施　　工　大倉振興
敷地面積　82.45㎡
建築面積　49.47㎡
延床面積　132.06㎡
構造規模　軽量鉄骨プレハブ（一部鉄骨補強）、3F
竣　　工　1999年5月
撮　　影　貴志雅樹環境企画室

内と外の間を創る

小南一郎　小南一郎建築研究所



エントランスアプローチ・光のスクリーン

この住まいは、神戸・御影山手の閑静な住宅街の一角に建っている。敷地は南と東が道路と接し、北に向かって緩やかに上がっていく南北に長い傾斜地である。

計画に際しては、この敷地形状を生かしながら、自然の光と風を程よく取り込み、内部空間にいながらも、季節の気配を四季折々に感じられる住まいを如何に創るかが「メインテーマ」となった。

比較的人通りの多い東側道路に沿って、しっかりとした壁を立上げ、敷地中央部には、光と風を取り込む中庭を配して回廊を巡らし、更に屋根はTWINの片流れにハイサイドライトを設けて、常時空を望める室内空間を実現させている。

東側大壁面の中央部、大きくスリット状に穿たれたエントランスアプローチの吹抜空間は、フロントガラスとガラスブロックのスクリーンを介して中庭空間へと繋がり、内と外の中間領域的な場として演出することにより、この住まいに広がりとゆとりのあるシークエンスを生み出している。

（小南一郎）



中庭と一体化するエントランスホール



廻廊巡る中庭空間

■御影の家

所 在 地　神戸市東灘区御影
施　　工　上田建設工業
敷地面積　198.44㎡
建築面積　113.17㎡
延床面積　210.06㎡
構造規模　W、2F
竣　　工　2000年８月
撮　　影　原　定理

SMALL LANDSCAPE

池上　明　エーアイ アーキテクト スタジオ



正面ファサード



広がりをもつ客席

□LOCATION

敷地は、近年区画整理がなされた近鉄橿原線畝傍御陵前駅前に位置する。ペディストリアンと駅前広場の交点に立地するオープンデッキをもつカフェの計画である。

□GEOMETRY

建物のジオメトリーは曲面の屋根をもつ3つのマスに分節される。中央の四分円のマスはレンガ色系の塗り壁、それを囲むボックス状のマスはグレーの吹付が施され、色彩と素材の組合せがそれぞれの形態を明確にしている。

□LANDMARK

わずか100㎡のカフェであるが、広い敷地を生かした外構の植栽やフレーム等のエクステリアエレメントが、建物の形態と呼応し、敷地全体が小さな駅前のランドマークを形成する。

□INNER SPACE

内部の客席は、建物形態に合わせて3つのゾーンに分けられる。中心の客席は、カウンターをコアにし四分円を強調し、オープンデッキへつながる広がりをもつカフェプラザとしている。サイドの客席は、対比的に落着いた空間として構成している。

（池上　明）

■T's Style

所 在 地　奈良県橿原市大久保町
施　　工　鍛冶田工務店
建築面積　104.37㎡
延床面積　104.37㎡
構造規模　S、1F
竣　　工　2000年8月
企　　画　米岡知廣（アール・アイス）
撮　　影　稲住康弘

環境のための建築

美濃吉昭　エーイー建築設計事務所



3階への増築、成長を予定した構成



階高5.0m、天井高2.8m～4.8m

東光苑（522席）は新しいスタイルのバイキングレストランです。韓国の多様な生鮮素材と調理されたオードブル等100を越すアイテムから、好きなだけ選びテーブルコンロでパーティが出来る、食を楽しむタウンコミュニティスペースと云えます。そして幼児の遊ぶチルドレンルームも備えています。

構造とインテリアのテーマは、ナチュラルモダン。ロフト風の空間に緑を持ち込み、陶板タイルと木質のフローリング、煉瓦の柱、テント天井の自然素材と、ガラスカーテンウオールとの対比の簡素な構成です。屋上庭園は、通年、緑のベントグラスを生垣で囲い込み、礼式場と一体となった空間、ガーデン＆ホールを構成しています。

（美濃吉昭）

■東大邱タウン東光苑

所 在 地　韓国大邱広域市東区新川4洞
施　　工　松屋開発
敷地面積　2,400㎡
建築面積　1,891㎡
延床面積　5,193㎡
構造規模　S、2F、B1F
竣　　工　1999年９月
撮　　影　美濃吉昭

無機質な表情と解放性

村重保則　村重保則＋現代建築設計事務所



増築部を見上げる


増築部への廊下


ホール吹き抜け


ホール

岩国市街地の北西、裁判所や学校などが点在する落ちついた雰囲気の住宅地のなかにあり、やや高台に建つので日当たりも良好である。
1990年、新築された錦見の家は内外とも打放しコンクリートで扇形の敷地の一辺に半円を描く平面構成であった。今回の増築は夫人のご両親との同居に備えてのものである。同時に約７年間の実生活の上で感じておられる様々な問題点の解消にも意欲的に取り組み、より快適な住空間の実現を目指した。
増築部は夫人がピアノ教師であり、音楽好きの一家であることをヒントにグランドピアノをイメージした曲線を平面構成に取り入れた。増築部は３階建てとし、１階を駐車スペースとし、２階を老人室（両親の室）３階を子供室（長男の室）として確保した。既存部分との結合部をメインエントランスとすることでそれまでの玄関の狭さへの不満も解決した。
既存部の改修については冬場の寒さと結露が一番の問題であったが、既存の陸屋根の上に木造の小屋を組み、全体的に建物外周壁の内装打放し部分をボードで覆うことで結露防止と断熱を図った。また、２階コートであった部分をリビングに取り込み広々とした空間を生み出し、和室も含め一体的な空間として利用出来るようにした。既存、増築部においては車椅子での生活も考慮してバリアフリーに対応した設計を心掛けた。

（村重保則）

■錦見の家

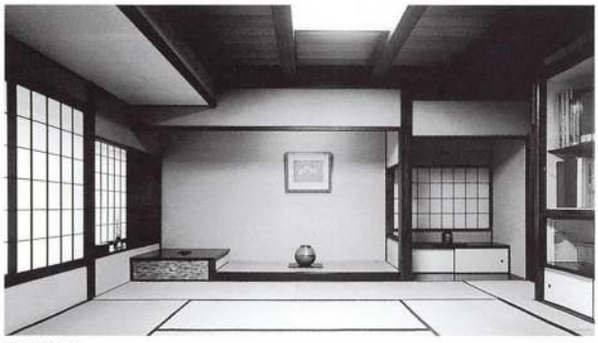
所 在 地　山口県岩国市錦見２丁目558-4
施　　工　重村建設
敷地面積　189.23㎡
建築面積　112.31㎡
延床面積　249.56㎡（内車庫25㎡）
構造規模　RC、3F
竣　　工　1998年１月
撮　　影　岡本公二

西陣美観地区の町家再生

長瀬博一　長瀬建築研究所



南側正面外観（※）



表の間十帖



玄関

茶の湯の御家元（両千家）にも近い、西陣の高級帯を商う築後百年の町家改修である。外観は、出格子、紙障子、引違格子戸や２階戸袋、手摺格子を新設した。内部は２階床板や横架材が露出していたのを新材で包み込み、小巾板天井を張り上げた。又表の間や内玄関と連なり伸びやかさを生んでいる広い玄関土間に面し式台や目板格子付袖壁及び収納飾棚となる置家具を新たに設けた。表の間の床の間、脇棚、書院や豪華本収納の造付書棚も新設である。伝統的京町家に倣い木部を色付し、床廻り等は濯漆、表具は京唐紙とした。民家の持つ骨太さと京の数奇屋に通じる洗練された姿を願い、素材の取合せ、各部材寸法及び面取寸法に細心の注意を払った。

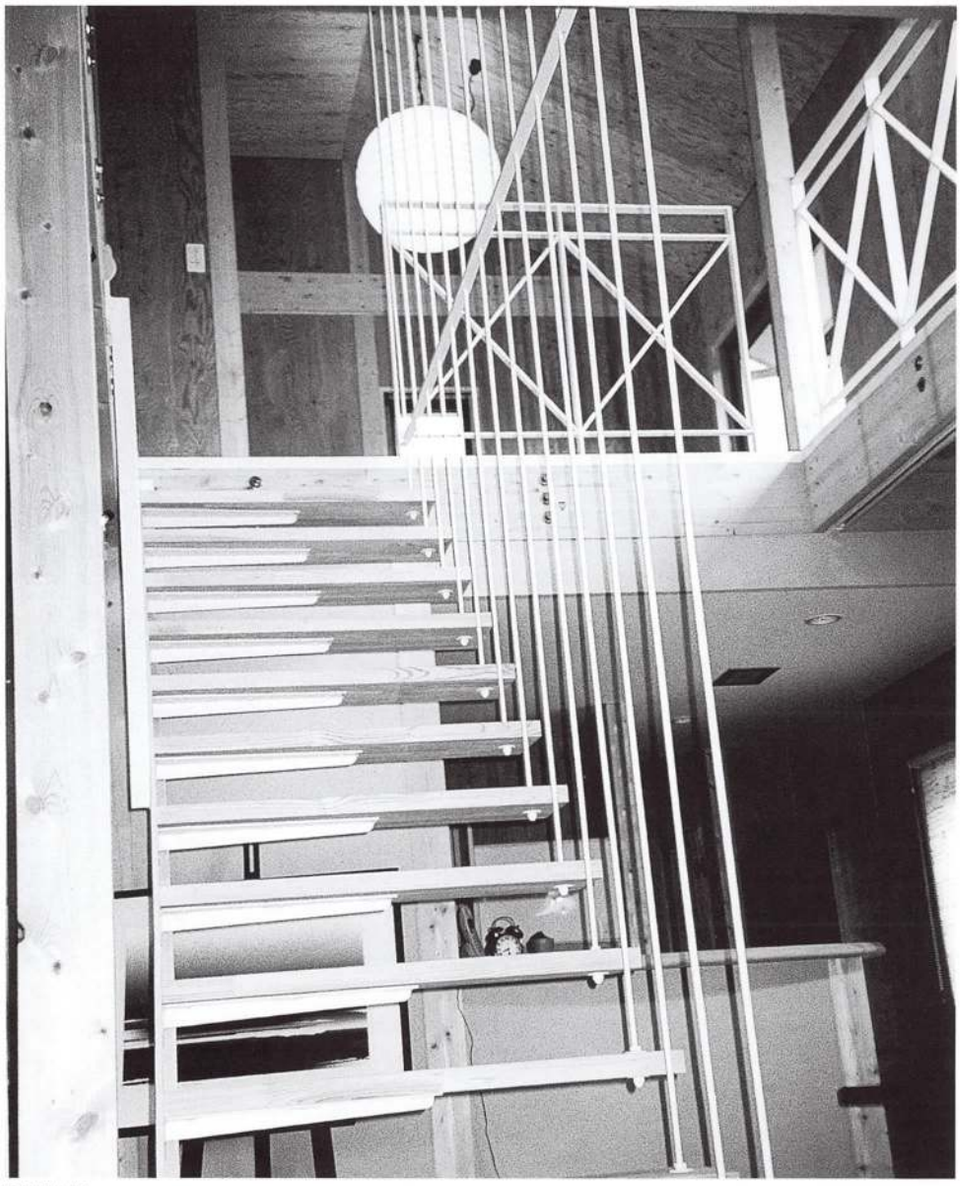
（長瀬博一）

■西陣の町家

所 在 地　京都府
施　　工　上野工務店
敷地面積　345㎡
建築面積　150㎡
延床面積　240㎡
（今回改修部分は約60㎡）
構造規模　W、2F
竣　　工　2000年7月
撮　　影　奥田興作、高城檜三郎（※）

地域に自然に住まう

村田直人　総合企画コンサル・プランナーク



吹抜見上げ

堺・泉北ニュータウンの高台に自然に住まう家が生まれた。

太陽―自然の恵み太陽の熱を冬は屋根で集熱し、床下の蓄熱槽から家中を暖め、夏はその熱でお湯を採り、余った熱は屋外へ戻す。（OMソーラー）

風――夏は家の中に風のみちをつくることで、涼を取る。家の真ん中に吹抜をとり、そのまわりには閉ざされた間仕切壁をつくらず、風の入口があれば必ずその出口を設けてあげる。

水――この家には敷地の境界に対して囲いは一切ない。敷地内の自然の環境、それは同時にまちの環境であり、まちなみをつくっている。ゆるやかな勾配のあるみちに面してせせらぎをつくり、水の流れ・音を通して、また、みちを通り抜ける風でそよぐ緑を通して、自然を感じる。

木――家をつくる材料・仕上・塗装・接着剤に至るまで自然の素材を使う。自然の木には節があり、時間がたてば反ってもくる。割れてもくる。それが木である。そんな素材をふんだんに使っている。

この作品は“地域に自然に住まう”というクライアントのライフスタイルから生まれたものであり、この住まいを通して自然と人間との共生を願うものである。

（村田直人）



外観



アプローチデッキとせせらぎ

■晴美台の家

所在地　大阪府堺市晴美台1丁19-1
施　工　光洋建設・KSプランニング
敷地面積　248.14㎡
建築面積　79.14㎡
延床面積　145.62㎡
構造規模　木造軸組工法、2F
竣　工　2000年7月
撮　影　村田直人

木の香 溢れる住まい

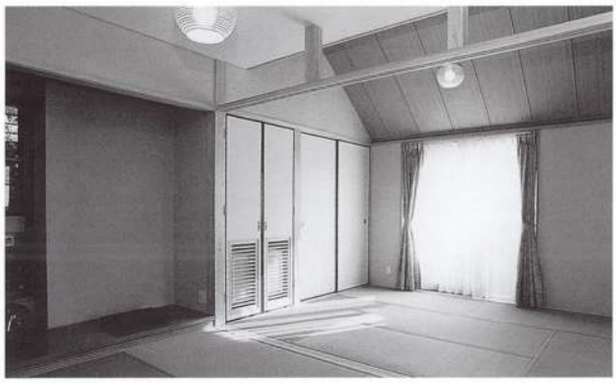
岩本貞幸　岩本貞幸建築研究所



耐久性のあるアイアンウッド（直輸入）を使用した玄関部アプローチ



木材を活用した外観



木のもつぬくもりを生かした内部デザイン

当敷地は吉野のごく普通の山村の中にある。
古くからの木造の母屋を除却しての、若夫婦の為の建替えである。
全体デザインは施主の要望もあり、吉野地方特有の木の香りを感じる暖かいものとし、ポイントには現代的なデザインの要素を加えることとした。とくに内装は、杉や桧板などを多く使用して、暖か味のある落ち着いた空間構成としている。まるで、時間が止まったような古くからの建築様式が残る山村に、新しい感性を含んだ建築を実現することの難しさを改めて感じさせられた。
日常、市街地に設計する機会の多い私達だが、むしろ今回のような山村の方が周辺環境との調和などの難しさを感じた。少しやりすぎた感じが否めないでもないが、施主様に叱られることはなく竣工を迎えられたことは幸いである。

（岩本貞幸）

■吉野の家

所 在 地　奈良県吉野郡吉野町大字香束
施　　工　仲川組
敷地面積　401.08㎡
建築面積　102.70㎡
延床面積　168.33㎡
構造規模　S（一部RC）、B1F、2F
竣　　工　1998年12月
撮　　影　フォトサロン竹中

交流・創作の場として

上谷重男　上谷重男＋U建築企画室



アプローチ周辺

中国山脈添いにある地方は、多くの場合過疎、高齢化に見舞われている。そのような状況下、地域の人々が集う拠点としてこのセンターは計画された。

この地方は10月中旬になると、太陽の輝きが恋しくなる程、曇りの日々が多くなる、そのような陰鬱な雰囲気を打ち破る色彩の採用、形態は地域の風景の中に溶け込みと同時に、集う人々が意識する風景を創り出す事を目指した。

地域の人々が持ち寄った間伐材で組み立てられたシンボルタワーは地域の心の拠り所になってほしいもの、また、伊勢神宮のように腐食が起こる何年後に、再び地域の人々が間伐材を持ち寄り組み立ててほしいものとの希望を托している。

（上谷重男）



西側より望む



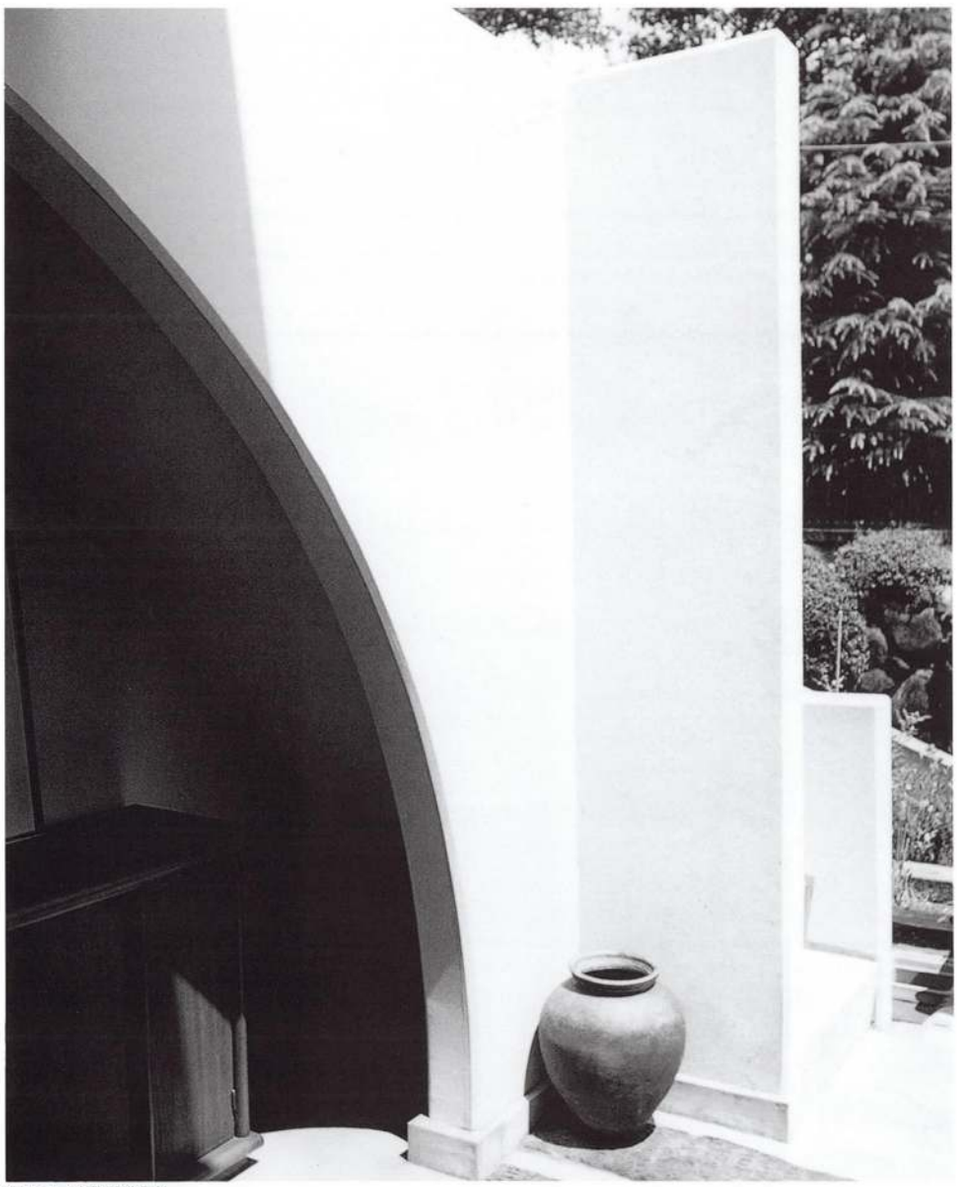
南側より望む

■上月町幕山センター

所 在 地　兵庫県佐用郡上月町幕山
施　　工　長岡組
敷地面積　3,393.94㎡
建築面積　550.83㎡
延床面積　518.71㎡
構造規模　W、1F
竣　　工　1996年４月
撮　　影　U建築企画室

丘陵の高台を宅地に

蔭山利夫　蔭山一級建築士事務所



2階テラス事務所導入部

高齢化が顕著な住宅街の中に、わずかなスペースだが、1階のアトリエの横に、心やすらぐ、ホットなスペースが出来ればと、趣味の染色、クラフト雑貨、洋画等のミニギャラリー化さし植栽、緑化も加え、道行く人々に話題の一つにでもなればとの思いで、コミュニティーのある、街路側ファサードを構成する。丘陵地の為、背面側と2階の一部は、将来、素朴なキッチン、ガーデンで新鮮野菜とくだもの畑、小鳥のさえずる自然な庭にと考えている。居宅は3階、2階は小生の事務所、いづれも、アートでフルシーズン愉しみの多いインテリアを演出する予定である。

（蔭山利夫）



1階　西入口手前は駐車場アトリエ



3階テラスより2階ミニ菜園を見る

■鳥見町の家

所 在 地　奈良県鳥見町1-8-5
施　　工　大幸綜合建設・青山工務店
敷地面積　277.00㎡
建築面積　 90.00㎡
延床面積　260.00㎡
構造規模　RC、3F、PH
竣　　工　1999年6月
撮　　影　蔭山一級建築士事務所

山に映える英国風の家

松田憲夫　昭栄設計事務所



光と影のコントラストを保つ吹き抜け



夕日に赤く染まる外壁



起伏ある山並みを前景とする外観

生駒山の麓、石切に英国風の建物を、との施主からの要望であった。
海抜約140m付近に現地は位置し、西側の眺望は絶景である。山の景観の中に、風格のあるどっしりとした建物、又光と緑を多いに受容できる、そのようなたたずまいをテーマとして考えた。住まう人達は５人家族で子供達はそれぞれ成人をしておられる。
外壁は総タイル貼とし、窓枠、玄関庇には石灰岩（ライムストーン）を用い、窓ガラスには格子をはめた。屋根は寄せ棟とし一部六角形にも見える形を選んだ。
内部では大きな吹き抜けを通じて大阪湾も望める２階ホールを作った。
英国風の外観としているにもかかわらず、内部では「光り庭」と名ずけた和風の庭はイメージ作りに時間を要した。

（松田憲夫）

■S邸

所在地　東大阪市上石切町２丁目1200-26
施　工　村本建設
敷地面積　569.60㎡
建築面積　187.52㎡
延床面積　400.72㎡
構造規模　RC、B1F、2F
竣　工　1999年12月
撮　影　松田憲夫

立体町屋

志村公夫　志村建築設計事務所



外観



2階居間と中庭



3階和室

新田辺駅前の区画整理のため明治以来時計、眼鏡、宝石の専門店として営業してきた老舗が新築することになった。1階を店舗、2階、3階を二世帯の住宅にすることとなった。外観は3階をセットバックすることで、2階建てのファサードに見せ、石、タイル、ガラス、アルミなどの異なる素材をシンメトリーに配して、風格のある外観となるよう心がけた。住宅部分は吹き抜けの中庭によって、採光と通風を確保している。ガラスブロックが住宅のプライバシーを守るスクリーンとなり、夜間は光る行灯になる。

（志村公夫）

■松利ビル

所 在 地　京都市京田辺市田辺津田46
施　　工　国定工務店
敷地面積　178.00㎡
建築面積　139.08㎡
延床面積　341.44㎡
構造規模　S、3F
竣　　工　1997年2月
撮　　影　堀出恒夫

大覚寺夜景創出「雅と華」

村上幸三郎　村上デザイン事務所



寝殿の妻部を照らし、庭園部と対応させた



諸堂を結ぶ渡り廊下と庭園の趣



広庭に面する寝殿造りの御影堂は内部の明かりを主にした

旧嵯峨御所・大本山大覚寺は風光明媚の嵯峨の地にあり、嵯峨天皇の離宮からの歴史に彩られている。境内は寝殿造りの諸堂や庭園による大伽藍、そして大沢池に映る月の名所として高名である。また、華道・嵯峨御流の総司所でもある。

伽藍の諸堂は渡り廊下で結ばれ、その間にそれぞれの趣を凝らした広狭の庭園が在る。

照明計画は、夜の諸堂を順拝するにあたり、平安の古を偲ぶ“雅と華”をこれらの点在する庭園を中心に演出しようとするものである。月明かりを意識した明るさを基本とし、各御堂の明かりが障子を透かして映え、庭園の銘木がそれを彩る趣とした。渡り廊下は庭からの反射光によった。

（村上幸三郎）

■大覚寺ライトスケープ'99―雅と華―

所在地　京都市右京区嵯峨大沢町4

ﾗｲﾃｨﾝｸﾞﾃﾞｻﾞｲﾝ　街の色研究会・京都景観照明調査研究部会

実　施　1999年6月

撮　影　村上　章

「建築と社会」誌

特集一覧●1978～1999

大正6年3月に誕生した日本建築協会（当時・関西建築協会）の、機関誌は大正6年9月に「関西建築協会雑誌」と題して創刊された。大正8年に「日本建築協会雑誌」、さらに1年後には「建築と社会」と改題し、今日に至っている。

取り上げてきた特集テーマは下記のとおりで、バックナンバー購入希望は、日本建築協会事務局（TEL 06-6348-0635、FAX 06-6348-0634）まで。販売価格は1200円（送料・消費税含）。

号	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
1978 Vol. 59	●デザインの動向―新旧のコントラスト	●水*	●医療施設―病院建築と情報システム	●外壁塗装材料*	●電波障害と建築*	●組合方式による集合住宅計画*	●住宅設備	●新しい耐震設計	●CAD―設計とコンピュータ	●一般号*	●第25回青年技術者*	●ビル環境
1979 Vol. 60	●転換期の再開発*	●大阪南港ポートタウン*	●商業空間*	●コンクリートのひびわれ	●日影規制*	●ホテル建築と情報システム	●農村施設の変貌*	●建築の終局強度の検討	●庄内のまちづくり*	●80年代のインテリア*	●第26回青年技術者*	●建設業の労務事情*
1980 Vol. 61	●80年代の都市と建築―まちづくりの歴史と展望	●今後の省エネルギーの趨勢 ●建築金物	●最近の銀行建築 ●安井建築設計事務所作品集	●住宅の耐久性*	●建築行政と法規*	●最近の防水工法	●都市景観とアメニティ*	●屋内体育施設の設備*	●水ぎわのまちづくり	●今後の外装吹付仕上材*	●第27回青年技術者 ●転機にたつマンション・集合住宅	●これからの建築設計と新耐震設計法*
1981 Vol. 62	●職能論*	●中国の論文―北京の都市計画*	●ポートピア'81*	●台所まわりの計画と設備*	●シーリング材の知識*	●災害と法―安全な環境をめざして*	●都市住宅―住まい手からの発想*	●建築物と風―デザイナーのために ●日建設計作品集*	●住宅・都市整備公団―関西における都市整備を中心とした新公団の役割*	●間仕切壁の性能評価*	●第28回青年技術者*	●障害者の暮らしやすい環境と設備
1982 Vol. 63	●新たな商業空間の展開*	●省エネルギーと開口部*	●医療施設―地域医療と設備計画*	●近畿の地盤と地質*	●都市景観―まちなみ美観への誘い*	●大阪市庁舎（第一期）*	●ホール建築と音*	●大スパン構造*	●昭和設計作品集*	●絵本にみるすまいとまちづくり ●オー・エム・ホテル日航ビル	●第29回青年技術者 ●地方の庁舎建築*	●風土・空気と人間*
1983 Vol. 64	●関西の建築文化を考える	●マイコンの建築への利用	●多様化する運動施設*	●建築と品質管理	●計画におけるコミュニケーションとプレゼンテーション	●大阪駅とターミナルビル	●維持管理と設備更新	●東海の将来と文化を考える	●オフィス・インテリアの変革	●プレストレスト・鉄筋・コンクリート構造	●第30回青年技術者 ●大阪城国際文化スポーツホール*	●集合住宅と生活音
1984 Vol. 65	●21世紀への関西―魅力あるまちづくりを問う	●関西の超高層ビル*	●ビルのリフレッシュ―内外装補修技術の現状と発展―*	●建設産業とロボット開発*	●住環境と法制度	●まちの活性化と商業空間 ●京都駅南口再開発ビル*	●消防設備のポイント	●みどりとそれをとりまく人々	●高齢化社会と生活空間	●床の構工法	●第31回青年技術者 ●ディテールの思想	●光応用システムと建築
1985 Vol. 66	●大阪湾物語*	●東海の現在と近未来	●自由様式への道―建築家安井武雄 ●建築物の基礎を考える	●情報化をめぐる建築・都市事情	●ホール―それが生みだす文化―	●建物の表情―最近の外壁材料	●大阪国際見本市新会場	●建築と水の演出 ●神戸研究学園都市	●都市と健康・スポーツ	●接合―人体と建築にみる― ●日建設計作品*	●村野藤吾の一断章 ●伊勢湾をめぐる東海	●第32回青年技術者
1986 Vol. 67	●これからの住空間―都市型集合住宅にみる	●屋根―そのデザインと素材	●現代デザインーポストモダニズム10年 ●これからの防水工法	●インテリジェントビルの建築・設備計画	●自治体営繕と公共建築	●建築防災と法 ●大阪市庁舎（第2期）	●21世紀の住宅と設備	●開発―その創造的仕掛けの鍵をもとめて― ●ツイン21	●CAD―その応用と展開	●オフィス空間の構成	●第33回青年技術者	●インテリア・イクステンションとリニューアル
1987 Vol. 68	●入浴物語	●腐食	●創立70周年記念号	●躍動する東海へ	●貯蔵・保管施設 ●大阪府立体育会館	●室内の仕上床	●駅	●行政建築家の可能性	●シティホテルの設備	●宝塚のまちづくり	●建物と町並みの接点 ●昭和設計作品集	●第34回青年技術者
1988 Vol. 69	●ホテル物語	●軟弱地盤と基礎 ●文化と伝統―東海からの報告	●設備におけるLCCとリフレッシュ ●東畑建築事務所作品集	●建物の外装リフレッシュ*	●都心居住	●中国地方の展望とひろしまのまちなみ	●21世紀への照明*	●制振*	●超高層住宅を考える	●集合住宅のリフレッシュ* ●大阪府営繕	●第35回青年技術者 ●800号記念*	●讀賣テレビ
1989 Vol. 70	●夢をのせる輸送設備	●リゾート事情 ●竹中工務店創立90周年記念	●色の復権 ●東海の新建築と伝統技術*	●省力化のための材料・工法	●まちづくりと法	●博覧会とまちづくり	●都市環境創造と設備Ⅰ	●建築とアート	●構造の省力化 ●鹿島建設大阪支店建築設計部作品集	●都市環境創造と設備Ⅱ ●ユーザー参加のハウジング	●第36回青年技術者	●最近の博覧会パビリオン
1990 Vol. 71	●商品化住宅のデザイン*	●ニュータウン・ルネサンス	●東海の都市景観 ●佐賀市文化会館*	●スケール感	●プレハブ住宅技術の現在と未来	●国際花と緑の博覧会	●建築家のための設備知識―中規模オフィスビルによるケーススタディー	●高強度化―設計の多様化をめざして―*	●やわらかな住宅管理・ユーザーの役割	●都市のナイス・プレイス ●兵庫県営繕の歩み	●第37回青年技術者 ●和歌山県の展望と景観*	●高級感―建物の顔：感性の時代を迎えての外装材
1991 Vol. 72	●新しい都市空間づくり―Ⅰ―	●オフィス・プレジャー ●新しい都市空間づくり―Ⅱ― ●建築の風景	●東海支部復活30周年記念*	●大阪東京海上ビルディング	●今、京都 ●建築家のための設備知識―複合商業ビルによるケーススタディー	●建築と土木 ●毎日放送本社ビル ●近畿地方建設局営繕部	●一般号*	●建築をめぐるトラブルとその解決 ●建設現場のイメージアップ作戦	●空間のアイデンティティ ●きんでん写真集 ●大建設計40周年	●自治体住宅政策への提言 ●大林組創業100年記念	●建築と土木―構造技術の世界―	●スリムでタフなコンクリート ●21世紀の住まいを考えるシンポジウム
1992 Vol. 73	●夢物語―人がかわる、まちがかわる―	●こだわりのインテリア ●近畿の郵政建築15年の歩み	●建築とデザイン―東海支部―	●建築家のための設備知識―集合高層住宅の設備システム―	●地球環境時代の建築	●街創り、住まい創り―住宅・都市整備公団関西支社10周年―	●木構造を使ってみませんか―集成材による構造―	●接着―建築分野への限りなき可能性	●中国地方の町並みと建築家の「語り、夢、作品」	●屋台―仮設の魅力に学ぶ― ●ハウジングのメインストリームを探る	●いま建築教育に何が期待されているか	●京のかたちと色
1993 Vol. 74	●第39回青年技術者 ●東畑建築事務所創立60周年記念作品集	●大阪府営繕	●東海の美術館・博物館	●市民劇場の舞台設備	●環境―限りある自然と建築とのかかわり	●都市のスカイライン	●映画の中のインテリア ●けいはんなプラザ・住友ホール	●建築の再生―構造技術の役割― ●大阪市営繕	●国際的パートナーシップの可能性	●福祉のまちづくり	●都市型住宅再考	●第40回青年技術者 ●環境―人にやさしい空間創造をめざして
1994 Vol. 75	●コピー文化の新時代 ●広島の街創りアジア競技大会	●九州のインスタレーションと観	●伊勢・神宮式年遷宮と神宮界隈	●建築のエネルギーシステム	●明日に向かって―会員作品*	●いま、医療施設は	●住空間における居どころへの視点	●まちなかの看板 ●竹中工務店の集合住宅	●水と建築 ●日本建築総合試験所	●建築設備のCGシミュレーション ●村野、森建築事務所	●構造美―建築の中の美 ●集合住宅団地リニューアル	●第41回青年技術者 ●関西国際空港
1995 Vol. 76	●光がつくる風合の世界*	●音―騒音から操音／創音へ	●飛騨・美濃―まちの活性化と地方文化	●トイレから見た都市文化	●トイレ空間	●接合 ●コスモタワー	●ユニバーサルデザインとは	●私の空間作法―会員作品―	●新しい「都市・建築」の視点*	●建築構造と社会の接点 ●日建設計*	●ライフラインと建築設備*	●第42回青年技術者 ●滋賀県建築課
1996 Vol. 77	●阪神大震災から学ぶ*	●大阪府住宅供給公社創立30周年記念*	●遠江―その地域振興と文化	●立体駐車場設備 ●大建設計	●災害！非常時に生きる法体系 ●GAPタワーズ	●いま、プールがおもしろい	●住まいの未来像	●マルチメディアがつくる世界	●キーコンセプトの新時代	●最新の大規模スポーツ競技施設の設備	●私の空間作法'96 ●九州の元気 ●りんくうの3作品	●第43回青年技術者 ●近畿地建営繕部
1997 Vol. 78	●建築のロングライフ化をめざして	●鉄ものがたり*	●東海支部会員作品 ●金沢・能登―風土・文化とまちなみ・建築	●創立80周年記念／建築と私と社会―80人の語―	●木造建築物の伝統技術とその将来	●住む空間の復興―近・新旧の連続と新たな展開へ― ●住都公団関西支社	●素材の不思議 ●大阪ドーム	●新エネルギー ●住宅・都市整備公団改革への提言	●クロスワード都市OSAKA*	●モザイク都市の住むかたち ●昭和設計40周年	●私の空間作法―会員作品―	●第44回青年技術者 ●京都駅ビル
1998 Vol. 79	●新しいまちづくりの予感 ●東畑建築事務所創立65周年	●Concrete ●九州とわたし、そして建築	●東海支部会員作品 ●信州―諏訪とその周辺―	●街並みの演出―最近の外構材料	●生活環境の安全・安心	●地球環境保全と建築	●心と体を元気にするインテリア	●建築設備―ビルメンテナンスの立場から	●建築への証言'98―21世紀に向けて	●ゆれをとめる―たえる技術からかわす技術へ	●私の空間作法 ●2001年の医療施設	●第45回青年技術者 ●駅とともに歩んだJR西日本の12年
1999 Vol. 80	●"らしさ"のデザイン ●建築を綾どる小粋なモノの世界人	●大阪市都市整備局	●東海支部会員作品'99 ●北信濃―街並み修景と地域文化の再構築	●都市のパブリック	●関西建築界の流れと東畑謙三の足跡をたどる	●大阪城天守閣平成の大改修	●改正建築基準法―まちづくり・すまいづくりへの展開―	●私の目でみた環境問題	●アーバン・インテリア―都市空間としてのインテリア	●木とともに	●私の空間作法	●第46回青年技術者

*は欠号

京都市土地利用の調整に係るまちづくりに関する条例

和田豊志
京都市都市計画局都市企画部都市計画課担当係長

京都市は、「京都市土地利用の調整に係るまちづくりに関する条例」を平成12年6月1日に施行した。

近年、京都市においては、工場跡地等が大型商業施設などに土地利用転換されるなど、都市や地域に与える影響を考慮しないまま開発が進められ、まちの様相が変わり、市民の生活に影響が出るような無秩序な土地利用転換が行われることが懸念されている。

望ましい土地利用へ誘導するための法的手段としては、用途地域制度等による調整の手法があるが、それだけで望ましい土地利用の誘導を図るためには限界がある。

そこで、土地利用上の問題に対処し、望ましい土地利用に向け緩やかに誘導を図ることを目的に、開発の構想段階から京都市と事業者との協議及び市民への情報の公開をきっかけとして、京都らしいまちづくりを目指すための手続を条例により制度化した。

市・事業者・市民の責務を定めた

・京都市の責務は

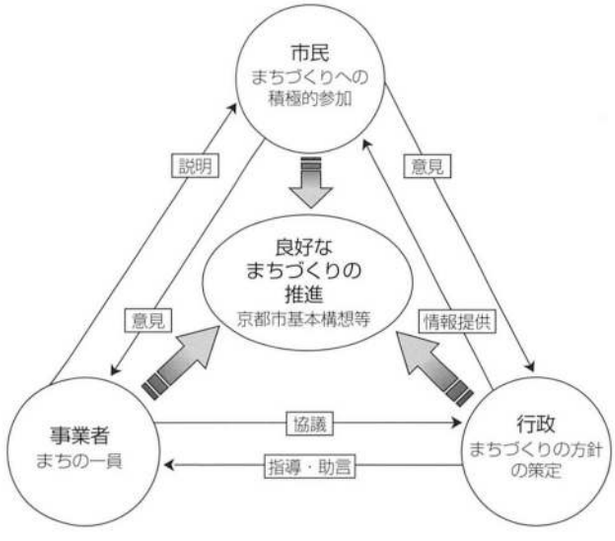
市民の意見を聴いてまちづくりに関する方針を策定し、まちづくりに関する情報を積極的に市民に提供するなど、必要な施策の実施に努めなければならない。

・事業者の責務は

開発事業を行うに当たっては、その内容をまちづくりの方針に適合させるよう努めるとともに、市民と共にまちづくりの課題の解決に努めなければならない。

・市民の責務は

まちづくりの課題について関心を持ち、その解決に向けて主体的に行動するよう努めなければならない。



良好なまちづくりの推進に向けた三者の関係

条例の対象は

この条例においては、市街化区域内で、土地の面積が10,000平方メートル以上の開発事業及び土地の面積が1,000平方メートル以上10,000平方メートル未満の集客施設を含む開発事業について、それぞれ届出を事業者に義務付け、市民や行政と協議していくよう定めている。

・集客施設とは

次に掲げる建築物をいう。

ア　物品販売業を営む店舗又は飲食店
イ　ボーリング場、スケート場、水泳場、その他これらに類する別に定める運動施設
ウ　ホテル又は旅館
エ　カラオケボックスその他これらに類するもの
オ　劇場、映画館、演芸場又は観覧場
カ　公衆浴場

条例に定める手続は

届け出た後の原則的な手続を、土地の面積が10,000平方メートル以上の開発事業を例に説明すると、次のようになる。

・公告・縦覧・説明会の開催

市長は、届出がなされた開発構想の概要を公告・縦覧し、事業者は、この縦覧期間内に届出事項を周辺住民に周知するための説明会を開催する。

・意見書、見解書の提出

開発構想に意見のある者は、意見書を提出することができ、事業者は、この意見書に対する見解書を作成し、市長に提出する。

・指導・助言及び勧告

市長は、事業者に対し開発構想がまちづくりの方針に適合するように、指導・助言をすることができる。

市長は、指導・助言を行ったにもかかわらず、なおその開発構想が本市のまちづくりの方針に適合せず、当該土地を含む周辺の地域の適正かつ合理的な土地利用を図るために著しい支障があると認められる場合には、開発事業者に対し勧告することができる。

・公表

市長は、勧告したにもかかわらず、なおその開発構想が本市のまちづくりの方針に適合していないと認められる場合、本市の指導・助言及び勧告の内容やこれらに対する開発事業者の見解や対応等の事実経過を公表することができる。

・審査会からの意見聴取

指導・助言、勧告、公表を行うに当たり、市長は、必要に応じて土地利用調整審査会の意見を聴くことができる。

・関係書類の閲覧

届出書、説明会の状況を記載した報告書、意見書に対する事業者の見解書、開発構想を変更する場合の変更届、指導・助言の書面及び勧告書については、閲覧することができる。

・土地面積が10,000平方メートル未満であるものに関する特例

土地面積が10,000平方メートル未満の開発事業については、公告・縦覧、意見書の提出、見解書の提出の手続を適用しない。

最後に

京都市では、開発構想などの情報を公開するこの条例がパートナーシップのまちづくりをより推進するためのきっかけとなり、市民・事業者・行政が一緒になって、「京都らしいまちづくり」について取り組んでいきたいと考えている。

（わだ　とよし）

再生骨材の現状

伊藤信孝
㈱京星 エコ生コン部課長

わが国では年間で８～９億トンもの骨材が消費され、そのうち約３分の２がコンクリート用に利用されている。以前から骨材資源の枯渇が問題となっているが、骨材採取によって生じる環境破壊も重要視されるようになり、良質な骨材を確保するのがかなり困難になってきている。また、建設関連事業における建設廃棄物の排出量は、平成７年度（1995）は9,900万トンにもなり、平成２年度（1990）の7,600万トンに比べて30%増加している。処分される建設廃棄物4,100万トンのうちコンクリート塊の処分量は1,300万トンにもなり、全体の30%を占めている。そしてコンクリート塊の再利用率は、1990年実績で48%、1995年実績で65%である。リサイクルプラン21における2000年の目標値90%を考えると、より一層の再利用を推進する必要がある。

こうした状況に鑑み、解体した建物から発生するコンクリートを破砕して再生骨材を製造し、再生骨材コンクリートとして再利用を促進していくことは、省資源・環境保護を図る上で非常に有用である。

再生骨材の利用を推進するために、建設省では総合技術開発プロジェクト（総プロ）「建設副産物の発生抑制・再生利用技術の開発」からなる、再生骨材の品質（案）と再生骨材コンクリートの種類と用途の基本が示された。それによると、吸水率３%以下の再生粗骨材（１種）であれば普通細骨材と組み合わせて一般のRC構造物に、吸水率３～５%の再生骨材（２種）であれば普通細骨材と組み合わせて土に接する基礎に適用することが可能、と再生骨材の品質に応じた用途の基本が示された。

現在、解体コンクリートから得られる再生骨材は、吸水率が粗骨材で５%前後、細骨材で10%強程度の品質を有するものが多い。再生骨材の利用を推進していく端緒として、上記１種に相当する高品質な再生骨材を天然骨材の代替品として使用できるようになれば、はずみがつくのではないかと考えている。

コンクリート廃材の比重分離

コンクリート用骨材の品質評価の支配的な要因は、吸水率であり、特に再生骨材においては、砂利の骨材部分に吸水性のあるモルタルが固着している。砂利とモルタル等を分離させることが、評価対象のキー技術となる。そこで、砂利とモルタル等は比重が異なるため、高品質な再生骨材の製造については、比重分離法は、有効な手段であると考える。

高品質再生骨材製造プロセス

再生骨材製造プロセスは、基本的に、受け入れ工程、破砕工程、剥離工程、選別工程及び水循環システムで構成される鉱物資源を分離選別するプロセスであるが、建設副産物の廃材コンクリートは、以下に示す特徴を持つ。

１）コンクリート塊は選択的に回収されてはくるが、人工的に製造された複合廃材、例えば金属系、非金属系、プラスチック系、ガラス等窯業系材料、木材系及び土砂が混在している。

２）コンクリート塊には、長物の鉄筋等金属系材料が固着している。

３）破砕のみの粒度分離では、固着しているモルタル分を分離できない。

４）廃材比重は、広範囲で再生骨材の分離比重は2.5程度を基準としており、湿式比重分離法としては、高比重分離帯に属し、従来では難しいとされる分離帯に属する。

５）最終製品となる粗骨材とモルタルの比重差が0.3程度であり、分離比重範囲が狭い。したがってプロセスの特徴は、

①受け入れ工程は、混在建築副産物を容易に受理できるシステムが必要である。

②破砕工程は、異なる物質を取り除く破砕システムであること。

③剥離工程は、骨材と固着物質を分離させる機能を擁するシステム構成が必要であること。

④選別工程は、混在物を容易に除去できるシステムと高比重側が製品であることから、分離システムの構成機能を高度化させる。

５）水循環システムは、完全循環システムの構成が必要。また、泥土処理システムは、回収処理システムを考慮する必要がある。

選別工程上の留意点

再生骨材の製品品位をJIS A 5005と同等とするためには、比重選別工程が必要不可欠であると考える。従来の選別技術をそのまま導入しても高比重域、狭い比重分離帯の選別において、歩留まり効率をよくするには、構造上注意を要するものがある。システム構成を確かなものにするためには、以下のことに留意することが必要である。

１）コンクリート塊以外の混在分の選別処理手段

２）沈降速度が速く、進行速度が遅い骨材の分離手段

３）粒子進行横方向の移動性の考慮

４）排出装置の構造と制御機構

５）軽比重骨材の高比重側への迷い込み量の制御システム

６）軽比重骨材内残留混在物の除去

過去の技術の掘り起こし

最近、廃棄物のリサイクルの活用の促進を言われているが、なかなか前に進まないのが現状である。

はじめに記述したように、建設関連事業における建設廃棄物の排出量は、年々増加していくであろうと考えられる。再生骨材の利用についても、法整備またはJIS等での規制問題を調整することによって、広い範囲での使用が可能になると考えられる。

なお、本技術の根底には、過去の技術の応用転換がある。特に廃棄物のハンドリング処理技術は、比較的応用運用が出来る技術が多いと考えられる。われわれとしても、もう一度過去に使用した技術の見直しにより、適応に合った技術の掘り起こしが必要ではないだろうか。

（いとう　のぶたか）

日本のディスポーザーの現状

鎌田　久
㈱テラルキョクトウ技術部担当部長

ディスポーザーは生ごみを細かく粉砕する機械で、1930年代にアメリカで開発されたものである。日本では生ごみ処理が簡単に出来る便利さより、一時期使用されていた。

ディスポーザーの機構は、モーターの主軸の左右2カ所に角形の鎚（ハンマー）を付設した回転板を取り付け、生ごみをモーターの回転力で振り回し円周上に設けた溝状の刃にハンマーで押し当てながら細かく擦りつぶすというもので、生ごみを瞬時に粉砕する機械としてはシンプルなものである。

わが国では昭和30～35年ごろより販売が開始され、全国的に普及するかに見えたが、台所排水の水質が極めて悪化（BOD負荷が一般の台所排水の3倍ぐらい）するため、下水道の処理能力や下水道配管の詰まり、においなどの問題が表面化し、環境の悪化を理由に各自治体は一般市民に対してディスポーザー使用自粛の働きかけをしたため、急速に衰退していった。

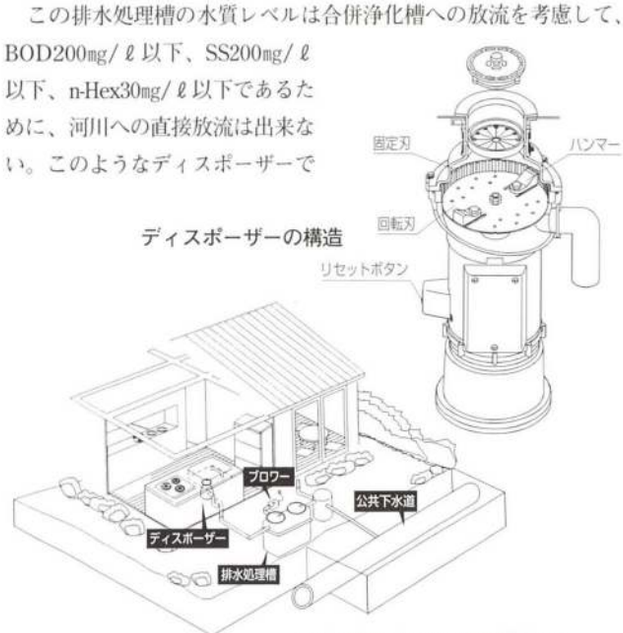
しかし生ごみ処理は深刻な問題を抱え、燃やせばダイオキシン、埋め立てるにもスペースが確保できないなどの行政側の課題と、住宅の高層化や高齢者・夫婦共稼ぎ世帯・日本の習慣に不慣れな外国人世帯でのごみ出しの不便さなど住民側の課題も膨れ上がってきた。こういった状況に鑑み、生ごみを源流で処理できるディスポーザーの使用が改めて検討されるようになってきた。

ディスポーザーによる生ごみ処理システム

ディスポーザーを使用することで過去のあしき時代の二の舞いにならないようにするために、建設省は平成6年度から8年度にかけて「ディスポーザーによる生ごみリサイクルシステムの開発」として、ディスポーザーの運用の具体的な検討を行った。

ディスポーザーを使用して生ごみを処理するシステムとは、ディスポーザーで生ごみを細かく粉砕したものを台所排水と一緒に排水管を経由して地中に埋設した排水処理槽に流し込み、微生物分解により完全に液状化させ浄化した後に、合併浄化槽または公共下水道に放流するというものである。

この排水処理槽の水質レベルは合併浄化槽への放流を考慮して、BOD200㎎/ℓ以下、SS200㎎/ℓ以下、n-Hex30㎎/ℓ以下であるために、河川への直接放流は出来ない。このようなディスポーザーで細かく粉砕した生ごみをすべて水に変えて流すという方式に加え、粉砕した固体ごみと汚水を分けて（固液分離）固体ごみは乾燥して微生物で分解して肥料（コンポスト）として再利用し、汚水は排水処理槽で浄化し、合併浄化槽または公共下水道に放流するという方式もある。



ディスポーザーの構造

生ごみ処理システムの概念図

ディスポーザーを用いた生ごみ処理システムは、ディスポーザーと排水処理槽の組み合わせだけにとどまらず、排水性を考慮し、排水横枝管管径を40または50㎜、排水勾配を1／50以上としている。

ディスポーザー及び排水処理槽の性能、前述の施工基準に沿った工事、維持管理の実行など細部にわたるメーカーとしての品質評価として建設大臣が認可したものに限り、ディスポーザーが生ごみ処理の全体システムの中で使用できるようになり、普及し始めた。

マンション販売への波及効果

低金利政策もあってか、徐々に住宅着工件数は回復しつつある。最近のマンションの付帯設備は浄水器や食器洗浄機の備え付けも標準という物件もあるが、ディスポーザーによる生ごみ処理システムを採用したマンションの売り出し広告を見る機会が多くなってきた。特に高層マンションでのごみ出しは、エレベーターで下階に降りて所定の場所に搬送する労力やフロアーを液汁で汚さないよう、何枚ものごみ袋で覆っての気遣いは大変なものである。毎日の生ごみ処理が簡単に出来る装置の標準装備は、より快適な生活を顧客に提供しようとする売り手側の思いと生ごみの処理に苦労する買い手側のメリットが合致したもので、売れ行きも上々のようである。

実際に使用している某マンションの住民からは、流し台の三角コーナーや流しトラップのカゴの中に生ごみがないことは台所の革命とも言え、これまでのごみ出し処理のわずらわしさから解放された喜びを感じていると大好評であるというアンケート結果もある。

これまで家事を支えてきた多くの家電製品を例に見れば、今や全自動洗濯機はほとんどの家庭で使用されているように、文明の力で少しでも楽になるものであれば使いたい、そういった主婦の希望が生ごみにも移ってきたことは紛れもない事実である。

ディスポーザーシステムの課題

生ごみを処理するのにどのくらいのお金がかけられるか？といっても、一般家庭のゴミ収集車が持って帰ってくれる現状では、タダに近い回答が大半かも知れない。それぞれの生活様式の違いや事情を勘案して、生ごみ処理の利便性や快適性を求め、検討しつくした結果が、今回紹介したディスポーザーシステムであるが、ディスポーザーや排水処理槽、これらを維持管理していくためには専門家による点検は必要不可欠であり、いくばくかの費用も発生する。それぞれの製品単価の低減を計り、一戸当たりの負担金を安くすることが普及度を上げる条件の一つと言える。

また、ディスポーザーは運転音が大きいとされてきたが、隣室や下階室への音、振動の伝播を限りなく小さくする製品改良や排水処理槽の設置スペースの縮小など、日本の住宅事情に即した製品仕様に改善改良することも今後の課題と言える。

（かまだ　ひさし）

焼却灰・下水汚泥を再利用した外装壁タイル

新井一彦　柳田克巳
鹿島技術研究所建築技術研究部グループ長・工博　同　主任研究員

エコチャートの概要

近年、資源循環型社会の構築に対する意識が高まってきており、排出される廃棄物も重要な資源として再生利用するための技術開発が活発化している。このような状況の中で、焼却灰や下水汚泥等の廃棄物を主原料として再利用した外装壁タイル（商品名：エコチャート、以下この呼称を用いる）を開発した。エコチャートの特徴は、高いリサイクル率と品質および環境に対する安全性であり、このような特性を認められて1999年4月には、㈶日本環境協会より「エコマーク商品」の認定を取得している。エコチャートは、一般タイルと同等の設計価格で約120色のカラーバリエーションが可能であり、現在に至るまでにトンネルの内壁や事務所ビルの外装等に適用されている（**写真1**）。

以下、エコチャートの製造工程の概略と品質や安全性に関する特性について紹介する。

エコチャートの製造工程

図1に焼却灰・下水汚泥からエコチャートを製造する一連の工程を示す。まず焼却灰・下水汚泥を溶融炉で溶融し、さらに結晶化炉において再加熱・除冷することによって「結晶化石材」と呼ばれるエコチャートの主原料を製造する。結晶化石材（質量比で50～70%）に、粘土などの可塑性原料と長石などの非可塑性原料（質量比で30～50%）を混合し、粒径100μm以下の微粉状に粉砕したタイル原料をタイル工場において成形・焼成することによってエコチャートを製造する。タイルの成形は乾式加圧成形法、焼成はトンネルハウスキルン方式を採用しているため、従来の湿式焼成方式と比較した場合、低温かつ短時間で製造することができ、省エネルギー化が図れるとともに、温室効果ガス（CO_2）の排出抑制にも寄与している。**写真2**に製造したエコチャートの外観を示す。

エコチャートの品質と安全性

1．品質試験結果

「JIS A 5209」（陶磁器質タイル）に準拠して実施したエコチャートの品質試験結果を**表1**に示す。特に吸水率および曲げ強さは、JIS規格の外装タイルの基準値を十分上回っており、一般タイルと比較しても高い性能を有している。

2．安全性に関する試験結果

エコチャートの環境に対する安全性を確認するために環境庁告示第46号に基づいて溶出試験を実施した（**表2**）。いずれの有害重金属についても溶出量は検出限界以下で、環境庁告示の「土壌汚染に係わる環境基準」を満足した。

以上の試験結果から、下水汚泥や焼却灰を主原料としたエコチャートは、品質・安全性に関する規格値を満足するだけでなく、従来の一般タイルの性能を上回る高品質なものであることが明らかになった。

むすび

以上、焼却灰や下水汚泥を主原料とするエコチャートについて、製造方法と基礎物性を紹介した。今後は、エコチャートの継続的な適用と他の廃棄物を再利用したタイルの商品化にも取り組んでいく予定である。本開発にご協力いただいた関係者の皆様に謝意を表します。

（あらい　かずひこ／やなぎた　かつみ）



写真1　事務所ビル外壁への適用事例

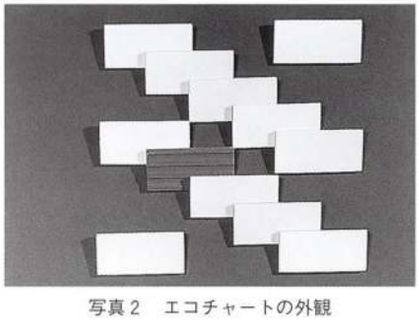


写真2　エコチャートの外観

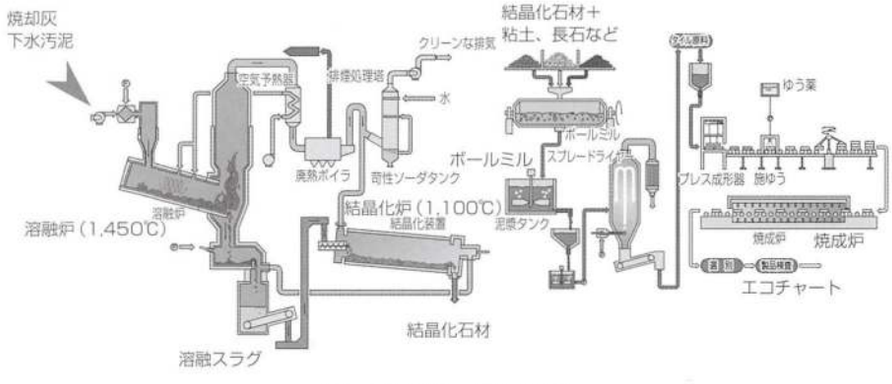


図1　エコチャートの製造工程

表1　エコチャートの品質試験結果

試験項目	試験結果	JIS基準値*1
タイルの長さ	226.9～228.0㎜	227.0±3.0㎜
タイルの幅	60.2～61.0㎜	60.0±2.0㎜
タイルの厚さ	10.2～10.3㎜	10.0±1.5㎜
でこ反り	0.22～0.35㎜	2.0㎜以下
へこ反り	0.01～0.06㎜	1.5㎜以下
ねじれ	0.00～0.09㎜	1.5㎜以下
側反り	0.02～0.28㎜	2.0㎜以下
長辺のばち	0.01～0.73㎜	3.0㎜以下
短辺のばち	0.02～1.08㎜	2.0㎜以下
吸水率	0.06～0.08%	1.0%以下
耐貫入性	貫入なし	貫入のないこと
耐摩耗性（参考）	0.004g	0.1g以下
曲げ強さ	488.7～531.2N/㎠	100N/㎠以上
耐凍害性	異常なし	——
耐酸性	異常なし	——
耐アルカリ性	異常なし	——

*1）JIS A 5209「陶磁器質タイル」のうち、外装用陶磁器質タイルの基準値

表2　エコチャートの溶出試験結果（単位：mg/ℓ）

項目	分析値	基準値*2
鉛	ND	0.01
カドミウム	ND	0.01
砒素	ND	0.01
水銀	ND	0.0005
六価クロム	ND	0.05
セレン	ND	0.01

*2）環境庁告示第46号「土壌汚染に係る環境基準」に定められる基準値
ND：検出限界値であることを示す

舞洲でアラビアンナイトの世界？をのぞく

植村典人
出版委員／大阪府立今宮工業高等学校

楠本照男委員（昭和設計）のお世話で、舞洲工場見学会を兼ねた出版委員会が7月13日（木）現地で行われた。

16：00、環状線の大正駅に集合する。参加人数は11名。予定より30分遅れで大正駅をタクシーに分乗し、現地へ向かった。

16：50、現地到着。われわれの目に飛び込んできた建物は、外観・色彩等およそ焼却施設とは思えない原色を多用したもので、その第一印象は中近東のお城という感じ。まるでアラビアンナイトの世界へ迷い込んだようであった。

17：00、早速現場事務所で説明を受ける。説明は、監理事務所の奥藤所長（昭和設計）、デザイン担当の神谷氏（昭和設計）、工事担当の佐藤氏（JV）、中沢氏（JV）の4氏であった。

この舞洲工場は、大阪市環境事業局と都市整備局の共同発注工事として建設中で、SRC造・7階建（一部地下2階建）、延べ床面積約55,800㎡、1日900tの処理能力をもつ西日本最大級の焼却施設である。自然と調和した外観となっているとともに、ダイオキシン対策・エネルギーの有効利用・町づくりとの調和・環境保全対策など、環境・緑化に配慮した建物となっている。

建築デザインは、建物が地域に根ざし、エコロジー・技術と芸術との融和のシンボルとなるようデザインされていて、デザイナーは、オーストリア・ウィーン生まれのフリーデンスライヒ・フンデルトヴァッサー氏である。氏は、日本ではキッズプラザ大阪の内装設計などを手掛け、渦巻きなどの形態や原色を多く取り入れた色彩を用い、独特の世界観をもつ画家として知られている。

17：40、見学に出発。エレベータで屋上へ。緑化に力を入れ、3、4、6階に屋上庭園があり、多くの中低木が植栽されている。ここ屋階でも1.2m幅のパラペットに土を入れ植栽されている。さらに、途中階において、窓から植木が顔を出している箇所があり、驚かされた。木が大きくなった場合の管理のことが一瞬頭をよぎったが、植木にはあまり手をかけないとのことであった。

外壁は特に印象的で、赤や黄色の飾り柱が多く用いられ、その頂部には、FRP製の金色や黒色の直径3m玉が125個あまり用いられている。窓も多く見られるが、その7割はイミテーションであり、その窓から植木がのぞいているのである。

見学者は西入り口から5階へ上がり、順次下へ降りていく順路になっている。途中ゴミ回収ピットをのぞき込むことができ、9台の回収車が同時に搬入し、大型クレーンがゴミを掴んで焼却炉に投入するところが見られる。

施設の隣には変断面スリット工法で立ち上げた高さ120m・壁厚3mの煙突がある。外壁にはデコレーションとして窓、マウンテンビレッジと呼ばれる家、赤い飾り柱などが取り付けられ、やはり窓から植木が飛び出している。頂部には直径22m、高さ12mのゴールデンボールが金色に輝き、夜はグラスファイバー状の光体が光る見事な煙突がある。建物も含めて大阪の新名所になること請け合いである。





高さ120mの煙突。頂部の球体は金色に輝く

その後、タクシーに分乗し、委員会会場に向かった。

時間も押し迫ってきていたので、委員会は、①プロのノウハウと特装本の経過報告を聞いて終了し、②今後のテーマと執筆者選定については9月の定例委員会に持ち越した。

続いて、懇親会に移った。夕方からの見学会であったが、暑いなかで喉が渇いていたこともあり、生ビールを飲んだときは5臓6腑に染み込んでほんとうにおいしかった。多くの料理がテーブルに並び、店主からのサービスとして鯛の塩包み焼きが出され、喉も潤い、雑談に花が咲き、楽しいひとときを過ごした次第である。

今では、委員会の後の懇親会は欠かせない存在となっていて、この場の雑談が、委員会とは一味違う情報交換の場となり、委員同士の信頼が一層深まっている。

（うえむら　ふみと）



懇親会、喉うるおえば話にいっそう花が咲く

最新の同窓会だよりと文章チェックリスト

山田　修
修　建築事務所

写1は，最新の同窓会だよりである．タイトルは「生きている喜びを確認する」とした．それにまつわる話を入れたが，何とか特徴は出せたと思っている．

ここで，図1の私流の「文章チェックリスト」を作ってみた．それにより当文章を採点してみよう．

・簡潔の項：⑥ 漢字とひら仮名のバランスは30：70に近いか，はダメで－5点．

・新鮮の項：同窓会の記事は，おしなべて形式的で新鮮味が出しにくい．このなかで何とか同味を出そうと努力はした．「サイタ　サイタ……」は最初の同窓会だよりに記したもので始めて読む人には通じない，と考える．
⑥ 新しい材料が入っているか，は－5点とした．

・活力の項：⑥ 読むと元気がでてくるか，はダメで－5点．

・最終チェック：文章は音楽である，はダメで－5点．

以上で，計－20点ゆえ，80点（a：良好）となる．少し甘い点数だが，お許しを願いたい．なお，表題は結語の「生きている喜びを確認する集い」より，あとで決定した．

（やまだ　おさむ）



伊丹小学校昭和16年3月卒業
「生きている喜びを確認する」同窓会

当会も11月18日で5回目を迎えた。毎回盛況である。8クラスの各幹事の支えが今日の継続につながっている。感謝したい。

第1回目は百三十余名の圧巻ぶりだった。が、今回は六十余名の出席である。阪神大震災の影響があった、と思う。

大路先生はじめ同窓生二名が、この一年間で鬼籍に入った。減ることはあっても増えることのない会である。いまだ現役の人もいれば、自適の人もいる。過半の人が子育てから開放され、趣味と健康づくりに励んでいる年代だ。

会は、前半をセレモニー、後半を懇親会とした。物事のけじめをつけたい年代といえよう。懇親会では、クラス意識を呼びおこしながら大いに昔ばなしに花が咲いた。サイタ　サイタ　サクラガ　サイタのように……。

同窓会は、それでいい。現在を語らず過去を語るのがいい。過去から未来にとぶ話も夢がある。「夢おい酒」を歌と共に飲むのもよかろう。

六十歳をこえた同窓会は「生きている喜びを確認する集い」としたい。最後の数人となるであろう同窓会まで楽しく生き続け、出席して欲しい、と願っている。

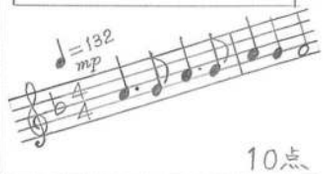
（山田修　記）

写1

文章チェックリスト

あら書き ——→ 推敲 ——→ 清書 ——→ 推敲 ——→ 清書（最小5段階をふむ．推敲は5～10回）

読み手の立場で文章を書いたか

条件	具体例	努力目標	最終チェック
簡潔（文章の表現）	① 文章は短いか ② 主語・述語の関係はハッキリしているか ③ 要点は箇条書きにしたか ④ 誤字・脱字・当て字はないか ⑤ 句読点は正しく打っているか ⑥ 漢字とひら仮名のバランスは30：70に近いか	もっと簡潔にならないか （辞書を活用したか） （1つ5点） 30点	総合評価 80点以上　a：良好である． 60～79点　b：やや良い． 40～59点　c：良くない． 39点以下　d：不合格．
新鮮（内容の記述）	① 他人の書けない文章を書いたか ② 具体的・正確に書いているか ③ 回りくどい表現になっていないか ④ 論旨が明快で一貫性があるか ⑤ 内容に矛盾するところはないか ⑥ 新しい材料が入っているか	もっと新鮮味をだせないか （起→承→転→結になっているか） （1つ5点） 30点	“文章は音楽（リズム）である．リズムのない文章は文章ではない．” 声をだして読めば（1分間400字のスピード），「いい音楽を聞く」ように心地よく響いてくるか． 少し時間をあけ・場所をかえて読んでみる．→必ず欠点がある，と思え．
活力（筆者の気持）	① リズムとテンポがでているか ② 現在形と過去形をとりまぜているか ③ 第三者的な冷静さを保っているか ④ 文字は丁寧に書いているか ⑤ 全体の構成はまとまっているか ⑥ 読むと元気がでてくるか	さらに活力をもりこめないか （文章が軽快に流れているか） （1つ5点） 30点	 10点 合計 100点

〔注〕 具体例は，①～⑥の1つにつき5点，最終チェック10点の計100点満点とする．具体例は0点，5点で中間点はなし．最終チェックは5点，10点で0点はなし．以上の点を合計して総合評価を行う．減点法が採点しやすい．

図1

非常警報器具・非常警報設備－1－

西尾　勇
松下電工㈱電材分社

非常警報器具とは

火災発生時に、防火対象物内にいる人々に、拡声音や警報音などの音響によって火災の発生を知らせるものであり、警鐘、携帯用拡声器、手動式サイレンなどの持ち運びできるものを言い、収容人員が20～50人程度の防火対象物に設置されます。

非常警報設備とは

火災発生時に防火対象物内にいる人々に、非常警報器具と違い広範囲に確実に知らせるために、建物にあらかじめ固定設置された非常ベル、自動式サイレン、放送設備を言います。

非常警報設備のうち、火災発生時にスピーカを介した音声により防火対象物内の人々に対し的確な通報、避難の誘導をするための設備を非常用放送設備と言います。

自動火災報知設備を設置している防火対象物にあっては、自火報設備の有効範囲については非常警報設備を省略できる場合もあります。

非常ベル・自動式サイレンシステムの構成

非常ベルは、警報音としてベルを用いるもので、火災を発見したときに押す起動装置、音響装置（ベル）、起動装置の位置を知らせる表示灯、停電時でも10分間電源をバックアップできる電源部により構成されます。なお、起動装置と表示灯に音響装置を一つの筐体にまとめたものを一体型と呼びます。電源部は通常操作部と一体にされます。（図1～5）

自動式サイレンは、ベルの代わりに音響装置にサイレンを用いたものですが、一般的にはほとんどが非常ベルを採用しています。図6のように一点鎖線で囲った部分を一つの筐体に複合させたものを複合装置（図7）と言い、一斉鳴動させる比較的小さい規模のものに設けます。系統図を図8に示します。



図1　起動装置



図2　表示灯



図3　非常ベル



図4　一体型



図5　操作装置
2回線



図7　複合装置



図6　非常ベルの構成

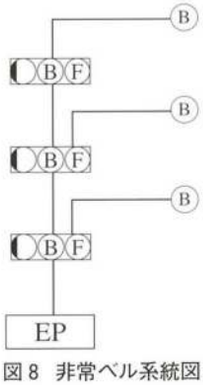


図8　非常ベル系統図

非常警報設備用シンボルマーク			
Ⓑ	非常ベル	RMF	非常用遠隔操作器
◐	表示灯	△	天井埋込型スピーカ
Ⓕ	起動装置	◐	壁掛型スピーカ
BF	一体型	ET	非常電話子機
EP	電源部（操作部）	ET	非常電話親機
AMPF	非常用放送アンプ	—	端子盤
			自動火災報知設備受信機

非常用放送設備のシステム構成

非常用放送設備は起動装置、表示灯、スピーカ（図10）、増幅器、操作装置、電源により構成されていますが、一般的には自動火災報知設備と連動するものにあっては、発信機が起動装置の役目を果たすので起動装置と表示灯が省略でき、増幅器、操作装置及び電源部は一つの筐体にまとめられます（図11、12）。系統図を図9に示します。遠隔操作器は、非常用放送設備を本体より離れた場所で操作する機器であり、本体操作部とは優先関係のない並列動作を行うもので、基本機能は本体操作部と同等です。また、非常電話設備を設ける場合は、非常電話子機が起動装置の役目を果たします。

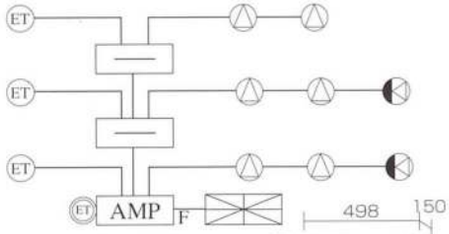


図9　非常放送系統図


図10 コーン型スピーカ



図11 壁掛け型



図12 ラック型

鳴動（放送）区域の決め方

（1）比較的規模の小さい防火対象物は、全館一斉鳴動方式となり、複合装置を設置する場合は、最大20台までの接続が可能です。

（2）地上5階以上で延べ面積が3000㎡を超える防火対象物にあっては、5階以下ごとに1ブロック（回線）とし、区分鳴動（直上階鳴動）方式をとります。この場合、操作部（装置）が必要となります。

（3）非常用放送設備の場合は階別放送回線を基本としますが、起動のしかたにより動作が次の3通りあり、それぞれに基本動作フローが異なります。

・自動火災報知設備の感知器が作動した旨の信号による起動
・発信機または非常電話による起動
・感知器発報放送を手動起動

非常放送音声警報について

音声警報とは、あらかじめ放送設備に組み込まれた音声合成による放送内容を自動的に、または簡単な操作により放送できるようにしたものです。

これには「感知器発報時の放送」「火災時の放送」と「非火災時の放送」があり、次号に、その詳細をご紹介します。

参考文献　『非常用放送設備マニュアル』第一法規

（にしお　いさむ）

[お知らせ] information

村野藤吾建築設計図展

■展覧会：「広島世界平和聖堂」と「日本ルーテル神学大学」を中心に
日時　2000年12月4日(月)～15日(金)
10：00～16：00　土・日は休館
場所　京都工芸繊維大学・美術工芸資料館
京都市左京区松ヶ崎
(京都市営地下鉄松ヶ崎駅徒歩5分)
入場　無料（図録は有料、会場にて申し込み）
■記念講演・シンポジウム「日本近代建築における村野藤吾の位置」(仮題)
①記念講演／内藤廣氏（建築家）
②シンポジウム／福田晴虔氏（九州大学教授）、内藤廣氏、岸和郎氏（京都工芸繊維大学教授）――司会：松隈洋氏（京都工芸繊維大学助教授）
日時　2000年12月4日(月)　18：00～20：00
場所　京都工芸繊維大学・東1号館1階101号講義室
定員　180名（当日先着順）
入場　無料
詳細問い合わせは、京都工芸繊維大学造形工学科6号館内「村野藤吾の設計研究会」事務局（笠原一人）へ。
E-mail:kasahara@dad.kit.ac.jp.FAX 075-724-7605

「草のちから、藁の家」

建築資材として現代社会では少し影の薄かった草や藁を、積極的に利用しようとする動きをとらえた展覧会「草のちから、藁の家」がINAXギャラリーで開かれている。入場無料。
会場には、2000年1月にメキシコ北部で行われたストロー・ベイル・ハウスを建築するワークショップに参加した写真家・小松義夫氏が撮影したパネル写真や、藁ブロック（ストロー・ベイル）の展示、藁の家のつくり方も展示されている。
会期　2000年9月4日(月)～11月18日(土)
10：00～18：00　水曜日休館
会場　INAX大阪ショールーム2階
大阪市西区新町1-7-1



ストロー・ベイル・ハウスの建設
メキシコ北部、オブレゴン市郊外のソーチルで行われたワークショップのようす。1個2～30kgのストロー・ベイルをれんが積みと同様に互い違いになるよう積み、カリソー（細い竹のような植物）と紐で固定する。隙間には藁分の多い泥を詰めて、壁の下塗りをする。
撮影／小松義夫

ART BOX NAGOYA2000

竹中工務店名古屋支店設計部員の作品を集めた「ART BOX NAGOYA2000」が開かれる。入場無料。
日　時　2000年11月14日(火)～18日(土)10：00～19：00
会　場　名古屋ATビル特設会場（1階～地下1階）
―竹中工務店名古屋支店のビル―
名古屋市中区錦1-18-22
テーマ　『意図』―INTENTION―
ささやかな「意図」がすべてのはじまり
次世紀に何を「意図」し、何を創造していくのだろう
内　容　(A) ART BOX―30cm立方にこめる「ものづくり」の想い
(B) MASS ART―設計部員160名の集合作品。「糸」という線状素材（微分化された素材）による空間の創出（積分化）

国際学生照明デザインコンペ

コイズミ国際学生照明デザインコンペ第14回のテーマは、「ライティングエコロジー―ライティング・ライフライン―いのちをつなぐあかり」。全世界の学生より、生命の危機を乗り切るために道具として働くあかり、人々を救援するあかりの提案を求めている。
受付　①登録　～2001年1月30日（当日消印有効）
②作品　2001年2月10日～2月20日（〃）
応募　写真、図面、スケッチ等の資料をB3サイズまでの厚紙に貼り、出品票を貼付して提出。
送付　〒541-0051　大阪市中央区備後町3-3-7
小泉産業㈱内、コイズミ国際学生照明デザインコンペ事務局　TEL 06-6262-1369
審査　栄久庵憲司／粟津潔／菊竹清訓／葉祥栄／パオロ・ロマッツィ／アンジェロ・コルテージ
賞　金賞1点100万円、銀賞2点各30万円ほか

「Archi-space 2001」建築100人×100冊展



大阪市港区海岸通りの倉庫群をあとにして、京町堀に新社屋を建てたAD＆A gallery（代表：駒田哲男氏、竹村楊子氏）は、建築に関心のある人100人に呼びかけ、100冊の本の制作・展示を企画している。
会　期　2001年2月5日(月)～2月17日(土)
場　所　AD＆A gallery 1・2F
主　催　Archi-space2001実行委員会（中田誠／花田佳明／柏樹靖夫／松隈章）＋AD＆A
テーマ　“建築のもつ多様な力、建築と私たちのさまざまな関係、建築についてのあなたの思い、そんなものを一冊の本にしてください。設計プロセスでのスケッチ集、建築がみせるさまざまな姿の写真集、記憶に残る印象的な空間体験のドキュメント、建築の可能性をめぐる企画書など、内容は自由です”
応募対象　少しでも建築に関心のある人。先着順で、おおむね100人を目標にする。
申込み　住所・氏名・年齢・会社名・電話・FAX・メールアドレス、および出品する作品の大きさを12月15日までにAD＆A galleryへ。
出品料　出品料7000円（DM・会場設営代等）は11月末日までにAD＆A galleryへ持参のこと。遠方の応募者は搬入時同時に。
提出作品　上記テーマに即したもの。大きさ・分量・表現方法等、自由。ただし、「冊子」状に綴じて「めくって読む・見る」ことができる形に。「本」という形式についての新しい提案等も歓迎。
作品搬入　2001年2月3日(土)10時より
問い合せ　AD＆A gallery　TEL 06-6445-7733
〒550-0003　大阪市西区京町堀1-6-12
E-mail:ada@remus.dti.ne.jp

青年海外協力隊、平成12年度秋の募集

青年海外協力隊は、国際協力事業団（通称JICA／事務局長・金子洋三）が実施する国の事業で、昭和40年発足以来、66カ国へ約2万名の青年隊員を派遣しており、現在も59カ国で約2500名の隊員が活躍している。JICAでは隊員募集を始めており、この間、各地で約270回の募集説明会を開催する予定である。
募集期間　2000年10月15日～11月20日
募集職種　土木建築、農林水産、教育文化など140職種
募集規模　約800名
応募資格　平成13年4月1日現在20歳～平成12年11月20日現在満39歳の日本国籍を持つ人
応募方法　所定の願書をJICA協力隊事務局（東京都渋谷区代々木2-1-1新宿マインズタワー6F、〒151-8558、TEL 03-5352-7261）へ提出。
選考試験　一次選考／筆記試験と健康診断
二次選考／面接試験と健康診断
訓　練　合格者には出発前80日間の国内合宿訓練
派遣国　アジア、アフリカ、中南米、大洋州、中近東、東欧の約60カ国へ2年間派遣（単身）
隊員への待遇として現地生活費、現地住居、渡航費、補償制度などがあり、詳しくは住所・氏名を明記して協力隊事務局国内課資料請求係（〒163-8696新宿郵便局局留）へ、390円分の切手を同封のうえ、資料請求されたい。

大阪まちなみ賞等の表彰式

第20回大阪都市景観建築賞（大阪まちなみ賞）、第7回大阪・心ふれあうまちづくり賞は6、7月に市民から推薦募集を行い、選定作業をすすめているが、両賞の表彰式・記念講演の開催詳細が決まった。入場無料。

と　き　2000年12月8日(金) 14：00～16：30
ところ　大阪市立中央区民センター　TEL 6267-0201
　　大阪市中央区九太郎町1-2-27
定　員　500名（先着順）
申込先　行事名・住所・氏名・電話番号を記入して、ハガキかFAXで下記へ。入場券発行。
　　大阪・心ふれあうまちづくり賞及び大阪都市景観建築賞運営委員会事務局（〒540-0011大阪市中央区農人橋2-1-10 ㈳大阪府建築士会内、FAX 06-6943-7103）

●第1部／表彰式
●第2部／記念講演「美学と建築と景観」
日本には風土が生み出した固有の美学（文化）が存在する。その美学を通して21世紀への建築、都市を考えていきたい――出江寛（建築家）

エコプロダクツ2000

政府は本年度を「循環型社会元年」と位置づけ、2000年の通常国会では一気にリサイクル関連六法を成立させている。社会においても、環境意識の高い企業や自治体では「グリーン調達」の動きが活発になり、消費者間でもエコプロダクツを積極的に購入する「グリーンコンシューマー」は確実に勢力を拡大している。
このような循環型経済社会への流れの中で、㈳産業環境管理協会と日本経済新聞社は「地球と私のためのエコスタイルフェア～エコプロダクツ2000」を開催し、環境負荷を低減した製品・サービス＝「エコプロダクツ」を大口需要家から一般までに広く紹介する。
「エコプロダクツ2000」には、家電や自動車、オフィス機器など一般消費財からエネルギーや素材・材料などの産業財まで250社を超える企業が参加している。
会期　2000年12月14日(木)～16日(土)10：00～17：00
会場　東京ビッグサイト　東4・5ホール
入場　無料

Japan Home Show 2000

住関連の専門展示会「Japan Home Show 2000」は、㈱日本能率協会と㈱日本住宅設備システム協会の主催で、今回で22回目を迎える。
今回は新たに在宅介護関連を対象とした「ホームヘルスケア2000」を加え、「住宅建材・部材展」「住宅設備・システム展」「セルフビルド＆メンテナンス展」で会場が構成され、国内外17カ国、400社が出展する。
会期　2000年11月14日(火)～17日(金)10：00～17：00
会場　東京ビッグサイト　東2・3ホール
入場　一般1000円

建設省建築研究所平成12年度秋季講演会

建設省建築研究所は、最新の建築の技術・情報等を織り交ぜて秋季講演会を開く。建築技術者だけでなく一般の人々も自由に聴講でき、申し込み・入場料は不要。
会場　有楽町一朝日ホール（JR有楽町駅徒歩1分）
　　東京都千代田区有楽町2-5-1有楽町マリオン

●11月29日(水) 9：40～16：20
〈住宅の性能論〉
①特別講演「住宅の性能について」内田祥哉氏
②住宅の性能と性能表示／建研の五條渉氏ら
〈21世紀の集合住宅居住に向けて〉
①総プロ「長期耐用都市型集合住宅の建設・再生技術の開発」の中間報告と今後の課題／建研・小林秀樹氏ら
②パネルディスカッション「持続可能な集合住宅への道筋」巽和夫氏、丸山英気氏、建研の濱崎仁氏ら

●11月30日(木) 9：40～16：00
〈建築基準における性能体系〉
①建築物の性能と性能規定化／建研・岡田恒氏ら
②建築物の性能体系にかかる今後の研究課題／建研・平石久廣氏
〈建築物のストックマネージメント〉
①建築物の維持保全研究の潮流／建研・本橋健司氏ら
②パネルディスカッション「建築物のストックマネージメント」沖塩荘一郎氏、小松幸夫氏、建研・樫野紀元氏ら

ロレアル賞連続ワークショップ2000「色」

名称を「ロレアル色の科学と芸術賞」と改め、色を対象領域に作品を募集している国際賞に関連して開催されるこのワークショップでは、「色」をテーマに、科学・技術・芸術などの各方面の専門家が様々な切り口で討論し、科学と芸術の対話とコラボレーションが生まれることを期待している。

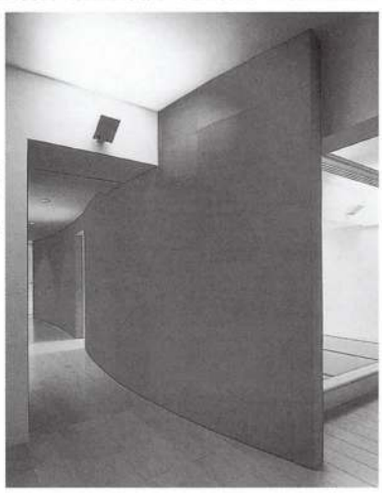
●11月13日(月) 第1回「浮世絵の色を科学する」勝原伸也氏(木版画家)／下山進氏(デンマテリアル㈱)
●11月17日(金) 第2回「映画における"色"、"色気"、"色模様"」蓮實重彦氏(映画評論家・東京大学総長)
●11月24日(金) 第3回「脳がアートする…絵画のニューロサイエンス…」岩田誠氏(東京女子医科大学)
●12月8日(金) 第4回「地球の色…時空のパノラマ…」田中總太郎氏(㈶リモート・センシング技術センター)／石田紀郎氏(京都大学アジアアフリカ地域研究所)
●12月15日(金) 第5回「青のフェスタ…生死のあわい…」堀本惠美子氏(画家)／野村喜和夫氏(詩人)／倉田比和子氏(詩人)／浜田優氏(詩人)／小林康夫氏(東京大学)

会　場　東京デザインセンターB2Fガレリアホール
　　東京都品川区東五反田5-25-19
時　間　毎回18：30～20：30
参加費　一般各回1000円（5回分3000円）、学生無料
申込み　希望回または5回分・氏名（フリガナ）・会社または学校名・部署または学科・住所・電話とFAX・e-mailを明記し、e-mailまたはFAXで下記へ。
　　ロレアルアーツアンドサイエンスファンデーション　e-mail:lasf@gol.com　FAX 0298-47-7985、TEL 0298-47-7983

「インテリアプランニング賞2000」入賞作品決まる

㈶建築技術教育普及センター主催の第6回インテリアプランニング賞2000には、1998年4月～2000年3月までに完成した国内のインテリア設計作品148点が寄せられた。審査委員会（審査委員長：鬼頭梓氏）は現地確認を含め3回に及び、入賞7作品を決定したが、そのうち4点が古い建物の再生や模様替えであり、大臣賞、理事長賞を受けた2作品は古い建物に新しい生命を吹き込んで、素晴らしいインテリアの世界を創り出している。

建設大臣賞
●作品名　朱い壁
●受賞者　山崎雅雄　堤有紀子
●施設名　T-HOUSE Re-newal
●所在地　東京都新宿区大久保



㈶建築技術教育普及センター理事長賞
●作品名　古き良き倉庫と共生する地域図書館（秋田市立新屋図書館）
●受賞者　黒沼グループ（㈱松田平田・秋田市建設部建築課
●所在地　秋田県秋田市新屋大川町12-26



撮影／川澄建築写真事務所

日本建築協会

月間の動き

【平成12年 8 月分】

理事会

第３回定例理事会
23日　４時～４時45分・於本会会議室
出席者　市川会長ほか18名
議　事　(1) 入・退会者承認の件
　　(2) 後援・協賛名義の使用承認の件
　　(3) 報告事項
第２回会勢理事会
23日　３時～４時・於本会会議室
出席者　荒巻副会長ほか７名
　　オブザーバー／市川会長
議　事　(1) ６・７月分入退会申し出状況報告
　　(2) 平成12年度活動方針について

協会21世紀を考える委員会

第２回協会21世紀を考える委員会
２日　３時～４時・於本会会議室
出席者　金多委員長ほか５名
議　事　フリートーキングによる意見交換

編集委員会

第５回編集委員会
２日　６時～７時30分・於本会会議室
出席者　宮田委員長ほか５名
議　事 (1) ９月号「来世紀に引き継ぐもの」特集・
　　「安田生命大阪ビル」経過報告
　　(2) 10月号「構造」特集・
　　「日本建築総合試験所」経過報告
　　(3) 11月号「私の空間作法」
　　「21世紀の高齢者の居住環境」特集経過報告
　　(4) 12月号「青年技術者」特集経過報告
　　(5) 作品作風・会員企画小委員会関係報告
　　(6) 第１回読者と選ぶ「建築と社会賞」について
第５回広告企画小委員会
２日　５時～６時・於本会会議室
出席者　宮田委員長ほか６名
議　事 (1) ９月号「来世紀に引き継ぐもの」特集・
　　「安田生命大阪ビル」広告経過報告
　　(2) 10月号「構造」特集・
　　「日本建築総合試験所」広告経過報告
　　(3) 11月号「私の空間作法」
　　「21世紀の高齢者の居住環境」特集広告経過報告
　　(4) 作品作風関係報告
第３回会員企画小委員会「新企画案」検討分科会
４日　７時～９時・於㈱竹中工務店会議室
出席者　高岡副委員長ほか３名
議　事　新企画案の内容検討
　　「京町堀」について座談会
出席者　石丸信明(ARX KOBE)
　　楠本菊實(K's ARCHITECT&ASSOCIATES)
　　松本　明(松本明建築研究所)
　　井上正信(柳々堂書店)
進　行　笠原一人(京都工芸繊維大学助手)
第５回構造分科会
４日　６時～８時30分・於本会会議室
出席者　大氏幹事ほか３名
議　事 (1) 10月号「時間」特集の検討
　　(2) 「構造の頁」12月号執筆の検討
第４回法令分科会
８日　２時～３時・於本会会議室
出席者　椎名幹事ほか２名
議　事 (1) 「法令コーナー」の企画
　　(2) 来年の法令特集について
第５回設備分科会
８日　６時30分～８時30分・於本会会議室
出席者　近藤幹事ほか４名
議　事 (1) 編集委員会への提案
　　(2) 基礎講座シリーズの企画
　　(3) 「設備の頁」の企画
　　(4) 来年の設備特集について
第２回「設計教育」(仮称)特集合同分科会
21日　６時30分～９時・於本会会議室
出席者　鈴木幹事ほか２名
議　事　１月号「設計教育」特集の企画
第５回作品作風小委員会
24日　７時～８時30分・於本会会議室
出席者　赤木副委員長ほか４名
議　事 (1) 作品の選定
　　(2) 作品の掲載状況並びに掲載予定の報告
　　(3) 「gallery」掲載報告・予定
　　(4) 「Sketch Book」の掲載予定
　　(5) 会員作品特集号"私の空間作法"について
第１回計画分科会ー計画系ー
28日　６時30分～９時・於本会会議室
出席者　鈴木幹事ほか４名
議　事　2001年２月号特集の企画について

事業委員会

第１回近代建築見学分科会
11日　１時～２時45分・於本会会議室
出席者　山形特別幹事、小林幹事ほか３名
議　事　本年度の企画について検討
第１回茶室見学分科会
21日　３時～４時45分・於本会会議室
出席者　福家幹事ほか４名
議　事　(1) 秋の茶室見学会について検討
　　(2) 第16回(2001年春)以降の企画について

見学会

新住友病院見学会
３日　２時～４時30分
参加者　85名

建材委員会

９日　３時30分～５時30分・於本会会議室
出席者　松本委員ほか６名
説　明　溶融亜鉛めっき形鋼材、溶融亜鉛めっき階段
講　師　安治川鉄工建設㈱

建築クラブ

第340回朝食会
８日　８時～９時30分・於大阪全日空ホテル
演　題　「ドーバー海峡のもぐらは日本製」
講　師　宇賀　克夫氏(川崎重工業㈱)
参加者　38名

入会者(敬称略)

[個人会員１名]
永田　久子
(東畑建築事務所)

特　集

21世紀の高齢者の居住環境

Ⅰ.座談会　高齢者の居住環境づくり

出席者　服部万里子

佐伯　博章

後藤　義明

司会　田中　直人

Ⅱ.事例ルポ　特色ある高齢者福祉施設を訪ねて

■老人保健施設　みあ・かーさ

■特別養護老人ホーム　愛知たいようの杜

■ウエル・エイジング・プラザ　奈良ニッセイエデンの園

■特別養護老人ホーム　K-maisonときめき

■介護専用型有料老人ホーム　ナイス・ケア大和田

■小山田福祉施設群

Ⅲ.運営者に聞く高齢者福祉施設の課題と展望

ーアンケート調査に見る建築関係者へのメッセージー

田中　直人

本特集企画　田中直人／渡邊浩文／斉藤治久

座談会

高齢者の居住環境づくり

出席者（順不同・敬称略）

服部万里子（城西国際大学経営情報学部福祉環境情報学科教授）
佐伯　博章（地域総合設計代表取締役）
後藤　義明（積水ハウス㈱技術研究所生涯住宅研究室課長）
司会・田中　直人（摂南大学工学部建築学科教授）

高齢者をとりまく環境の整備

田中（司会）　本日の座談会は、高齢者を取り巻く環境を、社会全体でどのように整備していく必要があるかを、医療、介護、建築、住宅の各部門でのスペッシャリストである皆様方からご提案をいただき、それぞれの分野を超えて考えていこうとするものです。

まず、高齢者の居住環境として、高齢者の施設づくり、住まいづくり、生活環境づくりという３つの面から、お話をうかがいたいと思います。

服部　これまでは、高齢者になって介護が必要になったときに、そうした介護をする人がいない場合、何らかの施設に入るというケースが多かったと思いますが、介護保険をきっかけとして、高齢者が自宅で暮らしていける社会的環境がやや整ってきたといえます。そうしますと住宅に求められるニーズも必然的に変わってきます。

もう一つは、生活の場は、住まいだけではなく、近所の人との交流など地域の社会資源をそれなりに活用しながら暮らすという側面があります。そうした意味で、アクセスとかまちづくりとかを含めて、居住環境というのがテーマになってきたといえます。

佐伯　設計事務所をやっており、社会福祉施設の設計をメインにしていますが、もう一つ、高齢者、障害者の住宅改造の相談員として住まいの問題にも取り組んでいます。

高齢者の施設は、1963年に老人福祉法が改正され、養護老人ホーム、特別養護老人ホーム、軽費老人ホームという３つの法的施設が制度化されました。そのときにどうも問題点があって、いわゆるビルディングスタンダードが病院のスタイルを施設の建築基準に持ち込んできたのではないかと思います。その大きな原因として、国が施設整備の補助をするときの基準面積が居住環境としてふさわしくないことです。そうしたところから施設をつくるのに、上から下をみるような見方でつくってきたといえます。ようやく最近になって、生活の場として考えようという動きになって、例えばグループケア型の特養では、補助金面積が、これまで34.13㎡から38㎡に、つまりボーナスを少し上乗せしますよといった制度が出てきました。

一方で、一般住宅に関しては、日本の従来の伝統工法が高齢者の生活になじみにくいという、例えば、尺貫法の問題とか、段差が多いとか、木造で造られているということがあります。

田中　いま、病院のスタイルというお話がありましたが、医療、介護の立場からどのように考えられますか。

服部　私はもともと病院に勤務しながら看護学校をでました。その後、病院のつくった有料老人ホームで、高齢期の生活づくりや介護の仕事をやり、11年前に高齢社会におけるケアを対象として研究

介護保険３施設の比較

	介護老人福祉施設	介護老人保健施設	介護療養型医療施設	医療保険適用の療養型病床群等
	老人福祉法にもとづき認可された特別養護老人ホームを指定	介護保険法にもとづく許可	医療法にもとづき許可された病院または診療所の療養型病床群等を指定	
	介護保険			医療保険
介護保険施設にかかわる指定基準	居室（１人あたり10.65㎡以上） 医務室 機能回復訓練室 食堂 浴室　等 廊下幅　片廊下1.8m以上 両廊下2.7m以上	療養室（１人あたり８㎡以上） 診療室 機能訓練室（１人あたり１㎡以上）、 談話室 食堂（１人あたり２㎡以上） 浴室　等 廊下幅　片廊下1.8m以上 両廊下2.7m以上	病室（１人あたり6.4㎡以上） 機能訓練室 談話室 浴室 食堂　等 廊下幅　片廊下1.8m以上 両廊下2.7m以上	病室（１人あたり6.4㎡以上） 機能訓練室 談話室 浴室 食堂　等 廊下幅　片廊下1.8m以上 両廊下2.7m以上
※ 人員基準については100人あたり	医師（非常勤可）　１人 看護婦　３人 介護職員　31人 介護支援専門員　１人 その他 生活相談員　等	医師（常勤）　１人 看護婦　10人 介護職員　24人 理学療法士または作業療法士　１人 介護支援専門員　１人 その他　生活相談員　等	医師　３人 看護婦　17人 介護職員　17人 介護支援専門員　１人 その他 薬剤師・栄養士等	医師　３人 看護婦　17人 介護職員　17人 その他 薬剤師・栄養士　等
設置主体	社会福祉法人	医療法人、社会福祉法人、健康保険組合　等	医療法人、個人等	

※　介護・看護職員の配置は、各施設とも３：１（ただし、経過措置として平成16年度末までの５年間にかぎり、介護老人福祉施設で4.1：１以上、介護老人保健施設で3.6：１以上で差し支えないこととする）。

※　介護保険適用の療養型病床群のうち病床転換型のものについては、当分の間、食堂や浴室がなくても可。食堂のない場合であっても入所者が離床して食事をとるように努めるとともに、浴室のない場合はシャワー等の設備を整えることとする。

「図解でわかる介護保険のしくみ」服部万里子著（日本実業出版社）

所を設立しました。そうした立場から申しますと、老人福祉法が出来た当時は、急性期医療、治療のための医療機関が考えられていました。リハビリや慢性になった後の医療機関ではなかったといえます。そうした意味で広さに関しては、当時の病院がモデルになったのではないかと考えます。今日では病院自体、機能分化して、時代とともに変わりつつありますが。

個人の住まいについては、日本の社会の身分の差が住宅に大きな影響を与えたと思います。段差の問題とか、玄関の問題とか、高さが高い方が身分が上のような階級社会の問題点が住まいの構造にもつらぬかれていました。明治維新や、それ以降の社会的システムの変革と戦後の平等化の時代にも住宅にまで至らなかった。住まいが洋風化したというのも含めて、実際の生活とは合わなくなったというところから、いま住宅への変化が出てきたと思います。

戦後、民法も変わり相続の問題の変化などがあり、徐々に扶養についての仕組みや意識も変わり、職業との関係も含めて、地域から離れて住むなどのケースもあって、家族単位が小さくなり、同時に生活が変化してきました。そうした社会変化に追随するかたちで住宅が変わってきたというのが印象です。

後藤　私は住宅会社におりまして高齢で身体機能の衰えた方や障害をお持ちの方の住まいづくりに関わる仕事を担当しています。もともとは通産省のプロジェクトで将来を見越した住宅をつくるという考え方がでてきたのがきっかけです。そうした意味では、住まいの分野での高齢化対応の考え方は比較的早く出来ていたと思いますが、残念なことにそれを実現させるための技術があまりありませんでしたし、そうしたことに人の理解が十分とはいえませんでした。例えば、手すり一つをとりましても、当時は病院向けのピカピカ光る手すりしかなく、それをやむなく住宅に設置しました。それが世の中の変化にともないどんどん変わってきました。最近はカラフルで握り心地のよい手すりが出まわっています。高齢化対応住宅というと、福祉や医療の専門家が効率を考えてつくり方を指導してきたわけです。私自身はそうしたやり方に疑問を持ち、高齢者の住まいというのは、福祉型住宅とは別のつくり方で、生活能力が衰えた方がそのまま住める共通の家をつくっていくようにすべきだと考えていました。そうした立場で、実験研究を中心にして、住宅部品のつくり方を変えるようにしてきました。それと同時に、社員の意識を変えていくということで、ハンディキャップのある方の立場になって家づくりを行うため、体験研修用の装具を社員につけさせて、どのようなことが障害となるかを身をもって実践させました。そうしたことを通して、家づくりをする側の意識改革を行ってきました。

ハンデのある人と共生する社会

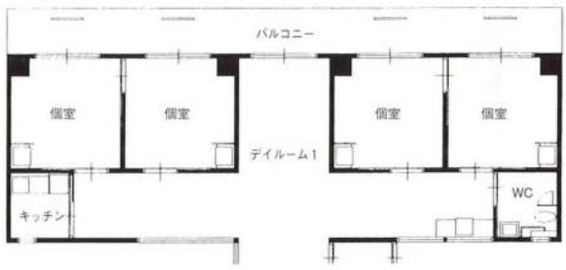
田中　社会全体がハンデのある方々と共生していこうという意識になかなか到達しなかったといえます。いまは逆に高齢社会、福祉、バリアフリー、ユニバーサルデザインといったキーワードをつかわないと時代に遅れるとか、商品が売れないといった状況が極端にあります。ただ、こうした言葉だけでなく、どのような「こと」や「もの」が、ほんとうにハンデのある方に役立つのだろうかという



小規模特別養護老人ホーム「豊寿園」
廊下を挟んで左右に4室のユニットの個室がある。廊下と個室入口にある「引き」は入居者が自由に使える空間。つきあたりは別のユニットのデイルーム。



同　上
何十年もつきあってきたお馴染み同士が同じユニットで生活し、デイルームで談笑中。



同上　1生活単位空間平面図（デイルーム1）

ことが、社会全体として考えていかねばならないと思います。そうしたことを踏まえて、設計活動をとおして施設や住まいのことを考えておられる佐伯さんにお聞きしますが、本当の意味でのノーマライゼーションは達成されつつあるのでしょうか。

佐伯　施設で、建築の人間だけがノーマライゼーションを視点に置いた施設づくりを頑張っても、なかなか難しい問題があると思います。いちばん大切なことは、施設の運営に携わる方が、地域に開放された或いは生活環境や生活の場を重視した施設づくりをめざすことだと思います。施設の社会化というのは、施設が社会の中心にあること、建築のプランを地域や社会に開くこと、施設職員が地域の中に開く意識を持つことだと思います。

実例として、瀬戸内海の小さな島にある特養をあげますと、4人ごとにグループホーム化されたものを積み重ねていった30人のユニットなんですが、ここではこれからだれと一緒に住むかを如実にあらわしていると思います。このグループホームに入っている4人のおばあさんはいずれもこの島で生まれたか、島に嫁いでこられて連

れ合いに亡くなられた方たちです。瀬戸内海の島の家は丘陵地に建っているものが多いうえに、家の中は段差だらけで住めない。特養が出来たから4部屋に共同生活しているような感覚で住んでいます。住んでいるお年寄りからお話を伺いますと「家にいて、嫁や息子の顔色をうかがいながら過ごすより、ここでみんなと思い出話や生活体験を共有した者同士が生活できるので楽しい」と喜んでいます。個室なので、出入りに気兼ねせず家族が来て面倒をみれますし、それによって施設側もケアの労働力が軽減されるというメリットもあります。だから、施設はこれまでのようなビルディングタイプにする必要はないと思います。

後藤　こうした幸せな生活を施設でおくられるのをみますと、いままで個人の住宅をいかに将来に対応出来るかを頑張って努力してきたのが、逆に社会的な地域のサービスが増えてくると住宅、とくに浴室などはそんなに重装備しなくてもいいという気になってきます。最低限トイレがちゃんと使えて、自由に家の外に出入りできればいいのではないかと考えます。

佐伯　住宅にできる限界というのはやはりあって、どんなにパーフェクトをめざしたとしても、住む人の障害が加齢化してどのような障害になるかわからないということがあります。例えば、介護保険のサービス提供のメニューの中に、手すりの取り付けと段差解消、トイレの改造はあるが、浴室がない。なぜかといいますと浴室の改造にはお金がかかり過ぎるということもありますが、入浴は週2～3回の地域のデイサービスを利用するという利用の方法もあるのです。また、地域の中には社会福祉施設が小刻みに散りばめられ、そうした地域の福祉資源の利用とそれをとおした地域の交流をはかることはとても大事なことだという気がします。

後藤　私の設計したケースですが、施設の中の風呂に入ることを嫌い、自宅に来るヘルパーにも身体をさわらせない方がおられ、どうしても自宅で奥さまの介助しか受けつけないので、非常に多くのお金を使って完璧なケアハウスともいえるものを造った経験があります。その方は家が建ってから3年で亡くなられたのですが、介助されていた奥さまのお話では、ご本人も非常に満足されていたと聞いています。中にはそうした方もおられますので、地域サービスばかりというのもどうかという気もしますが。

服部　介護保険でも浴槽を埋め込みにすることは出来ませんが、手すりをつけるとか、段差をなくすとかは出来ます。


佐伯博章氏

佐伯博章（さえき　ひろあき）
1948年　広島生まれ
1973年　日本大学大学院理工学研究所建築学修士課程修了
㈱新環境設計を経て
1995年　㈱地域総合設計設立、同代表取締役
広島大学医学部非常勤講師、同工学部非常勤講師、広島健康福祉センター：高齢者住宅相談員
主な受賞　広島建築文化賞
主な著書　「高齢者にやさしい住宅増改築集」（家の光協会）共著、「高齢社会住宅設計モデル集」（新日本法規）共著ほか
主な作品　特別養護老人ホーム「菜の華」、熊野町高齢者介護サービスセンター「誠和園」ほか

さきほど、特養や医療機関は、建築が幾ら頑張っても、経営者がノーマライゼーションになっていないというお話がありましたが、逆のケースも多々あって、実際に介護する人の意見などほとんど聞かなくて、先に建物を造ってしまって、これでやれっていうところも多いと思います。これは施設を造るまでの間が1年半ほどあって、しかも特養だと補助金の関係で、図面を先に出して了解をとらないといけない。一度決めた図面をあまり変えられないということで、人の採用はそれからのことです。。そうすると経営者があるイメージを持っていたとしても、実際に運営する人は別になって、合計3段階の違いが出て、実際には使えないということが出てきてしまうというのが、いまの現状だと思います。そうしたハード面とソフト面での実際の使用によって生じる乖離を補う意味で、状況の変化に対応出来るようなある程度のフレキシビリティーが必要ではないかと感じています。

佐伯　建築サイドから申し上げますと、いま特養をつくるとき設計者が設計の打ち合わせをする相手は、理事長あるいはオーナーであることが多く、そうした方と話合ってプランをつくって、補助金を申請し、補助金の内示が翌年出て、本設計に入りますが、そのときには、まだ現場で実際に介護にあたられる方々は雇用されていないわけです。そういう意味で、使う人と設計者が向き合っていないところがあります。

住宅にしても、昔は地域の大工さんと住み手が向き合って家を造り、少なくとも造った人は命ある限りそこに居て、メンテナンスをするというくらいの心構えをしていたと思います。いまはハウジングメーカーやマンションデベロッパーが相手なので、問題が生じた時に問い合わせるとその会社はつぶれましたとか、担当者は転勤しましたというケースをよく聞きますね。

ケアマネージャーの役割

田中　最近、住まいづくり、施設づくり、まちづくりのいずれも住民参加とか、ユーザー参加とか、当事者参加とかが、よくいわれています。。それはいままで造られたものに対する不満、問題点があって、そうしたことが叫ばれているんだと思いますが、現実には非常に難しい面もあります。さきほど出されたフレキシビリティーのあるものづくりは、そうした状況に対応した一つの提案だと考えますが、現実にどこまでフリーにしておくかということの見極めが難しい。変化ということに対応していえば、時間的にいろいろなものをどう読み込むかという科学的な見方がなかなか出来なくて、誰がそれをどのように評価してどうするかという方法もなくて、一般論で一つのマニュアル化したものをとりあえず使ってみるという方法しかないように思います。

佐伯　ハウジングメーカーに提案したいのですが、あまりにも完全につくられすぎた住宅を供給しているんではないかと、むしろハーフメードのスケルトン住宅を造っておいて、後は現場で住まう方が必要に応じてチョイスできるようなシステムにならないかと思います。

後藤　つくりすぎがどのレベルによるかですね。さきほどお客さ

まの方を全然向いてないというお話が出ましたが、実際われわれはお客さま一人一人ときちんとお話ししながら一軒一軒図面を引いていますし、お客さまの希望を満足できるようにしています。それでもやはり出来上がった住宅には当初思っていたこととのずれが出てきます。そのずれが入居後すぐにわかると対応出来るのですが、いちばん心配なのは将来的なずれで、お客さまが年をとられて住みこなせない家になったとき、誰が責任をとるのかということがあると思います。

ハーフメードのような間仕切りのない住宅を提供しましても、結局それは空間を提供しただけの責任放棄になるかもしれません。住宅メーカーはお客さまと仕様打ち合わせを入念にやりすぎて、注文をなんでも聞くという姿勢をとることで、かえって大事なことを見逃しているんではないかという気もします。

服部　ハーフメードの問題点のもう一つは、使う側の人がそれでは納得しないところだと思います。住宅は生きもので、住む人とともに変化しますが、新築のときに見てくれのいいものでないと評価しない利用者の姿勢は変わらなくてはいけないと感じています。いまこうしているが、将来はこうなるということが納得できる人というのは相当考えている人で、残念ながら非常に少ないのではないかと思います。

高齢者の住まいや施設を考えるときの基本は、集合住宅や公共施設の場合は、出入りはどうか、上下移動は出来るか、トイレが使えるかの3つだと思います。実際には、高齢者や障害をもった方が出入りできない建物もあります。上下移動も、古いマンションやエレベーターのない3階、4階とかは大変です。阪神大震災のときなど、エレベーターが止まってしまって下で水を配っていても、高齢者は降りていけないし、水を持って上がれない。トイレが使えないと長距離移動が出来ないとか、行けないとかがあります。

いま私はケアマネージャーをやっていまして、地域で高齢者の方15人ほどの担当をしています。住宅改造も相談にのるんですが、工務店の方と一緒にプランづくりを結構細かくやります。介護保険では、そうしたケアマネージャーをもっと利用してもらったらいいと思います。ケアマネージャーの教育プロセスの中には、そのような教育がまったくはいっていません。高齢者のことはわかっていても、既存の手すりにはどういった種類があってどのように対応できるとか、なかなか知りえません。こうしたところを直していって、3者が話し合う土壌をつくらないとこれからの住宅改造は到底出来ないのではないのでしょうか。



服部万里子氏

服部万里子（はっとり　まりこ）
1969年　早稲田大学卒業、一般企業に10年勤務した後、大阪の一般病院へ再就職、勤務の傍ら、大阪府立千里看護学校を卒業し看護婦資格を取得。病院では事務長やソーシャルワークを行う。
1989年　服部メディカル研究所を設立し、医療・福祉や高齢者サービスについての調査・研究・コンサルティング事業を行っている。
2000年より　城西国際大学経営情報学部福祉環境情報学科教授
公　職　㈱長寿社会文化協会（WAC）理事（介護担当）ほか
主な著書　「図解でわかる介護保険のしくみ」（日本実業出版社）ほか多数

福祉機器や住宅改修はどこまで保険でカバーされる？

■福祉用具の貸与サービス

福祉用具は要介護者の自立を促し、介護者の負担を軽減するのが目的です。また、一般の生活で使用することはなく、要介護状態になった場合に住宅で使用するものです。価格は商品の性能によって異なります。たとえば車イスでも電動式と手動式とではレンタル価格が異なります。貸与の対象は次のものです。

車イス／クッション／特殊ベッド／マットレスやサイドレール／褥そう予防のエアーパッドやウォーターマット／体位変換器／手すり／スロープ／歩行器／杖／痴呆性老人徘徊センサー／移動用リフト

■福祉用具の購入は年単位

貸与システムになじまない入浴や排泄の福祉用具は、購入価格の9割が保険で給付されます。給付は年を単位として行われます。対象は次のものです。

腰掛便座／特殊尿器／入浴用車イス／浴槽の手すり／浴槽用イス／入浴台／入浴用スノコ／簡易浴槽／移動用リフトのつり具

こうした用具の購入については居宅介護（または支援）福祉用具購入費で支給限度基準額が定められます。

■住宅改修費

車イスが導入されても居宅に段差があれば使用できません。また、住宅は個人の資産になるので、大規模なものは給付の公平につながりません。そのため、簡単な改修が対象で、20万円が支給限度額の予定です。

●手すりの取り付け
●床段差の解消（簡便な方法で）
●浴室床のすべり止めや移動のための床材の変更
●引き戸への扉の取り替え
●洋式便器への取り替え

これらのサービス給付についてもケアプランに織り込むことが必要です。

「図解でわかる介護保険のしくみ」服部万里子著（日本実業出版社）

佐伯　本来、ケアマネージャーとかコーディネーターは中立的な立場にあるべきだと思いますが、なかには特養に雇用されていたり、医療施設で働いていたりしている人もいます。そうしますと言い方は悪くなりますが自分の雇用先の施設に高齢者を囲い込むケースが多く出てくるのではないでしょうか。

服部　ケアマネージャーのバックグランドは高齢者などのケア実務などがそれなりにあるわけですが、看護とか介護その他幅広い人がなっています。一人一人のケアマネージャーは利用者の実態に対してよくしようとことはあります。制度的にケアマネジメントは、介護保険のサービス事業者がやっているのが95%くらいで、独立型でやっているのはあまりいません。中には自社のサービスの営業マンになっている人もいますが、それでもその人が自分のサービスだけ100%つけているかといいますと、必ずしもそうではではなく、利用者にとって何が最善かを考えています。それを実現するために少なくとも住宅のことや福祉用具の知識が必要だと思います。

一方、工務店も介護が必要な人の生活を知ってないことが多く、そうすると利用者の家に行って、補助の範囲でどこまでやることが可能かをケアマネが一緒に調べなくてはいけません。そうした住宅改造をやる環境が出来てきたと思います。

佐伯　福祉サイドの環境は出来ていますが、建築サイドの環境は

まだ出来ていないと思います。ケアマネージャーは介護保険というバックグランドがあるところで動いています。ところが工務店は介護保険もなにもなく、ここで住宅改造するからといわれボランティアで出ています。ケアマネと違って時給いくらという保証もありません。だから建築サイドにも、住宅改修マネージャーのような制度を一方で立ち上げることをぜひ考えてもらいたい。

田中　最近、福祉の住環境マネージャーの講師をやっていまして、その受講者にかなり建築関係者や福祉に携わる方が多くなっているように思います。住宅改造にしても、福祉といっても利用者にそうした知識がなく、建築の人も実際どんな介護が必要か、手すりを使ってどのようにするのかがわからないで、マニュアルどおりにやっている場合がほとんどです。そうした意味からも、お互いの領域を超えて、勉強する層を広げることは非常に大切だと感じます。出来ればほんとうの社会的な研修制度のようなグレードを上げたものを広めていけば、建築関係も医療関係もいろんな立場の方が共通に理解する領域が出来てくると思います。そのうえで、介護保険なりいろんな制度をどうしたらいいかという議論をすべきではないかという気がします。

佐伯　福祉住環境コーディネーターにしても、基本的にはサービスという重しがついていて、工務店とか建築会社に属していて、仕事に結びつくことを会社から命令されます。一軒コーディネートするごとに建築の人にも適当な報酬が出るようになると、場合によっては、つくらない方がいいとアドバイス出来るようになると思うんです。

後藤　建築学会の小委員会などで、住宅改善のときには建築士が参加することを提案してきましたが、残念なことにケアマネージャーの受験資格は建築士には与えられませんでした。もちろんケアマネージャーの方がどんどん出てこられて、建築士と相談して住宅改造を進めることは賛成です。

ただ、福祉住環境コーディネーターで、私が気になるのは、マニュアルどおりものを造ったらいけないといいながら、現実には住宅改造の親切なマニュアルはないのです。細かい設計に関する部分では障害に合わせてというふうに記述があいまいになっています。例えば、手すりの位置は障害に合わせてといいますが、本人に聞けない場合はどうなるんでしょう。そうした意味で、ある程度症状に合わせたマニュアルづくりをしてもいい時期ではないかと思っています。



後藤義明氏

後藤義明（ごとう　よしあき）
1953年　大阪生まれ
1977年　京都工芸繊維大学工芸学部建築工芸学科卒業（現在、東京工業大学理工学専攻科後期博士課程在学中）
積水ハウス㈱住生活研究部、生活研究室などを経て、現在、技術研究所生涯住宅研究室（課長）
公　職　住宅性能評価技術検討委員会長寿社会対応性能分科会オブザーバー委員、日本建築学会ケア住環境小委員会委員、建築人間工学小委員会委員
主な著者　「ケア住宅の計画」（創樹社）「高齢・障害にいたわりの住宅改善」（講談社）共著ほか

す。特にいまの20万円でできる範囲の改造などはマニュアル化しやすいと思います。

もう一つ、気になるのは、ケアマネージャーでやられる20万円の枠に自治体の助成金がプラスされる場合です。ある自治体では80万円の助成金があって合計100万円になります。それがケアマネージャーだけの裁量で決められるのは少し怖いなという思いがします。

介護保険実施による変化

田中　介護保険が今年から実施されて、何か変わりましたか。

服部　大きく変わるのは３つで、一つは今回280万人が介護保険を利用されて、介護を受けながら生活するようになりましたが、そうしたサービスを受けながら自宅でより長く生活する人がこれから増えていくこと。

二つ目は、介護予防が非常に重要になってくる。つまり、高齢者が増えるのは人口的に明らかで、長寿にもなりますし、高齢になると間に合わないところも増えてきますが、ただ、そのときにいかに寝たきりにならないような形で生活するか、前もって介護予防をすることで、本人の生き方もそうですが、ハード的な対応、例えば住宅改造という面にも求められます。三つ目は介護保険というのは、本人が選んで自分で決定出来ることが、従来といちばん変わったところですが、利用者自身がどうしていいかわからないというのが現状です。団塊の世代が高齢になるあと15年ぐらいの中で、必ず自分の生き方をどのようにしたいかを考えるようになってくると思います。どこで、どのようなライフスタイルで将来暮らしたいかということと合わせて住まいに求めるものも、50代、60代になってリタイアしたいとか、子供が育って家を出ていくから住まいをどうしようかと自分なりにコーディネートするように変わっていると思います。

佐伯　私が考えるには変化が２つあると思うのですね。一つは介護保険で、大工さんとか工務店がバリアフリーなどに関心をもつようになりました。彼らは、ビジネスチャンスが増えたと感じているんですね。

もう一つは、地方自治体の首長が住宅改造にも市町村独自のメニューを持たないといけないということを、徐々に持ちはじめてきたことだと思います。というのは、20万円ではパーフェクトな住宅改修は出来ないので、自治体によっては、プラスアルファを出しているところがあって、住民は他の自治体との格差を感じとって議論を始めているところが出てきています。介護保険導入が自治体オリジナルの補助金制度のきっかけになるという気がしています。

大工さんが積極的になったという実例ですが、大工さんの集まりに呼ばれて話に行ったときに積極的な提案がありまして、介護保険の仕組みを勉強しようとしていろいろな資料を取り寄せて調べると、例えば空き家にお年寄りを４人いれると80万円出るではないですかという質問があって、行政に聞くとオーケーなんですね。つまり、介護保険は個人に出るものですから、例えば一人分で玄関の段差を直す、一人分で浴室に手すりをつける、一人分でトイレを直す、一人分で開口部を直して４人が共同で使えば、一挙にパーフェクト

な改修が可能だということです。そうしたことを考えている大工さんも出てきています。

痴呆性高齢者の問題

田中　いままでは、どちらかといいますと、車椅子使用者などの身体的不自由者のイメージを抱いて、バリアフリーをやってきましたが、最近、とくにいわれるのが、痴呆性高齢者に対してどうするかということです。そうしたなかで、ほんとうにどういうことをやっていったらいいか、建築に携わる多くの人が試行錯誤していると思いますが、いかがでしょう。

服部　介護認定のときの項目に痴呆性のものを対象にしたのは少なく、身体的障害を対象にしたものが多いといえます。認定システムのベース自体が施設に入居されている高齢者を調査したもので、そうした施設には身体の不自由な方が多く、痴呆性の方は8割以上が在宅ですから、どうしても認定の場合、不利になるのが実状ですが、厚生省では近い将来、改善するといっています。

ただ、在宅で痴呆性高齢者を介護するというケアの内容の蓄積が少ないのは事実で、例えば、トイレの問題ひとつとっても、トイレがどこにあるか部屋にいてわかるように明るくする。よく押し入れなど暗いところをトイレと思ってしまう場合が多いことから、トイレを明るくするなども有効ですね。グループホームで聞いたケースでは、トイレが一人で出来なかった人が「便所」と書いてあったら出来たということもあります。それと施設では、居室からトイレが遠いことが多いのですが、グループホームでは、自宅と同様に近いところにあります。とくに痴呆性の場合は、その人の環境を変えるのはよくないと思います。なれ親しんできたものを出来るだけ継続するということと、トイレのように目立ってほしいものは明確にわかるようにすること、出入口など徘徊する人が行かない方がいいところはわからないようなデザインにする必要はあると思います。それと、人間は物忘れしても生きていけるわけで、基本的には知能低下ですから、どこのレベルまで低下するか違いはありますが、物を忘れたことをただしたり、正しく教えようとか、間違いをやめさせようとかは無理なんです。むしろそれによって本人が不安にならないようにすることが大切ですね。

便を口に入れたりする人もいますが、多少は大丈夫で、汚れたらふけばいいんで、汚いといって周りがパニックになってしまうことはよけい混乱させよくありません。介護する以上、自分はこういうことに対応するんだと腹を決めてやると結構落ちつきます。

佐伯　家にいて家族ともども生活しているから痴呆は進行しないかというとそうばかりとは限りません。たまたま、昨年、痴呆高齢者専用のE型デイサービスセンターをつくったのですが、そこに通い始めて、痴呆の症状が落ちついてきた人が随分います。E型の定員は8人ですが、同世代のお年寄りがなじむ関係ができることも理由の一つではないかと思いますが。

地域の中での環境づくり

田中　最近、よくいわれることに地域でケアするという地域の問題があります。私は阪神大震災を経験しまして、もともと地域が生産の場であり生活の場である中で出来たいろんな仕組み、それは単純に生活という部分もありますし、働くという部分もありますが、そういった仕組みをもう一度見直すべきではないか。日常だけでなく非常時に助け合うとか、人間同士が互いに知るとか手助けするということの重要性をすごく感じました。とくに高齢者とか障害者の方が地域の中でどのように助けられていったかということは非常に教訓になったわけですが、これからの環境づくりの中で、地域をどううまく動きやすくするか、或いは地域の人が家族のように助けてくれる仕組みづくりを考えてることは大切だと思います。

後藤　内部的なバリアフリーの住宅づくりは、もう普通になってきたと思います。最近、それよりも外に出やすい家をつくりたいというのがありまして、とくに戸建ての場合、床が非常に高くなっていますから、スロープなんかつくると大変ですが、上下昇降機で解決するケースが増えています。リフターをつけるにしても50万円ほどで済みますし、助成する自治体もあります。サービスを受けるにしても外に出るのがまず第一だというように考え方が変わってきたという気がします。

服部　アメリカ人が設計した有料老人ホームを見学して思ったのですが、アメリカの高齢者の住宅で最も大切なのはセキュリティなんです。ところが日本では、セキュリティ以上に大切なのはふれ合いなんです。高齢者の住宅にとって大事なことは、外からも見えるし、中からも外の気配とか雰囲気がわかることです。

介護サービスとか福祉サービスとかで出来ることはしれています。それよりもちょっとした近所の気配り、郵便ポストがたまっているとか、ドアがあいてないとか、網戸が閉まったきりだとか、買い物に行くとき、声をかけて、代わりに買い物してきてやるとか、そうしたことセーフティネットの基本だと思います。団地でも地域でもお互いが過重にならない程度で出来るようなことが必要ですね。

田中　日常的にそうしたつながりをつくるために、日頃から付き合いが大切で、昔の縁側でよくあったお茶を飲みながらのおしゃべりそうしたことが地域コミュニケーションにつながります。これからの住まいづくりは、閉鎖することがセキュリティじゃなくて、開放することがセキュリティであるというぐらいの地域社会をめざすべきではないかと。


田中直人氏

田中直人（たなか　なおと）
1948年　神戸生まれ
1975年　東京大学大学院修士課程修了　神戸市住宅局・開発局・都市計画局を経て
1992年　神戸芸術工科大学助教授、同教授を経て
1997年より摂南大学工学部建築学科教授　兵庫県立姫路工業大学、大阪市立大学大学院などで非常勤講師を兼任、一級建築士事務所都市環境デザインネットワーク主宰、工学博士
主な著書　「図解バリアフリーの建築設計」（彰国社）、「福祉のまちづくりデザイン」（学芸出版社）ほか
主な作品　奄美海洋展示館ほか

後藤　われわれは最近、ある程度ケアを期待できるような分譲型マンションも計画しているんですが、そこで問題になっているのは、非常通報時のカギの管理です。少しぼけていて、物がなくなったと主張されると困ります。

佐伯　地域の中で、いかにかかわりを持つかというのは本当に大事なことで、我々の身近にもあります。広島市内で長年、中華料理を経営してきたおやじさんですが、この方が最近ぼけてきました。徘徊する。ただし、ひげをはやし、非常に風貌がユニークなので、街の名物男で人気者なんです。これも息子が囲い込まなくて「うちのおやじは、ぼけているのでよろしく頼む」と知り合いや地域の人々に頼んでいるわけです。息子が商売をやっている間に、そのおやじさんは5キロ、10キロ歩いて徘徊することもあるけれども、タクシーの運転手が見つけて乗せてきてくれる。いまでは、あそこのおやじがいたら、うちまで連れて帰ってあげようというのが暗黙の了解になっている。パスカードのケースに20円と連絡先を書いたのを入れて首から下げています。痴呆の人はとかく夜中に出歩いて、明るいところによく行くんです。コンビニによく入っていくから、コンビニの従業員に頼んでおくのも手だと思います。

田中　都市であればこその欠落していた部分がいま言われているわけで、田舎に行くといまでも結構、お節介といえるほど関わりがあります。いま住宅や施設などのつくり方がクローズしている中で、つながりがなくなっているということがあります。これからのまちづくりには、都市は田舎に学ぶという発想でいけば、ヒントがありそうな気がします。日本にはもともと高齢者が快適に生きていける環境があったんじゃないかと思います。

佐伯　さきほど、パーティ空間ということで、縁側の話がでましたので申しますと、デイセンターに地域と施設を結ぶことを目的に、和室の前に縁側をつくっています。竣工後に見にいきますとお年寄りが畳の部屋とか食堂にかたまっているから、介護スタッフの方にもっと縁側に誘導して下さいとお願いしたら、若い人が「縁側って何ですか？」という質問があったんです。（笑い）それくらい、最近の人は知らない。

服部　東京都北区の桐ヶ丘という都営住宅があるんですね。そこがすごく古くなって、高齢者ばかりになってしまって、保育園に誰もいなくなってしまったので、そこをデイルームにしているんですね。そこにきて、食事代の400円だけ出せば、一日みんなで楽しく過ごせる。そこは介護する場所でなくて、いわゆる引きこもりがちな人が行くような場所で、痴呆の人もそこへ行けばボランティアとかいろんな人が居て楽しくやっていける。そうした都会の真ん中の老人のオアシスのようなものがあるんですよ。

佐伯　いかにも高齢者の施設然としたコミュニティ施設をつくると地域から受け入れられないでしょうね。さきほどE型のデイサービスセンターも、あの施設は面白いというのが地域に広まって、夜や休日に地域の人たちの集会所に使わしてくれという願いが出てきたりして、思いがけない使われ方をしています。

田中　これからは、身体の不自由な高齢者よりも元気な高齢者がもっと増えてくると思いますが、そうした人たちは、会社を定年で辞めてから、どうしたところへ行って過ごしていくんでしょうか。

後藤　当社で分譲しています駅前にある交通の便利なマンションの場合、購入者の平均年齢は60歳ぐらいです。ある程度の年齢になってくると、都市の中に戻ってこられるケースが増えているのではないとか思います。都市施設の整った六甲アイランドシティに、ケアつき分譲マンションを来年秋の竣工をめざして建設していますが、もう半分以上の予約が入っています。

服部　京都の高齢者はすごく元気なんです。その理由の一つとして、京都は電車にのらずに歩いていける範囲に定期的に開かれる市などの見るものがいっぱいあります。そうして普段から歩きなれていて、足が丈夫だから、結構長生きなんです。高齢者にとって歩けるまちにすることが大切です。

望ましい高齢者の居住環境

田中　最後に、これからどのような居住環境が望ましいかを具体的にお聞きしたいのですが、ご自身が高齢者になられたとき、どんなところでどのように生きたいか、将来の展望を自分自身の話としてうかがいたいのですが。

服部　人とのつながりがあるから、都会で生きていたい。そして自分が高齢になっても身体が不自由になっても病気になっても、自分の思いを発信し続けたいと思っています。まったく自分で動けなくなって、施設に入るかもしれませんが、介護はフルにつかって、出来るかぎり自分で行動していこうと考えています。

後藤　普通のサラリーマンですから、いつまで働けるかが問題ですが、都会の真ん中で人と直接対面する交わりを絶って、通信だけでコミュニケーションして、まるで田舎に住んでいるようなフリをしながら、仕事を続けるという生き方が理想だと思っています。

佐伯　いま設計をやっているのは、自分の老後のためじゃないかと思っているくらい高齢者の住まいや施設の仕事をしていますが、僕自身は決して一人で住みたいと思わないですね。同世代の連中となかよくわいわい言いながら、同時代をずっと継承して生活していきたいなと考えています。そうした意味で、自宅で住めなくなったとき、グループで住める環境をこれまで過ごしてきた地域の中につくっておきたいですね。それと動けなくなったときのために、ターボのついた車椅子を開発して大阪や東京に出かけていけるようにしたいですね。

田中　皆さんから楽しいお話をお聞きしましたが、会社でこつこつ働いている方が高齢者になってきて、気がついたら、家族も変わっていた、社会も変わっていたというときにどのようにするかを考えていくと、目先のことだけではなく、長期的に考えていくためのさまざまな情報とか選択肢がいっぱいいるんではないかという気がします。そういう意味で住環境とか生活に関する情報がまだまだ少なく限られているような思いがします。そうしたところから、ほんとうにどのような情報が必要なのか、どうした住文化をつくっていけばいいのか、環境に対する意識のレベルを上げていけばいいのか、そうした情報づくりも含めてもっとやっていかなければならないと思います。本日はありがとうございました。

老人保健施設　みあ・かーさ

施設長の高橋明氏にお話をうかがうと、施設を計画するにあたってのコンセプトを痴呆性老人に対する“心のケア”と位置づけ、家庭に近い環境づくりをモットーに、施設名も職員の公募により採用されたイタリア語で「わたしの家」を意味する「MIA CASA」と名付けられた。より家庭に近い環境づくりを実現するため、療養室には可能な限り外部窓を設け、配置上外部窓の設置が困難な場合にも廊下側には窓が設けられ、４人室においても枕元は集成材パネルで仕切りが施され、各ベッドの枕元の壁に家族の写真や日程表等を貼りつけられる合板を取りつけることにより、“個の空間”の確保が演出されていた。また共用ではあるが、各部屋には鏡と洗面台がセットされ、自分の部屋にて身づくろいができるよう配慮されていた。

空間構成においてもより家庭的な雰囲気づくりを行うため、施設にありがちな広いモノトーン的な空間はできるだけ避け、療養室３室程度ごとに小グループで利用できる居間的なホールが設けられ、そのホールに備えられているテーブルの形や各室の扉の形などにも変化をもたせて、痴呆症のお年寄りにも他のホールと容易に区別がつくよう、また光庭に面する窓枠のアルミサッシや各室ドアの引き手などは赤や黄や緑の原色が使われ、容易に視認が可能なよう、細かい心遣いがなされていた。

１階のエントランスの一角には喫茶コーナーなども設けられ、ボランティアの方の協力を得てお年寄りが気軽にお茶を楽しめるようになっていた。療養室の床の仕上げについても、お年寄りが糞尿を漏らした時にも清掃がしやすいよう、ビニールシートの使用も考えられたが、ここでもより家庭に近い環境づくりの観点から機能面や耐久性ならびにスタッフの作業効率を犠牲にしてまでも廊下やホール部分と同様に木製フローリングを採用し、日常生活の人の感触に重きをおいたこだわりが感じられた。

保育所の併設については、事業所内の職員の方のために設けられている施設であるが、１年に何回かはお年寄りと子供たちとの交流があり、その交流のときのお年寄りの眼は生き生きと輝いているということで、21世紀に向かいお年寄りにとっても今後の多世代交流の必要性の一端を垣間見たような気がした。

この施設は常に運営者・スタッフすべての方が暖かい家庭に近い環境づくりの中でお年寄りのお世話をするということに徹しておられる姿勢が感じられた。

最後にこれから高齢者福祉施設を計画する設計者への提言として“設計者はクライアントの意向を聞きすぎないように”というご意見を頂いて取材を終えた。

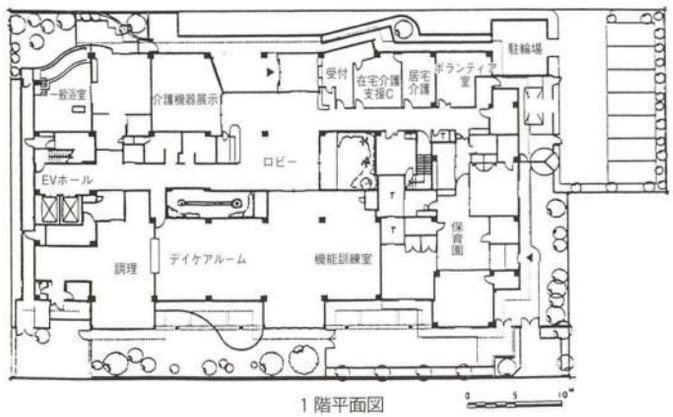
（文責　斎藤治久）



外観全景



デイケアルーム　食堂（１F）



１階平面図

施設名　老人保健施設　みあ・かーさ
開　設　1996年５月
運　営　財団法人　浅香山病院
所在地　大阪府堺市今池町４丁４番12号
規　模　敷地面積　2,550.90㎡／建築面積　1,406.10㎡／延床面積　4,271.15㎡
　　階数　地上４階
施設内容　老人保健施設、デイケア、在宅介護支援センター、居宅介護支援事業者、事業所内保育所
定　員　［入所］100名
　　痴呆専門棟46名　一般療養棟54名
　　［通所］30名
併設施設　特別養護老人ホーム

特別養護老人ホーム　愛知たいようの杜

建築を語る時、建築家は自然との共存をよく口にする。一方でこれまでの老人ホームなどの福祉施設は平面形がそのまま建物になったようなフラットなものが多い。これは当然バリアフリーと言うことからは有利な環境である。都心から離れた郊外の山中に建設する場合においても、一応造成工事と称する段階を経て、もともとあった地形や木々などの自然事物は改変されることが多いのである。

ところが、この「愛知たいようの杜」はそうではなかった。施設長の吉田一平氏という人物は実に魅力的な方である。話し方というより話そうとしている自分のイメージがどんどん現実化していくように話がわいてくるような話しである。

「木を残す」という命題を徹底的に施設づくりの中で試みつつある。もともとの木に人の名前を付けて工事関係者の人の理解を得るために努力されている。工事関係者の名を全員残すための部屋を施設内に用意し、関係者の意識を変えようとする。

高齢者だけの施設ではなく、子供や地域の人などが自由に出入する杜をつくる。このロマンは建築家には当然あるだろうし、これからの高齢社会の環境づくりでは当然のテーマである。すごいのは当たり前のことをそのまま実現していこうとしてやっていくことである。

施設の考え方が自然の力を借りてということで、やぎ、鶏、犬などの動物も共に暮らしている。現在は介護度が高い人が多くなってそれが不可能となっているが、当初は入居者自身が飼うようなこともあったそうである。

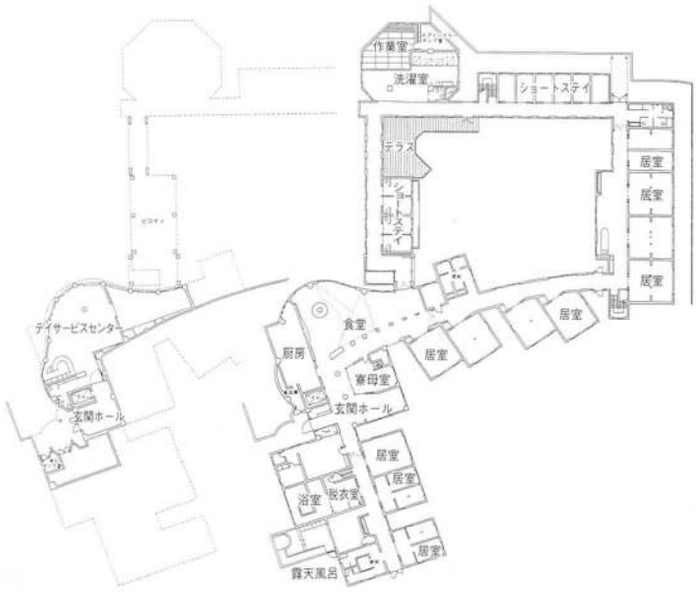
建物の配置が自然の地形や木々をいためない形でそのまま計画されたり、できるだけそのままの仕上げで自分たちの手作りで進めていこうと言う姿勢も随所に見られる。

バリアフリーの面では最小限で対応しており、できるだけ画一的な配慮やものは取り入れないとのことで、施設を会社のようにはしないとのことであった。入浴に関しては午前、午後に男女を分けて毎日している。機械浴も導入し、体調に合わせて運用している。併設の幼稚園には温泉を掘り、露天風呂に職員ともども入り、パーティをするなどまさに裸のつき合いを目指している。地域とのつながりとして、お金の変わりにどんぐりを用いて、杜を開放する「どんぐり学校」を開催している。

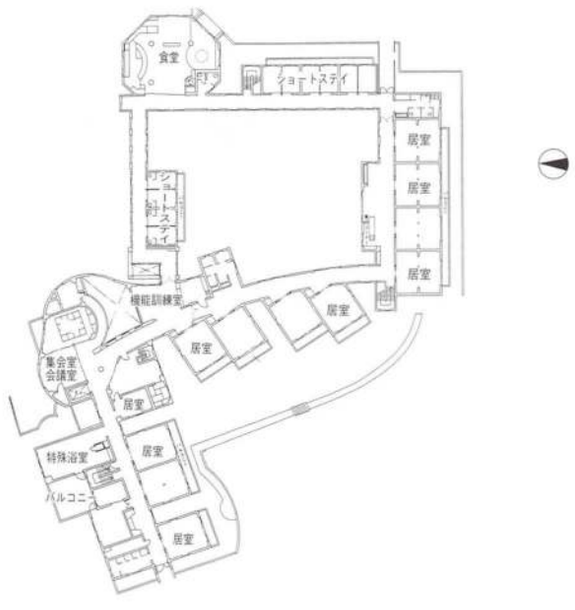
このような積極的に従来の高齢者施設のあり方に風穴を開けるようなさまざまな試みは大いに参考になる。施設の計画や設計はいろんな基準や制度だけで進めるものではなく、本来、人間社会で求められてくる人と人の生活、環境との対話という原点に立ち返って、これからいったいどんな施設あるいは環境づくりが必要なのかを再確認しておく必要がありそうである。

（文責　田中直人）

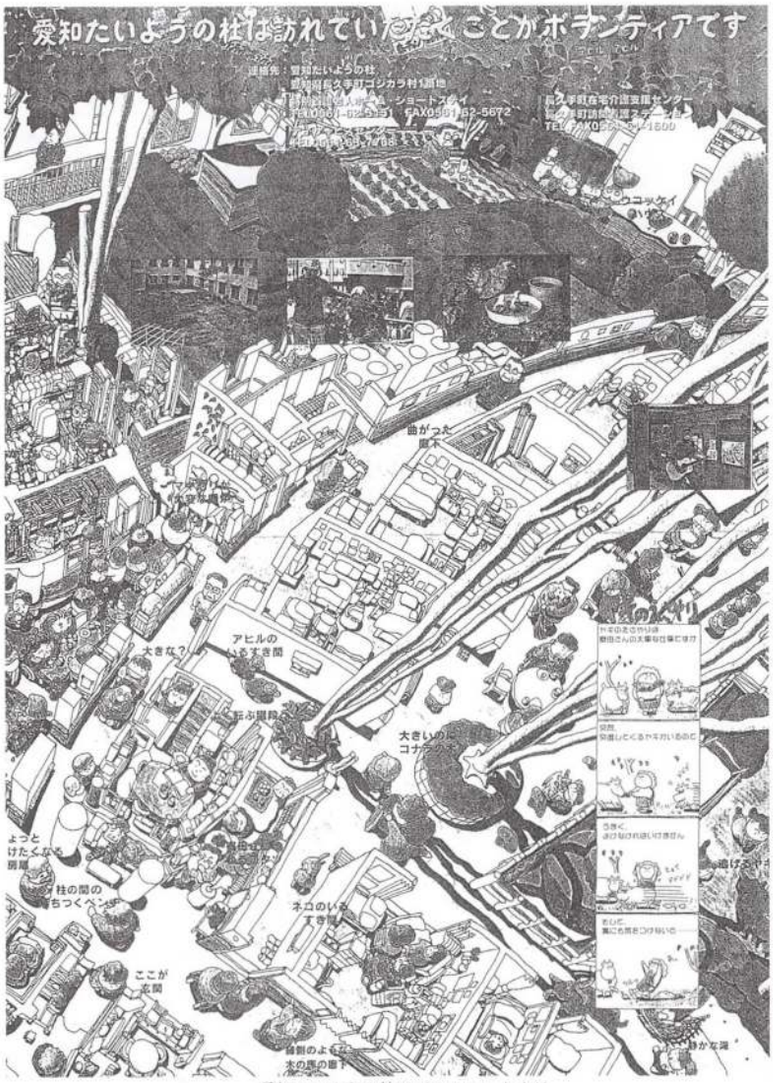
施 設 名　愛知たいようの杜
開　　設　1987年
運　　営　社会福祉法人　愛知たいようの杜
所 在 地　愛知県愛知郡長久手町大字長湫字根嶽29-4
規　　模　敷地面積　19,390㎡／建築面積　1,766.48㎡／延床面積　3,477.05㎡／階数　地上３階
施設内容　特別養護老人ホーム80名／在宅介護支援センター／デイサービス40名／ショートステイ25名／ヘルパーステーション／グループホーム現在７名（平成13年１月８名増予定）／訪問介護ステーション／ケアハウス50名予定（平成13年３月竣工予定）



地階平面図　　1階平面図



2階平面図　　※いずれも1：1000



愛知たいようの杜のパンフレットより

イラスト満載で見ているだけで楽しくなるような施設案内



在宅介護支援センターのアプローチ

入口はバリアフリーではないが、自然の心地よいしつらえは木の香りがいっぱいのやさしいアプローチである



曲った廊下

「まっすぐなものはよくない」とは変な話だが、冷たく直線で構成するのとは違って、やわらかな味わいがある



研修室の内部

何から何まで木にこだわった造りは、すっぱりと人を自然の木々のスピリッツに染めてしまう



樹木が一番エライ！?

建築は元々の樹木の存在を否定することなく、壁や天井、床を穴だらけにしてでも守る



工事中の「花子」と「葉子」

元々の森を守るため、あえて木々の立地条件に合わせて建築をつくる。工事中はやさしく養生し、それぞれの名前を掲げていたわる



山羊さんもいます

多くの生き物を育てる中に人間らしい感性を忘れずやさしい交流の場面を演出する

ウェル・エイジング・プラザ　奈良ニッセイエデンの園

JR大和路線「王寺」駅から約15分。ニュータウンの中に目的の施設はあった。周辺環境としては奈良県北西部に位置する住宅地となっている。玄関先に出迎えてくださった早川さんの案内で、施設訪問は始まった。大きなエントランスロビーは福祉施設というよりは健康保養施設のような、あるいはホテルのようなゆったりした雰囲気がある。細かいところに目をやれば、カウンターの脇に小鳥のかごがあり、生き物とふれあう受付け空間を演出している。

「今日はふれあいプラザの講習会があるのですよ」という集会室にさっそく案内された。入居している高齢者だけでなく地域のいろんな人に時期折々のテーマを選んで講座を開催しているとのこと。今日は高齢者のおしゃれについて行うと言う事で部屋は満席になっていた。講師の先生方の巧みな話術のせいもあるが、ゆったりとした和やかな雰囲気の中で進められていた。「施設が施設として閉じこもるのではなく、地域の人と共にふれあいながら生活する環境として運営していこう」という早川さんをはじめとするスタッフの皆さんの熱意が感じられる場面でもあった。

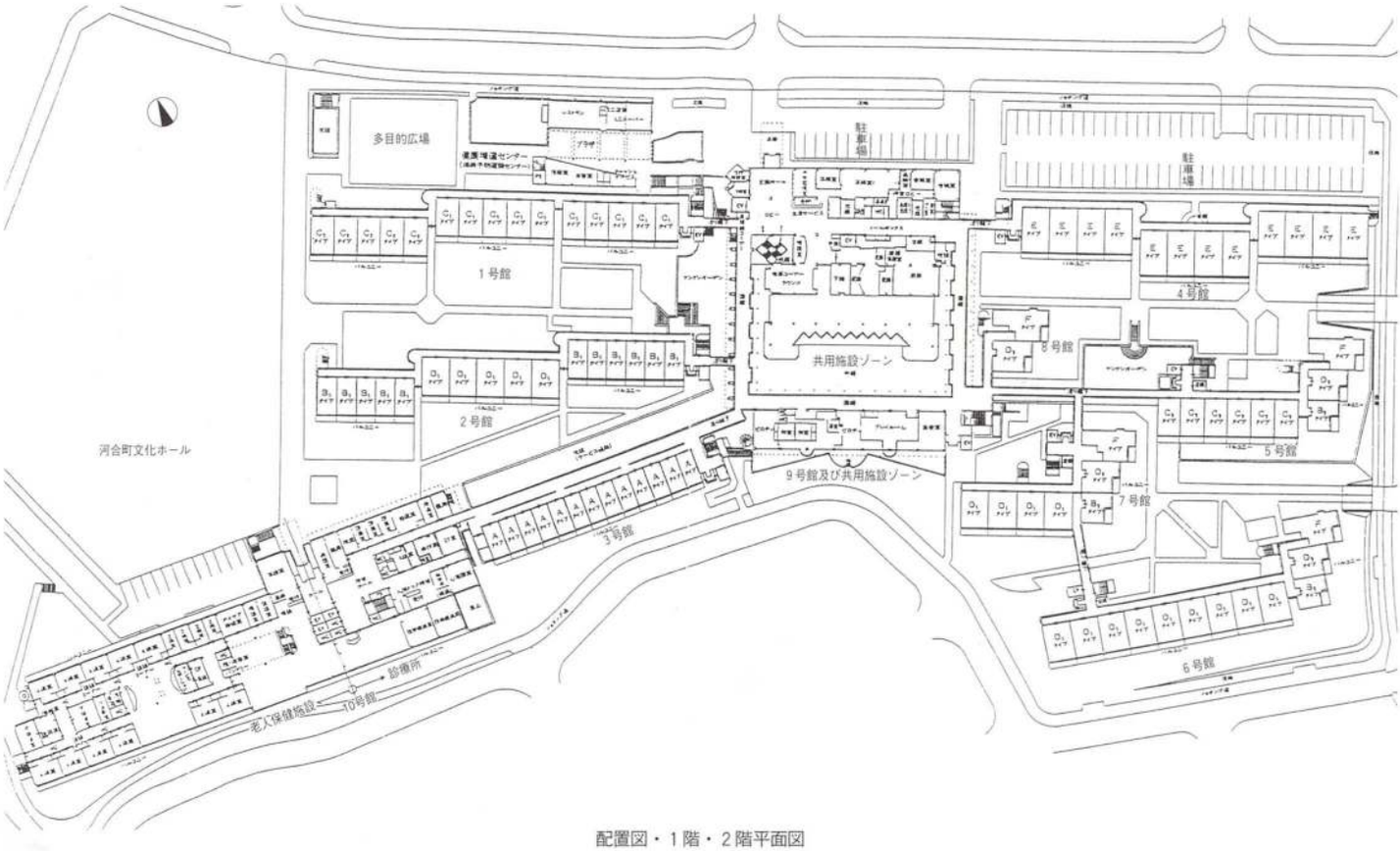
施設は大規模であり、長い廊下が中央の共用施設ゾーンから敷地にあわせて、１号館から10号館まで広がるプランである。しかし、廊下を歩いていて、この手の施設にありがちな暗さやにおい、あるいはいろんなものが置かれているような生活臭さが感じられなかった。おそらくプランを担当された建築家の地形をいかした変化の多い中庭に開かれた空間やまちの中にいるような生活環境をめざした多様な施設機能の構成によるものであろう。もちろん行き届いた施設のメンテナンスがあることは言うまでもない。

たまたま施設内を歩いているときに声をかけてくださった女性がいた。「ここで住まわれていていかがですか」という私の質問に「大変、満足してますよ。よければ私の部屋を見られますか」と案内していただいた。もともと大阪の都心でお店を経営しているとのことで近くの設計事務所の方々もよく出入りされていたらしい。建築に大変関心があり、最初からこの施設に入ることを望んで、検討していたそうである。世界中を旅したり、絵画や写真などの作品をご自身で制作し、部屋中がギャラリーのように美しく飾られている。バルコニーからこの施設の空間の特徴を確認することができた。加齢とともに体が不自由になる人ばかりでなく、このようないきいきした高齢者の満足する生活環境ももっと必要であると感じた。

（文責　田中直人）

施 設 名　ウェル・エイジング・プラザ「奈良ニッセイエデンの園」
開　　設　1992年４月
運　　営　財団法人ニッセイ聖隷健康福祉財団
所 在 地　奈良県北葛城郡河合町高塚台１丁目８－１
規　　模　敷地面積　37,231.53㎡／建築面積　13,697.17㎡／延床面積　44,464.06㎡
構　　造　鉄筋コンクリート造、一部鉄骨造　階数　地下１階、地上５階

施設内容　有料老人ホーム391戸（うち介護居室29戸）
　　老人保健施設（併設）116床
　　付設診療所19床
　　訪問看護ステーション、ケアプランセンター
そ の 他　厚生省「ふるさと21健康長寿のまちづくり事業」第１号認定施設



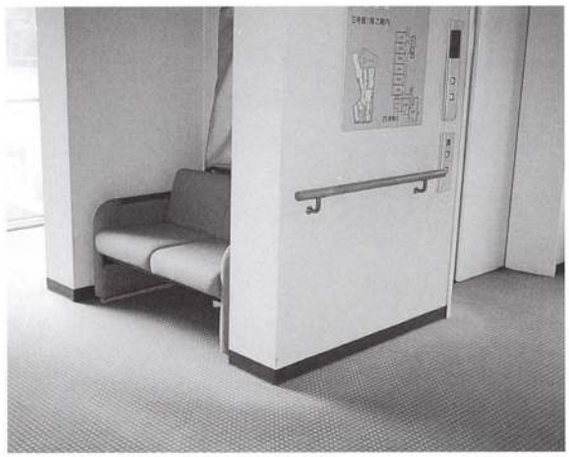
配置図・１階・２階平面図



老人保健施設
併設の老人保健施設はいろんな高齢者を受け入れるサロンでもある。



広くて明るい廊下
知り合いと会えば思わず長い立ち話になってしまう。そんな親しみやすい空間。



エレベーターホールのおしゃべりコーナー
エレベーターの前は小さなコミュニティ広場になる。



外観風景
木々の豊かな緑に囲まれた静かな居住環境を生み出している。



心の空間ーお地蔵さん
中庭のすみにそっとまつられた地蔵さんは居住者のいやしのスポット。

特別養護老人ホーム　K-maisonときめき

JR伊丹駅の近く、猪名川のほとりに施設はあった。高齢社会での地域の助け合いや協力をすすめ、福祉のまちづくりを支援していこうとする「コープこうべ」の設立した法人によるものである。「愛と協同」の思想を基本として、これまでの高齢者施設のイメージをできるだけ、この思想で変えていこうとするものである。

施設には在宅支援センターがあり、デイサービス事業やショートステイ事業、ホームヘルプ事業などを積極的にすすめ、地域社会に対する福祉サービスの拠点をめざそうとしている。特別養護老人ホームは定員が90人であるが、女性が多く、平均年齢は83.4歳である。現在、66人と多くの入所希望の待機者がある状況である。ショートステイの予約の率も高く、この施設が当初の計画以上に地域の人々に活用されていることがうかがえる。福祉センターが併設されており、ここでは多彩な講座が開設されている。ことぶき大学や老人大学などでは定員を超える方が受講するなど、地域そのものの文化的熟度の高さも感じられる。

中央部の吹きぬけ空間はエントランスロビーとして施設の顔になるだけでなく、地域交流のときめきホールとして活用されている。これに連続するデイサービスや福祉センターが多くの利用者のアプローチを可能としている。居室は基本的に個室として計画されており、従来の4人部屋のような収容施設的イメージではなく、生活の場としての質が追求されている。ライトコート周りの居室群が一つのコミュニティ単位として意識されるが、食堂・デイルームを中心にしながら、住民の交流を高めるプログラムづくりも重要であろう。ライトコートはそれぞれの廊下周りにやさしい光と風の環境を提供しているが、もっと自由にアクセスし、活用できる空間であればさらによいのではと感じた。

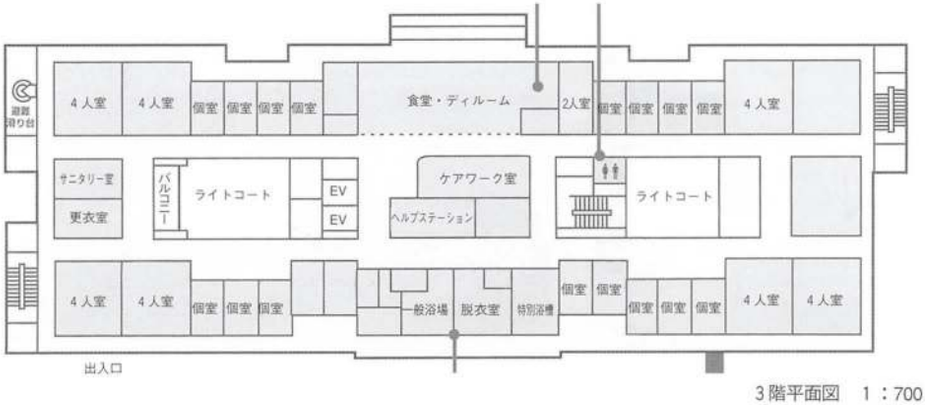
隣接している猪名川の川辺へのアクセスは大変魅力的である。本施設では2階のテラスから外部の河川敷へ出入りできるよう計画されている。施設のもつ立地特性をさらに活用し、豊かな自然環境を享受することが期待される。また、隣接して小学校があり、この児童や教員と施設の交流があるそうである。夕方、卓球をしたり、休日、1Fのホールで遊ぶということであるが、もっと小学校の行事との特定の日だけでなく、日常的な交流が進むことを期待したい。本来、施設が独立してあるのではなく、地域のさまざまな施設とうまく連携して存在することが望まれる。特に高齢者に対する普段からの児童との接点は教育上も重要である。

本施設に限らず、生活協同組合としてのコープこうべのこれからの地域に対する活動としてこのようなプロジェクトの方向性が注目される。

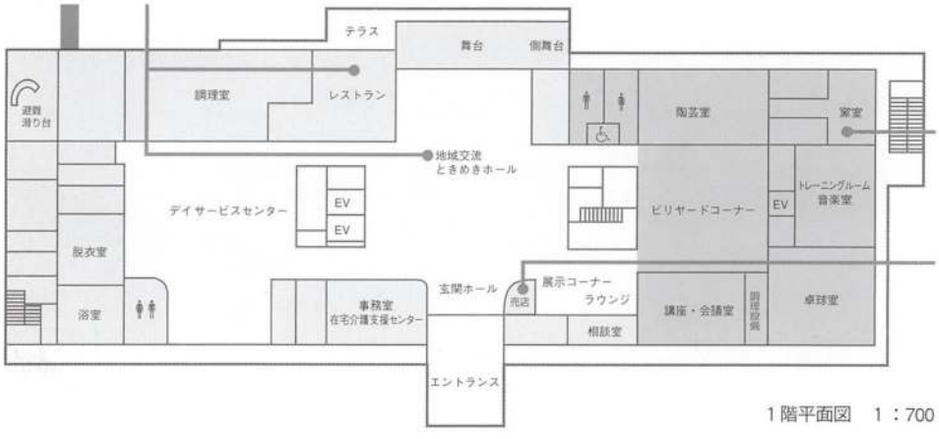
（文責　田中直人）

施 設 名　特別養護老人ホーム　K-maisonときめき
開　　設　1999年4月
運　　営　社会福祉法人　協同の苑
所 在 地　伊丹市森本1丁目8－19
規　　模　敷地面積　5,436.06㎡／建築面積　2,721.42㎡／延床面積　8,191.69㎡

施設内容　特別養護老人ホーム、デイサービス、在宅介護支援センター、ケアハウス、福祉センター
定　　員　特別養護老人ホーム　90名／ショートステイ　20名／デイサービス　49名／ケアハウス　30名



3階平面図　1：700



1階平面図　1：700



地域交流のときめきホール
1階中央部のこのホールは、地域のいろんな交流活動の拠点として機能している



外観風景（向かって右側の建物、左側は小学校）
猪名川に面した立地環境を巧みに生かしている



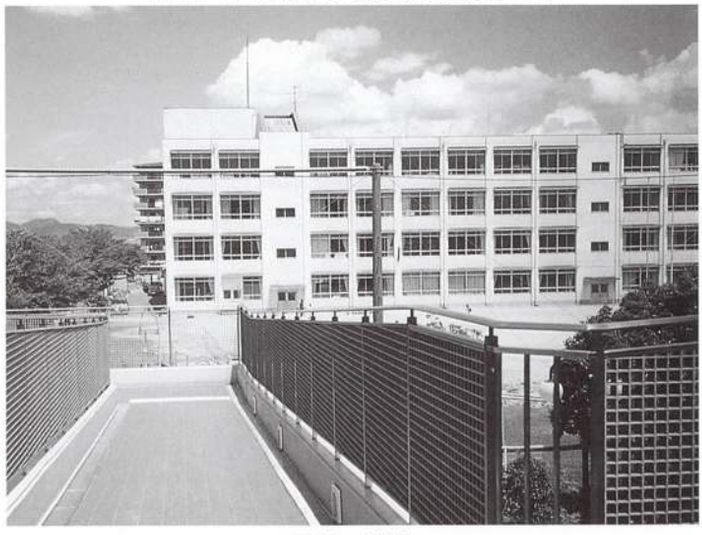
デイサービスセンター
家具や、照明にやわらかい自然感覚をとり入れているやさしい空間である



食事室での談らん風景
ボランティアの人たちによる歌謡教室が開催されている



地域福祉センター
ビリヤードに興じるかっこいい高齢者の姿が印象的であった



隣接する小学校
高齢者や子供達の自由な交流が可能になるような接続空間が求められる

介護専用型有料老人ホーム　ナイス・ケア大和田

ナイス・ケア大和田は、全国ではまだ例の少ない介護専用型有料老人ホームとして松下電工が1998年７月に門真市にオープンした。入居時より痴呆症、寝たきりなど、常時介護を必要とする人が終身入居し、富裕層の人が多い。全体で個室80室、９グループの集積型グループホーム形式。2000年８月現在では51人が生活している。

建物は、昔ながらの住宅や商店が密集する一角に建つ４階建て。高級老人ホームとしては意外な立地、という印象だが、京阪大和田駅から徒歩５分、大阪市内から30分という交通の便利さもあり、休日は家族やボランティアなどの訪問客で賑わうという。１階は多目的ホールやリハビリ訓練室、理美容室、ゲストルームなどのパブリックエリアと管理エリア、地域の人が利用するデイサービスエリア、そして見学者用のモデルルーム。２～４階は各フロア共、グループホームが３つとラウンジ、ケアステーション。介護レベルの違う浴室が１室ずつ。それぞれのグループホームは、個室９室と共用の居間、食堂、キッチンで構成される。入居者のための屋外スペースには屋上庭園があてられている。それぞれのエリア間の行き来はセンサーで検知され、現場のスタッフのキー操作及びケアステーションの集中管理による。

「各階のラウンジはすべて雰囲気を変えていて、この他には、北欧風喫茶室、数寄屋風茶室などがあります。また、館内での場所の認識を容易にするためにも、階毎にテーマカラーを決め、ちなみにここ４階は最上階なので、テーマカラーは空をイメージした青。同じフロアの中でも、ゆり、ふじ等のグループ名に合わせた色でエリア毎にコーディネートしてます。これは自分の住まいとして愛着を感じていただく目的もあります。スタッフは個室に入るときには必ずドアをノック。個人のお宅へ伺うのですから。」と施設長の富田氏。

施設設計に関しては「どういう人が入居するのかマーケティングして、その人達に安心感を与えられるようなデザインなり素材を考えることですね。そして建築の設計も医療と同じく、相手とのインフォームドコンセントが必要だと思います。」とアドバイスをいただいた。

ここでは集団生活を通して残存能力を活かすグループホームケアと、個人のライフスタイルやプライバシーを尊重するパーソナルケアの両立が介護の柱に考えられている。介護スタッフは入居者1.5人に１人。講師を招いて行われる書道、茶道などのクラブ活動やオペラコンサート、花見などのアクティビティも盛りだくさんに準備され、最近では近所の学校との交流も多い。

特筆すべきは、施設が特徴として掲げている手厚い介護をサポートする館内に張り巡らされたケア情報システム。ケア・ウェットコールはオムツセンサーにより、排尿データを管理してトイレ誘導し、オムツはずしを促進する。ケア・モニターは居室に赤外LED照明と画像センサーを設置し、異常が検知されれば担当スタッフのポケベルとケアステーションに文字情報で（画像ではプライバシーの問題があるため）通報される。ケア・ホンは、入居者が着けるリストバンドかベッド横のボタンを押せばスタッフと会話ができるというものなど。

また、入居者それぞれの介護記録がコンピューター管理され、内容を抜粋して月一回家族へ送付される。安全で適切な介護、人としての尊厳やプライバシーを尊重しつつ、同時にスタッフの負担を軽減する目的で開発されたという。

この運営システムには、松下電工が製造業として培ってきた業務の合理化追求の考え方と共に、徹底した顧客志向が根底にあると考えられる。可能な部分は極力機械化し管理することで、そのぶん人間にしかできない血の通った介護サービスの時間を充実させる。決して効率のみを重視したものではないことが、有資格スタッフの数の充実や教育、施設の中に散りばめられた小さな工夫からもうかがえる。

ただ、入居者は、きめ細かく介護されていると同時に、管理されているという印象を受ける。それぞれに価値観や考え方も違うはずで、この点に関してはシステムに感心しつつも、介護と管理を受けているお年寄りの意思が図られにくいことへの心配と、それでも図ることの必要性、機械の限界も感じずにはいられない。また、人間が生きるには、ある程度の不便さやストレスや秘密も必要なのではないかと思う。

松下電工には今年６月に、高齢社会に対応する為のナイス・エイジフリー推進部が新設された。住環境整備で培ったノウハウを生かし、高齢者、介護者、施設向け商品開発や、増改築・介護サービスの提供や施設運営などに事業展開する。そもそも、同社が本格的に介護事業にのりだしたのは平成８年。全社から新事業を担う希望者を公募しナイス・ケアサービスを設立。その２年後に施設第一号としてナイス・ケア大和田が松下の本部がある門真市に開設した。

今後、第２、第３の施設運営の可能性も検討されるという。民営施設としての長所を活かしつつ、どのように採算を合わせ事業展開していくのか。介護の現場から得たノウハウ、高齢者本人とその家族、介護者、地域の生活者らの声がどのように企業の介護事業に生かされていくのか注目される。

（文責　杉本雅子）

施設名　介護専用型有料老人ホーム　ナイス・ケア大和田
開　設　1998年７月４日
運　営　ナイス・ケアサービス㈱
所在地　大阪府門真市常称寺町10番１号
規　模　敷地面積　2,446㎡
　　建築面積　1,424㎡
　　延床面積　4,856㎡
　　階数　　地上４階

施設内容　介護専用型有料老人ホーム
定　員　78名
併設施設　デイサービスセンター、居宅介護支援センター



外観



グループで朝食
ゴハン食とパン食がお好みでチョイス、希望によっておかゆのサービスも



リハビリ訓練室
体力維持のためのリハビリ訓練、個人のマイペースで



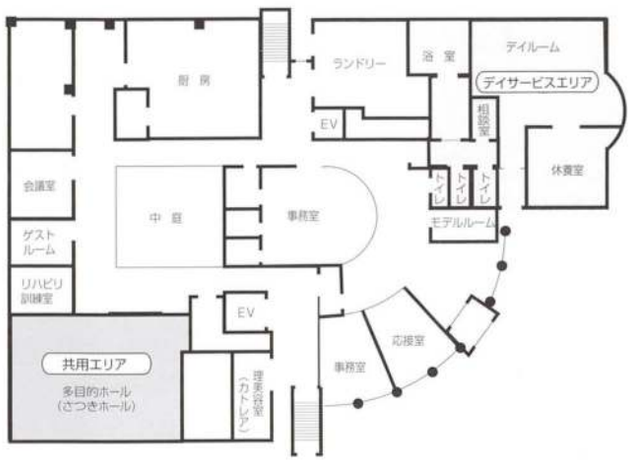
理・美容室
年齢をとっても美しく。プロの美容師が入居者の整髪・美容を行う



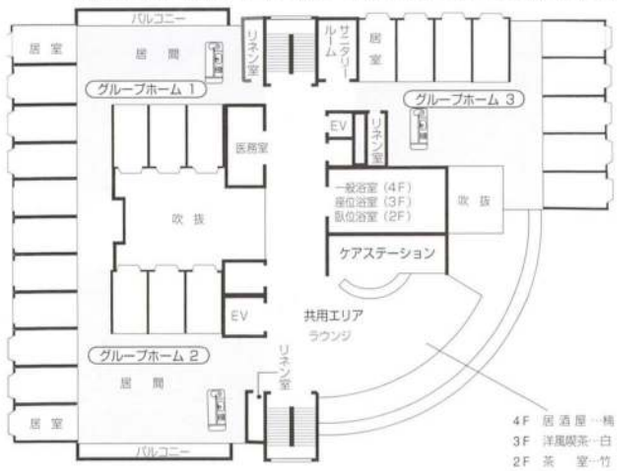
起床
リクライニングが容易な電動ベッドなので、寝起きが大変楽に



個室
個人の能力に応じたトイレ誘導・介護、おむつはずしを積極的に行う



1階平面図1：600



2階平面図1：600

小山田福祉施設群

社会福祉法人青山里会理事長の川村陽一氏にお話をうかがうと、青山里会では「ノーマライゼーション」を基本理念に、高齢者やハンディキャップを持つ人々やその家族の方が、これまで生活してきた地域とのつながりを失うことがないような福祉環境づくりを最も重要なテーマとして、日々お世話をして地域の人々や入居者同士の交流をはかるため、盆踊り大会や野外パーティなど様々な仕掛けを工夫し実施している。

痴呆性の高齢者の方をはじめお年寄りが安心して過ごすことのできるのは、そのお年寄りの人生の足跡まで丹念に調べ、きめ細かく向きあうことのできる専門家が必要との考えから、青山里会の主要施設においては、「コンタクトパースン」と呼ばれるスタッフを配し、お茶などを飲みながら気楽な雰囲気のなかで、お年寄りたちの話し相手になり、また悩みや相談に応じ、その聴取内容を介護スタッフに伝えて介護内容を充実させるといった、お年寄り一人一人に対してのきめの細かい配慮がなされている。

高齢者福祉施設もこれからは今までのような施設という考えではなく、健常者が送っている生活と同じような普通の環境で、入居しているお年寄りも生活をするべきという考えから、また入居者の障害程度や自立度に応じたよりきめ細やかなサービスの提供のニーズなどから、従来の大規模な施設から小規模な「ユニットケア」という概念を取り入れた施設が全国に広まっている。

ユニットケアは、7～8人程度を単位として介護を行うものであるが、民間施設においては経済性と効率性の面からこのような少人数単位での介護体制を整えることは難しく、青山里会の施設では15～20人のグループでユニットケアの介護がなされている。「介護総合センターかんざき」では1フロアを3つにのグループに分け、15、6人を1グループにしたユニットケアが行われていた。また1グループごとにお年寄りの方が集まれるホール的な共有スペースが設けられ、各グループごとにお年寄りが集まって団らんされていた。

川村理事長は、法人の設立から30年近い施設運営のなかで、福祉とは如何にあるべきか、介護とは如何にあるべきかを求めて、国内のみならず、福祉先進国と言われる北欧のスウェーデンやデンマークなどの国々にも見学に訪れた。そこで感じたのは、環境、生活習慣、国民性など様々な条件から、わが国の風土に適した福祉環境を整える必要性を痛感したとのこと。この想いが、前述した青山里会の基本理念である「ノーマライゼーション」に集約され、地域にしっかりと根を張った理想的な福祉環境づくりを目指しておられるように思われた。

最後にこれから高齢者福祉施設を計画する設計者へのアドバイスとして、「いろいろと見学した施設のなかには、できあがった建物のハードと実際に運営にあたるソフト面とに不都合が生じている施設も見受けられる。設計者は机上での考えだけではなく、運営者・現場の方とも意見を交換して計画してほしい。」というご意見を頂いて取材を終えた。

（文責　斉藤治久）



介護総合センターかんざき　外観



介護総合センターかんざき　ホール的な共有スペース

運　　営　社会福祉法人青山里会
所 在 地　三重県四日市市山田町5500-1
施設内容　小山田特別養護老人ホーム、小山田ケアハウス、小山田軽費老人ホーム（B型）、亀山老人保健施設、ケアハウス常磐、介護総合センターかんざき、身体障害者療護施設小山田苑他

〔沿革〕　四日市駅近くで川村病院を開業し、地域住民の医療に従事していたが、公立病院から送られてくる高齢の患者を介護するために、四日市市郊外の小山田の地（近鉄四日市駅から西南へ、バスで約30分程度の田園地帯）に特別養護老人ホーム（100名、現在200名）を昭和49年に開設したのが始まり。

その後、小山田病院（150床）を昭和52年に開設。続いて軽費老人ホームB型（昭和54年―50名）、全国で初めての痴呆性専門の第2特別養護老人ホーム（昭和56年―50名、現在100名）、高齢化社会へのきめ細やかな対応を目指し医療と福祉が一体（ケアとキュアの一体化）となった小山田温泉病院（昭和61年―330床）、病院での入院治療よりも介護に重点を置き在宅復帰を目指す小山田老人保健施設（昭和63年―100名）など一連の医療福祉施設を開設。

最新の施設としては、介護保険法に基づいた介護総合センターかんざき（特別養護老人ホーム70名）も開設され、現在は、他の病院も含めて全国でも有数の医療福祉の総合施設群を形成。

運営者に聞く高齢者福祉施設の課題と展望

――アンケート調査に見る建築関係者へのメッセージ――

田中　直人

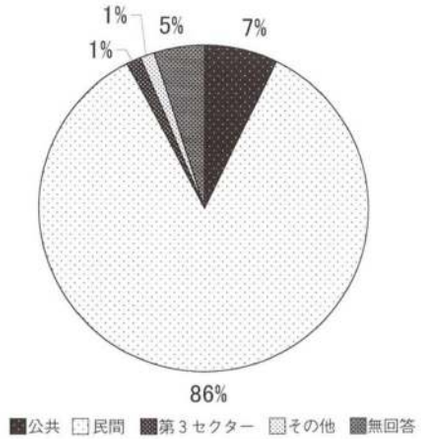


図1　施設の運営主体

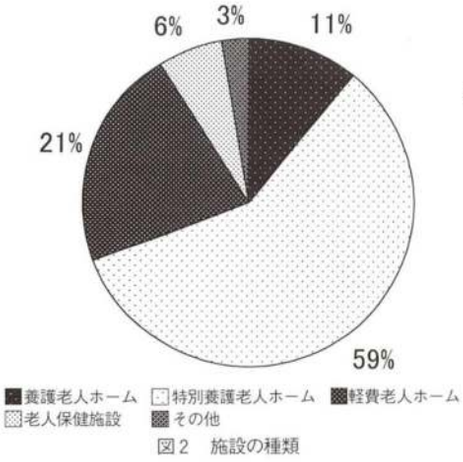


図2　施設の種類

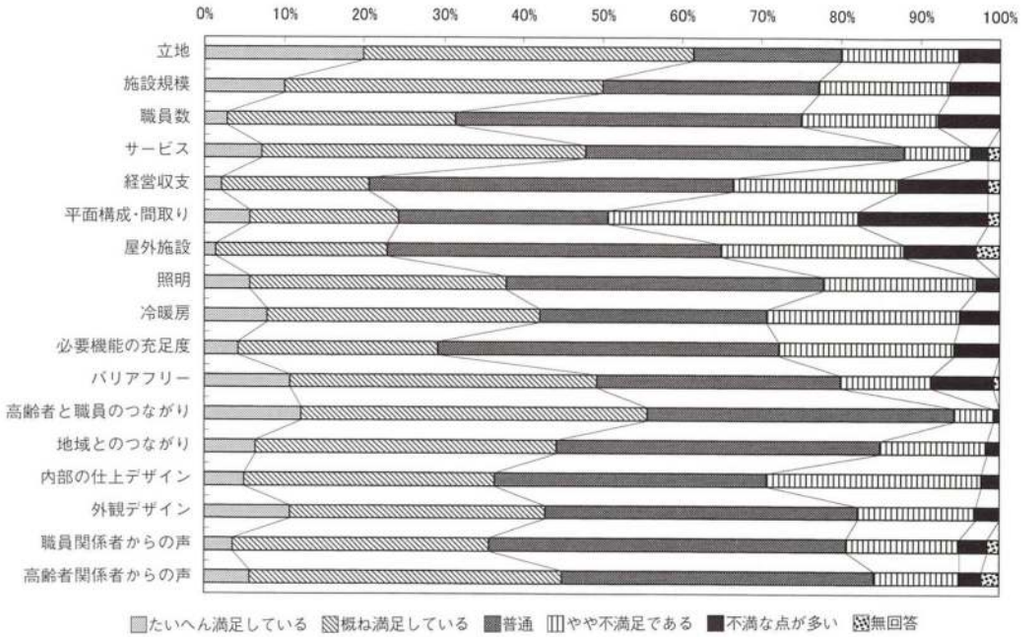


図3　現在の施設に対する満足度と内容

はじめに

これからの高齢者の居住する施設はどうあるべきであろうか。これまでに設置されている施設について、日々、高齢者の生活を支える環境づくりに努力されている施設関係者の皆さんの声を求めて、アンケート調査を実施した。調査対象とした施設は、近畿地方(2府4県)の高齢者福祉施設で、回答は施設管理者の立場で基本的には施設長さんにお願いした。内容としては、これからの施設や住環境の整備に向けた意向についてたずねた。

調査概要

1）調査時期　2000.8～2000.9

2）調査対象　大阪府、京都府、兵庫県、滋賀県、奈良県、和歌山県にある高齢者福祉施設のうち、養護老人ホーム、特別養護老人ホーム、軽費老人ホームなどの居住施設の管理者（施設長）を対象とした。

3）配布および回収状況

全体の配布数は1001で、回収数は140であった（回収率14.0%）。

調査結果

回答のあった施設の属性

回答をいただいた施設の運営主体を見ると、民間の施設が86%と大半を占める（**図1**）。施設の種類としては特別養護老人ホームが6割を占め、続いて軽費老人ホーム、養護老人ホームであった（**図2**）したがって、今回の調査結果を提供していただいたのは、民間の運営主体による特別養護老人ホーム等の意見が中心となっていると言える。

現在の施設に対する満足度と内容

現在の施設における満足度を調査した結果（**図3**）、立地や施設規模、バリアフリー、高齢者と職員のつながり、外観デザインなど満足度が高いが、経営収支、平面構成、屋外施設、必要機能の充足、内部の仕上げなどに不満が多いことがわかる。これまでの施設計画では高齢者福祉施設としての立地や施設規模、バリアフリーなどのハード面での計画課題やサービスや高齢者と職員のつながりなどソフト面での対応に比較的満足のいく状況が存在することがうかがえる。一方、経営収支などの経営的問題に加えて、施設の機能充足の基本と

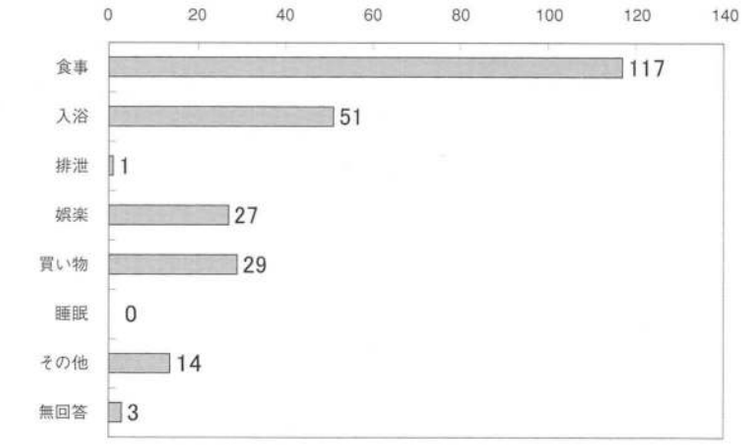


図4　高齢者の喜ぶ生活場面

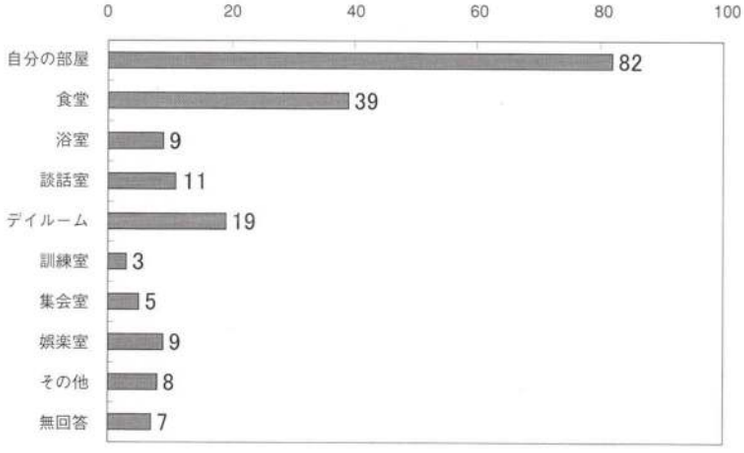


図5　高齢者の気に入っている場所



春は皆んなで花見の宴



良い天気の日は中庭でスポーツを

なるべき平面構成や必要機能の充足、内部の仕上げなどに不満が多いことはこれまでの施設計画で建築関係者がまだ十分に問題点を掌握仕切れていない側面を物語る。さらに屋外施設の不満などは、とかく外観デザインや建物の箱の内部に重点が置かれがちなこれまでの施設計画の課題が確認できる。

高齢者の喜ぶ生活場面

施設内でどのような生活場面において、高齢者が喜ぶのかをたずねた（**図4**）。生活のプログラムについては施設の関係者が高齢者の状況を考慮して、それぞれに工夫を凝らしていると思われるが、実際生活をしている高齢者にとってどうだろう。

施設の運営者の視点からは、生活場面の中で食事がもっとも喜ぶ生活の場面であるという意見であった。続いて入浴となっている。「食べる」という生活行為はいくつになっても最大の楽しみであるようだ。身体的状況だけでなく、心理的な状況においても、重要な生活行為であり、同じ施設に暮らす人たちのコミュニティ醸成のきっかけになっている。食事をする空間のつくり方だけでなく、食事のメニューや選択方式、雰囲気づくりなど、細やかな面での対応も重要な要素であろう。入浴については身体的状況により用いる浴室の構造設備は異なるが、身体を清潔に保つだけでなく、入浴による心身のリフレシュ効果は大きい。立地特性を生かした温泉の活用など施設計画においては、単なる入浴行為としてではなく、生活の大きな楽しみとしての入浴の効果を再認識する必要がありそうだ。買い物や娯楽という生活行為を受け入れるために、生活空間としてお店や文化・趣味の空間をはじめ、その他の施設を併設する例もあるが、基本的なものとして「食べる」ことや「入浴する」ことに対する高齢者の楽しみを施設づくりの中で忘れてはならない。

高齢者の気に入っている場所

施設内で高齢者が気に入っている場所をたずねた（**図5**）。結果としては自分の部屋がもっとも多い。続いて食事をする食堂となっている。デイルームは三番目にあるがそんなに多くない結果となっている。ところで、「睡眠」そのものは高齢者が一番喜ぶことに関する前問において、回答した施設運営者は皆無であった。したがって、

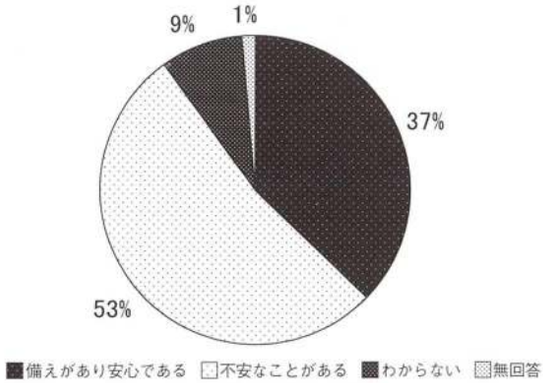
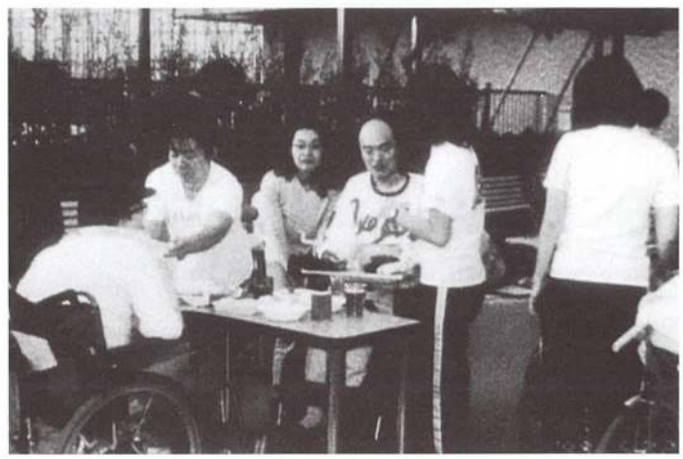


図6　火災・地震時への配慮


親切丁寧な食事の介助


音楽療法の先生と一緒になつかしのメロディー


ジョッキで乾杯、焼肉ガーデンパーティ

自分の部屋を気に入っているのは「睡眠」できるからではなく、自分の部屋としてそれ以外の生活行為を満たすことができるからであろう。では、どのような生活行為が該当するのであろうか。また、このような生活をさらに気に入った場所としての自分の部屋をどのようにすればよいのか、そのあたりが今後の課題となりそうである。

これまでの高齢者施設では4人部屋や6人部屋といった多人数の場合も多かった。最近では、できるでけ個室にして計画する例も増えている。高齢者が気に入るのは一体、どのような自分の部屋だろうか。食堂が気に入っているには「食事」をすることを楽しみにする人が多いことを反映しているほか、この場所での施設側から提供される様々な娯楽・レクリエーションなどの利用や自分の部屋では充足できない施設内の友人等との歓談などが要因となっていると考えられる。その意味で、3番目にあげられたデイルームのあり方について、これまでの計画どおりではなく、検討される必要がありそうだ。

火災・地震時への意識

あってはならないが、もしも火災や地震が起こったら、高齢者福祉施設でどうかをたずねた（図6）。半数強が不安なことがあるとしている。これは備えがあって安心という施設の倍近くになっている。本来、施設にいる高齢者の安全については日常的な場合だけでなく、火災や地震時のような非常時においても確保される必要がある。

阪神大震災においては多くの施設で高齢者の避難や被災環境での生活状況が話題となった。建築的には高齢者の避難行動をどう計画に反映するかであるが、避難だけではなく、安全性の確保のための待機方法やこの間の情報の提供方法、水や電気等のライフラインの欠如した環境でどのような基本的生活機能を確保するか等、今後の施設計画や改善提案への検討が求められた。その後、どれだけの施設で何がどこまで対応したのであろうか。今回の調査で半数強もの施設の関係者がこのような不安を抱いていることは、大きな問題である。不安であるとする内容について詳細はわからないが、今後の施設の改善計画でぜひ対応していただきたいものである。このような対応措置を抑制している要因には財政上のことも大きいと思われる。公的介護保険制度の発足で、わが国の福祉施策は新世紀にむけて新たな段階へ踏み込んだが、ぜひとも震災など教訓をもう一度思い起こ

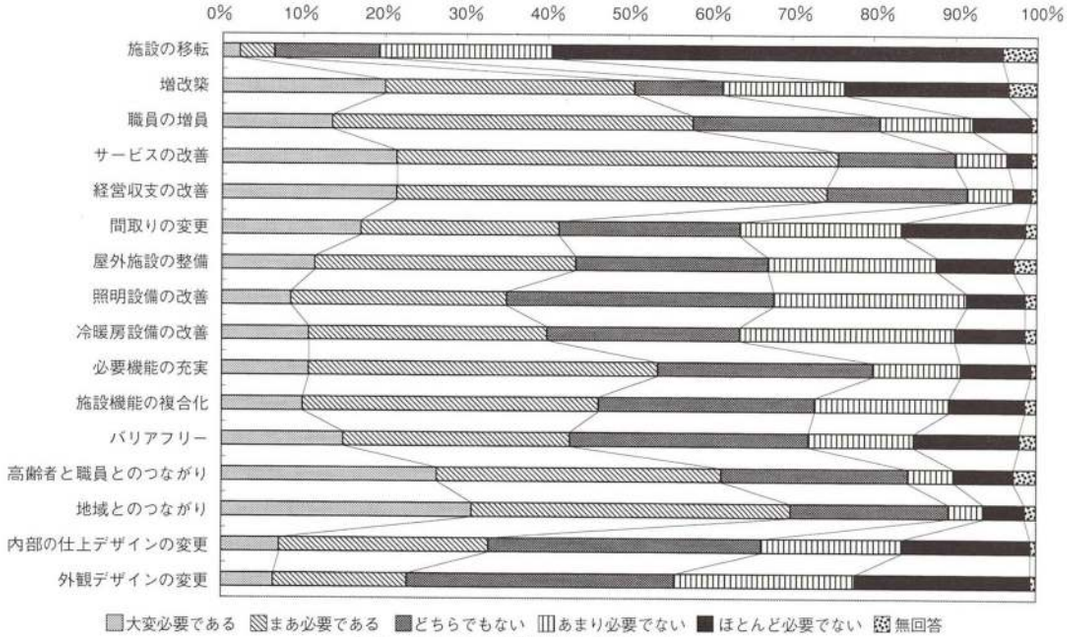


図7　これからの施設整備に必要なこと

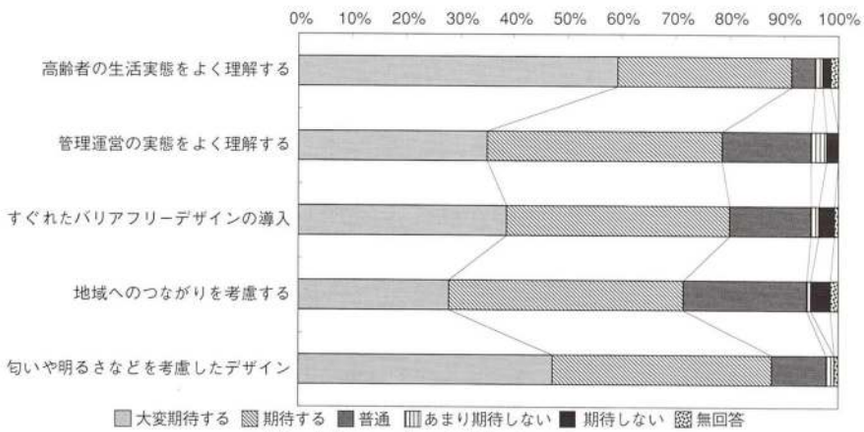


図8　建築家にこれから期待したいこと



楽しいレクレーションのひととき

して、インフラとしての施設の整備に非常時への対応を基本的課題として認識して、実行していただきたいものである。

これからの施設整備に必要なこと

これからの施設整備にあたってどのようなことが必要であるかをたずねた（**図7**）。これからの施設で必要なこととして、サービスの改善、経営収支の改善等の運営や経営的な面での対応が多く、さらに地域とのつながり、高齢者と職員のつながり等、「つながり」を重要視する意見が目立った。サービスの改善計画としては、今後施設として新たに強化していくサービスメニューの整備とともに、その内容が強化されなければならないだろうが、以前からのサービスメニューに対しても、客観的に評価し、点検していくことが求められよう。場合によっては思い切って改善するための変更や廃止するものもあろう。施設の移転や外観デザインの変更等については必要でないとする施設関係者の意見が多かった。もはや外観をいまさら変更することよりも地域の中でどのように根付かせるか、そのサービスや運営姿勢がポイントになるような結果であった。バリアフリーや内部設備などの変更は比較的少ない結果であった。

建築家にこれから期待したいこと

現在、多くの建築家は高齢者福祉施設に大きな関心を抱いている。そこで、施設運営者に建築家へ対して、これから期待したいことをたずねた（**図8**）。その結果としては、高齢者の生活実態をもっと理解してほしいということがもっとも多かった。これはこれまで作られてきた施設についてはある程度の計画的考え方、バリアフリーの方法等について、標準的な情報として反映したり、実現されているが、実際の現場からはもっと自分たちが直接世話をして知っている高齢者の生活環境について理解する部分があればよいのにという意見であろう。これからは多くの出回っているいわゆる「福祉の専門家」の書いた書物や意見をうのみにせず、建築家は自分自身で確認し、納得できるものを開発し、提案するべきであろう。

匂いや明るさなどを考慮したデザイン等もこれから期待されている。高齢者特有の匂いの問題や必要な光環境のデザイン等、これまであまり取り上げられていなかった環境の質に関するデザイン要素に

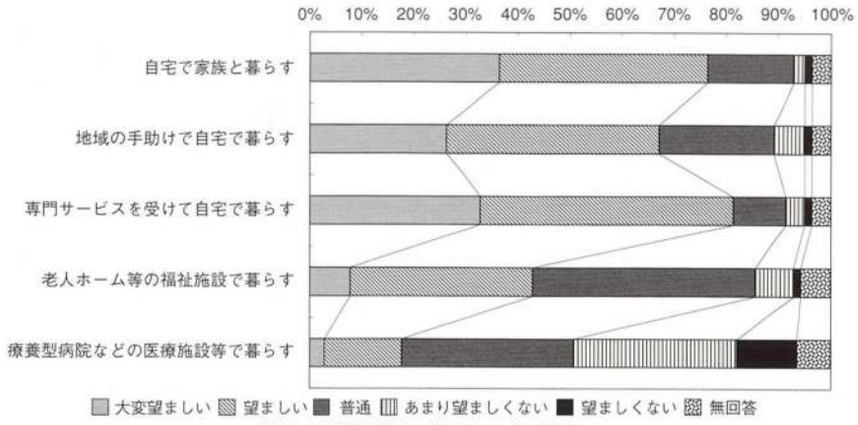
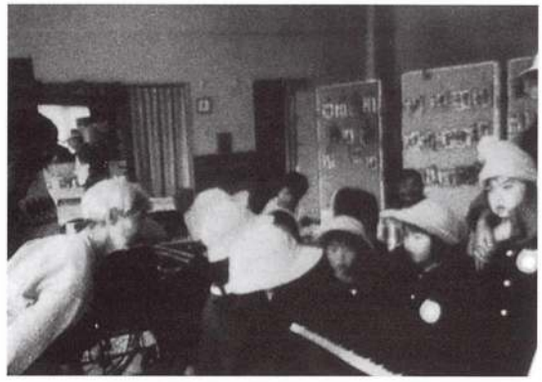


図9　高齢者が住むべきこれからの環境



近くの保育園からかわいい訪問者



皆で一緒におやつの時間



クリスマスにはサンタクロースと一緒に

ついても取り組んでいく必要がある。さらに、すぐれたバリアフリーデザインなどが続いて期待されているが、これまでのバリアフリーデザインの成果に満足せず、さらに必要となるデザインの開発を心がけるべきであろう。特定の高齢者の生活ニーズを満たす福祉専門施設としてだけでなく、開かれた施設としてのユニバーサルなデザイン対応についても考慮すべきである。

高齢者が住むべきこれからの環境

高齢者が住むべきこれからの環境として、住宅と福祉あるいは医療関係施設等との選択肢を示してたずねた（**図9**）。全体的に自宅で暮らすのを理想としていながらも、身体的状況など介護の必要性などで家族だけでなく、専門サービスや地域の手助けなどを求めようとしている。結果としては自宅で家族と暮らすついでに、専門サービスを受けて自宅で暮らすのを理想としてかかげるのがもっとも多い。地域の手助けで自宅で暮らすなどが多くなっている。福祉施設や医療施設に世話になることについては望ましいとする答えは少なく、医療施設については望ましくないとする答えも多くなっている。高齢者福祉施設としてはこのような理想を求める環境要求の中で、専門サービスの提供や地域の中で役立つという視点に立った対応がより重要になってこよう。

おわりに

高齢者福祉施設のあり方について、自由回答していただいたが、きわめてこれからの施設計画に関して、建築関係者が心しておくべきことがらも指摘されていた。これらの意見について紹介したいと思う。（各コメントのタイトルは筆者が追記しました。）

私たちがこれからめざすべき姿勢として、これらの実際の施設を運営、管理する立場で苦労されている人たちの切実な声に耳を傾けるとともに、高齢者をはじめとする、生活者の視点に立って、自分自身の生のデータに基づく真摯なデザイン姿勢を持つことであろう。

最後に、本調査の実施に際して、ご回答いただきました施設関係者の皆様、ならびにアンケート調査作業を担当していただいた大学院生の老田智美・池戸英司をはじめ、摂南大学田中研究室の諸君に厚く感謝します。

施設運営者からの声

□施設設計者の資質

施設の設計上はかなり不満がある。本当に施設を設計したことがあるのだろうか（ないかもしれない）と感じた。費用の点もあるのだろうかと思う。こういう施設を設計するのなら、どんな設計者でもよいものではなく、行政の方でしばりをかける方がよいではないか。

（滋賀県・特別養護老人ホーム）

□制約条件になっている最初の補助金申請

社会福祉法人が建物を建てる場合、自己資金が少ない為、どうしても国や都道府県の補助金をあてにしまう。補助金がもらえるかどうかわからない時点の申請用図面は十分な設計がなされていない。しかし、補助金が設定するとこの図面が基本となっており、それ以後の設計よりあまり大きく変更すると最初の申請がうその申請の様にとられてしまったりする。この様な理由で最低基準の建物しか建てられないのがほとんどです。（和歌山県・特別養護老人ホーム）

□日頃の経験から考える

高齢者福祉施設のあり方について、日頃の経験から考えていること

1）地域に開かれた施設として、ボランティアの積極的受け入れや、地域住民との交流スペースが絶対に必要である。

2）国や県の場あたり的な施設整備の為に、施設の建設時期により行政の施設建設の助成制度にバラつきがあり過ぎる。当施設の場合、建設当時「地域交流スペース」がなく、その後建設された市内の施設はすべてそれがあり、ゆったりしたスペースでハード面で他施設に比べて著しく見劣りがする。

3）また、当法人ではこれからの要援護高齢者の新しい住まい方としてのグループホームをいち早く建設したが、国の制度が後追いとなったために、当時助成がなく、もし助成があれば、さらに良い建設可能になったのではと悔やまれる。

4）当施設は建設後8年経過したが、建設当時には当然その後の入所者の高齢化によるADLの低下を予測して設計したが、予測以上のスピードで進行して見込みが狂い、これから建設される施設の警鐘としたい。特に、トイレの位置、エレベーター数とその位置、入浴設備等。特に入浴設備は、今やほとんど入所者の全てがリフト浴以上で、集団的な一般入浴スペースは不要といってもよい状況にあり、マンツーマン対応や積極的に省力化を導入した機械浴が可能な数とレイアウトが必要である。

当施設は南に河川があり堤防に面するために二階を玄関としたが、設計上若干スロープ状進入路を余儀なくされ、車イスは自力ではほとんど対応が困難になっている。当然折り込んで設計したが、地形上の制約がある施設建設の場合にさらに慎重な対応・検討が必要であったと思う。（兵庫県・特別養護老人ホーム）

□建築家は老人の生活を無視するな

建築家は外観やネームバリューにこだわってはいけない。老人の生活を無視してはいけない。（兵庫県・特別養護老人ホーム）

□あまりにも職員の側を重視

新築ホームでは、あまりにも職員の側を重視した設備、構造が多くある。そして、高価な造りである。もっと小規模（プレハブの少し高級位）で個人の生活習慣が保てる位で良いように思う。それをたくさん作る。特にエレベーターの暗唱スイッチには反対の気持ちがある。構造はバリアフリーでも、設備的にはフリーになっていない。

（兵庫県・特別養護老人ホーム）

□屋外でのトイレが問題

老人介護・安心MAP同封しましたが、それにも文章として書いておりますが、高齢者が安心して社会生活を営むには、屋外でのトイレの問題です。ADLの低下した高齢者にとって、一番の悩みの種です。私も機会があるごとにこの問題を行政に対して発していますが、いっこうに改善される様子も取り組む姿勢も見られません。貴協会でも、さらに声を大にしていただきたくお願いします。

（兵庫県・特別養護老人ホーム）

□個室を多くしプライバシーを守れ

施設の種類如何にかかわらず個室を多くしプライバシーの守れる生活環境でありたいと思います。また、利用者自身も環境の変化になじめる習慣を身につけなければと思います。

（大阪府・軽費老人ホーム（ケアハウス））

□小規模・個室・地域・多機能

これからの特養や福祉施設は大規模制から7～8人の①小規模化され、雑居から②個室となり、③地域に密着し市街地が立地し、④様々なサービス機能を兼ね備えたものになる（多機能化）。それを意識した設計を建築家には期待したい。

（滋賀県・特別養護老人ホーム等）

□施設整備の問題点

1）私共の施設で居宅サービス、施設サービスの中での浴室を一緒に使用することを考えて（銭湯的な考えで）整備しましたが、別々の浴室をもつことが利用者よりの要求となりました。

2）日用衣服等、洗濯、整理と一連の流れが出来るスペースをとれていなかったことが今、整備する問題です。

3）廊下は広く、明るく採光はとれていますが、部屋の出入口が狭く、ベットの出入が不自由で、広くとればと後悔しています。（ベットを小さくすればよいのかもわかりませんが）

（京都府・特別養護老人ホーム、軽費老人ホーム等）

□小規模＋多機能＋地域密着

（京都府・特別養護老人ホーム、軽費老人ホーム等）

調査ワーキングG　摂南大学工学部建築学科田中研究室
老田智美・池戸英司・今井敦士・松井昭博・浅井靖子・池田秀明・岩出真由子・金森千恵・寺井聡・中島茂・中村嘉孝・伊藤純子

（たなか　なおと／摂南大学工学部建築学科教授）

□床材



タジマ建物別・部位別・機能別提案［高齢者ケア施設の環境と床ソフト］
人と空間を見つめたヒューマナイジングフロア

TAJIMA

これからの高齢者ケア施設の床

居室は

長時間を過ごす生活の拠点です。入居者と介護者のために安全性や清潔感、メンテナンス性などに配慮した床材が必要となります。

連続気泡フォームバックビニル床シート

［ACフロア木目調］ 全色抗菌使用 **ACフロア 28 35 60**

株式会社タジマ
営業本部 〒101-8577 東京都千代田区岩本町3-11-13 TEL.03(5821)7731 FAX.03(3862)5908
東京営業所 〒101-8577 東京都千代田区岩本町3-11-13 TEL.03(5821)7741 FAX.03(3861)3615
大阪営業所 〒550-0003 大阪市西区京町堀1-10-5 TEL.06(6441)5951 FAX.06(6444)2596

□床材

オトユカフロア〈ハード〉HG45C　大建工業㈱　TEL.06-6452-6210　近畿住建特販部

直張 | 10mm厚 | 天然木 | 上履用 | 防音床材 | セラミック塗装 | 直床ボンド

HC対応 | 抗菌 | 耐滑り | 耐キャスター | 車イス対応 | 耐傷性 | Fco

●形状は取り扱いやすい雁行型。ジョイント部が目立たない自然な仕上がり。●耐キャスター性能と高い耐傷性能があるので、キャスターや車イスの使用に対応しています。●フロア表面には適度な弾力性があり、耐クラック性を高めているので、ホットカーペットや温風ヒーターの使用も可能です。●抗菌塗装処理により快適な室内を演出。●マンション1階用床材〈アクセルGS-GMS〉と同一のカラーで揃えることができます。

防音性能	名称	ピュアブラウン	ピュアブラウンライト
L$_L$-45	オトユカフロア〈ハード〉HG45C	YB6945-WP	YB6945-WL

価格／梱	㎡単価	厚さ	梱包重量
¥40,000	¥12,350	10mm	約20kg

■仕様 ●サイズ／300×900mm ●表面／化粧単板乱尺張り 75mm幅4ピースの雁行タイプ、樹種サクラ（板目、柾目混合）・耐クラック・セラミック抗菌塗装仕上げ ●縁加工／四辺本実・面取り加工 ●梱包・入数／ダンボールケース12枚（3.24㎡）入り、施工用際根太同梱



□床材

ビニール床シート／SFフロアウッディ　東リ㈱　TEL.06-6943-1645　西日本営業開発部

特長

○表層に高品質塩化ビニル層、下層に弾力性にすぐれた発泡層を使用

○衝撃吸収性をはじめ、抗菌性、耐摩耗性、保温性など様々な機能を備えています。

仕様

○色数／7色
用途／廊下、居室、食堂
リハビリテーション室

○価格／4400円／㎡
（2.8m/m厚）



□床材

タイルカーペット／GA-9800　東リ㈱　TEL.06-6943-1645　西日本営業開発部

特長

○キャスター走行性、耐久性、抗菌性に優れた病院、高齢者福祉施設での使用に適したタイルカーペット

○SEK制菌加工。特定（医療機関等）基準合格

仕様

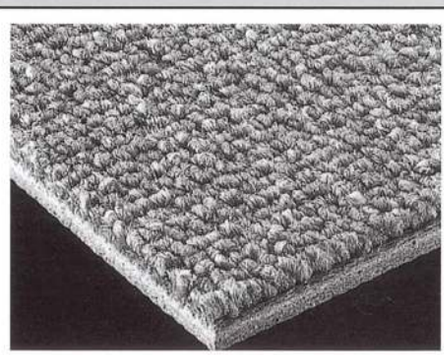
○受注生産品

○色数／12色

○1ケース（約4㎡）／色以上

価格

○9800円／㎡



□建具

アイカシステムブース ポストフォームNEWタイプ

アイカ工業㈱　TEL.06-6447-7620　設計推進部

◆安全の抗菌性能を付加
手に触れる部分（ブースパネル・ロック・召し合わせエッジ）はいずれも抗菌性能があり細菌類に対する増殖抑制効果によりいつまでも清潔さが保たれます。


ブースパネル


ロック


召し合わせエッジ

◆バリアフリーに対応した安心設計。
豊富なデザイン性と機能性を備え、病院・ケアー施設・店舗等に最適です。

◆安心の非常解錠用ロックを採用。
弾性の召し合わせエッジと新開発の非常解錠ロックの組み合わせにより、内開き仕様でも専門工具を必要としない、非常解錠外開き機能が実現しました。

◆美しい仕上がり
ポストフォーム加工により金属ジョイナー・金属エッジさらに化粧板木口の繁雑なラインを省いた目にやさしいシンプルなデザインです。

標準仕様〈パネル〉

表面材	アイカメラクリン（抗菌性メラミン化粧板）t0.8mm　＊注1
コア表面材	ハードボード、MDF
芯材	ペーパーコア
枠材	Type2 耐水合板、＃150 パーティクルボード
パネル厚	37mm
パネル高さ	2400mm以下
パネル巾	76~1150mm

＊1）メラミン化粧板の柄はアイカ化粧板PART1カタログよりお選びいただけます。一部にポストフォーム加工ができない柄がありますので、ご確認ねがいます。



□建具

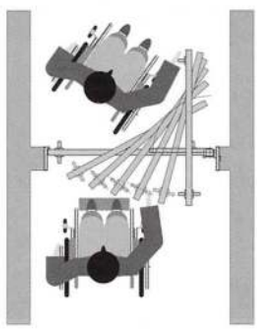
バリアフリー対応ドア／カムフォートドア

小松ウォール　大阪市場開発部／☎(06)6241-8416
URL－http://www.komatsuwall.co.jp/

特長　○車椅子でもほとんど体の向きを変えずにドア操作ができる、独自のドア機構を採用
○開き戸に比べ手前の開きしろは約３分の１
○引き戸に比べ再度の引込みスペースが不要
○床レールのないフラットな床面でスムーズでつまづきの心配がありません。
○軽量、低摩擦設計により軽い操作でドアの開閉が静かにできます。

仕様　○標準モデル（有効開口=900、有効高さ=2000、枠見込み=135）
自閉装置、及び全開ストッパー付き　　¥353,000

※上記設計価格は製品本体のみ（オプション・工事費・経費は含まれておりません）の価格です。
オプション：切窓、ガラリ、キックプレート、フリーストップ機構、抗菌塗装etc





□建具

壁面スッキリ／LGS内蔵カームドア

小松ウォール　大阪市場開発部／☎(06)6241-8416
URL－http://www.komatsuwall.co.jp/

特長 ○ LGS壁に内蔵されたハンガードアですので壁面をスッキリと美しく仕上げることができます。
○ 軽い力で開けることができ、後はゆっくりと安全に自閉するタイプなので車椅子や高齢者の方でも安心して御利用いただけます。
○ 少し開方向に開けると後は静かな自動ドアになるリニアモータ内蔵のカームアシストドアもLGS壁内に組込むことができます。
○ 床レールのないフラットな床面でスムーズでつまづきの心配がありません。

仕様　標準モデル（有効開口＝１２００、有効高さ=2000、自閉機構付）
○　標準ドアタイプ　　¥239,000
○　乙種防火ドアタイプ　　¥299,000
○　アシストドアタイプ　　¥376,000

※上記設計価格は製品本体のみ（オプション・工事費・経費は含まれておりません）の価格です。
オプション：切窓、ガラリ、キックプレート、フリーストップ機構、抗菌塗装etc


LGS内蔵カームアシストドア

□建具

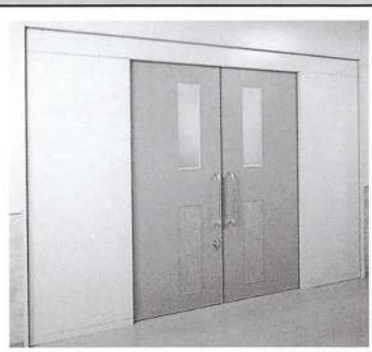
ハンガー引戸　アドナスⅡ

三協アルミニウム工業㈱ ビル建材部　TEL.0766-20-2201

特長○軽くスムーズな開放
開放力8N以下
○静かな開閉
制動装置にエアダンパーを採用し
閉じぎわの音もほとんどありません
○メンテナンスが容易
レール傾斜方式採用のため構造が
シンプルで故障が少ない

仕様○両面戸袋タイプ
○壁収納タイプ
○外付けタイプ
○木質扉タイプ
○2枚引込戸タイプ
○子扉付きタイプ
○リニア（エンジン）タイプ
○電動折戸

http://www. sankyoalumi. co. jp/



□建具

スイングドア　大建工業㈱　TEL.06-6452-6210　近畿住建特販部

軽く押し開き、自動的に閉まるスイングドア。

前後にスムーズに開閉するのでウォークインクローゼットやリビング・ダイニングなど頻繁に出入りするところに最適。両手がふさがっていても簡単に体でドアを押し開けられます。開閉角度は−90°〜90°で、全開するとストッパーが働きドアが固定されます。ドアの下部にはオションでガードプレートを装着可能。車イスでの押し開きに便利です。

仕様

構　造：フラッシュ構造
表　面：オレフィンシート張り
ガラス：熱処理型板ガラス
ドア枠：オレフィンシート張り
ガードプレート(オプション品)：ABS樹脂

わずかな力でらくらく開閉。扉はフィンガータッチで軽く開き、通った後は自動的にゆっくり静かに閉まります。



全開するとストッパーが働きドアがストップします。





□建具

リニアライン® LM-30B　ナブコドア株式会社　TEL 06-6532-5841　URL http://www.nabco-door.co.jp/

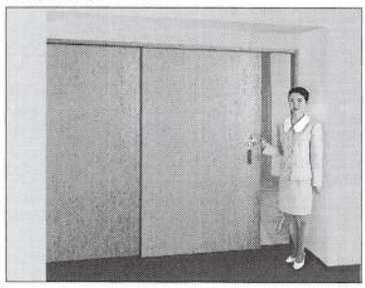
リニアモータで開閉、高い静音性を実現した住宅用屋内自動ドア

リニアモータを搭載したリニアラインは、玄関ホールからリビングルームへの間仕切りに、深夜に開閉の多いリビングから寝室、ウオークインクローゼットのドアに、お年寄りが安心して暮らせるバリアフリー住宅に、音も気にならず、静かな環境を大切にします。

■仕　様

ドアエンジン：リニアモータ使用
ドアの種類：木製建具・金属建具(対応可能)
ドアの幅：800mm〜1000mm(高さ2000mmの場合)
ドアの質量：片引き15kg〜30kg(引分けは2モータ使用です。)

ドアを少し開ければパワーアシスト機能で軽く開閉できます。また停電時には、手動ドアと同じように軽く手で開閉できます。





□建具

ニューサイレント引戸Ⅲ型　日本スピンドル製造㈱ 建材事業部　TEL. 0726-26-2741　FAX. 0726-26-2744

心にやさしい木肌のぬくもり
いま注目の木製・かべ収納タイプ・引戸(フリーストッパー付)

◎2連引込戸を新発売
◎驚異の初期開放力6N以下
◎煙感連動自動閉鎖システム
◎甲種、乙種防火仕様も可能
◎木製・木調タイプ仕様も登場
◎床にレールがないから衛生的



□システムキッチン

NAISキッチンオーメイド　車椅子対応プラン　松下電工㈱　TEL.06-6908-1131(大代表)

特長

○車椅子のまま作業しやすいオープンスペース。
○底に手が届く、浅型シンク
○切る作業も楽にできるスライドテーブル

仕様

○組み合わせ自由な、フリープラン。
〈プラン例〉
Ⅰ型幅2440mm
1,087,500円〜



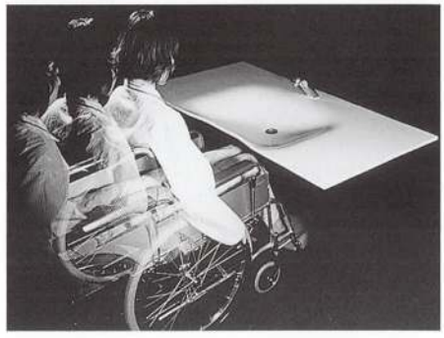
□洗面カウンター

人工大理石洗面カウンター　㈱エービーシー商会　TEL.06-6944-4913 FAX.06-6944-9665　コーリアン事業部

特長 ○ 足元すっきり車椅子対応型
○ 無孔質で均一なムク材ですので汚れが染み込みません。
○ 陶器ボウルに比べ割れ、ひびの発生がなく大変強く安心です。
○ ボウルとの取り合いはシーリング不要カビ・汚れの心配が有りません。

仕様 ○ 標準色　18色
○ 浅絞り（D123）中絞り（D142）深絞り（D158）の深さ3タイプで6アイテム

□ 価格
浅絞り　W900－W1500
¥80,000～¥135,000
中絞り　W900－W1500
¥93,000～¥148,000
深絞り　W900－W1500
¥93,000～130,000
（カメオホワイトのみ）



□洗面ドレッシング

エイジフリーシリーズ 新カウンタータイプ　松下電工㈱ アクアシステム事業部　TEL.06-6908-1131（大代表）

特長
○ドライバー1本で扉のつけ外しが可能な「オープン・収納両用プラン」を品揃え。いざと言う時には、扉を外せば車イスでも使える足元オープン仕様に変更できます。
○座っても使いやすい洗面ボール形状。ひじまでスッポリ入り、また洗面ボールの両端にひじを置いたまま楽に使えます。
○近づくと自動で点灯する照明センサー付ミラーもご用意。

仕様
○プラン：オープン・収納両用、オープン専用
○本体幅：750、900、1200mm
○混合水栓：サーモ付シャワー、シングルレバーシャワー
¥181,000円～
（オープン専用プラン、幅750mm、シングレバーシャワー混合水栓、照明センサーなし）



□バスルーム

日立システムバスルーム　日立化成工業㈱ 住機環境 関西支店　TEL.06-4807-1804

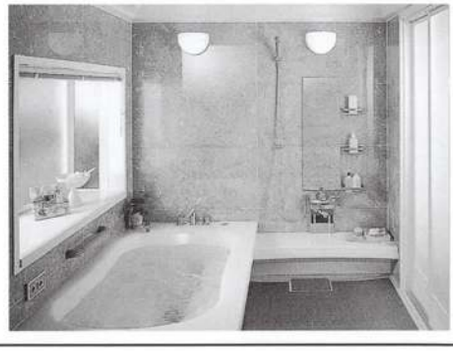
2000年スパジア、華麗に新登場。より使いやすく、やさしさが進化。

吐水パイプが欲しい位置に届く画期的なスイングアーム方式などアイデアいっぱいの洗場水栓をはじめ、「入る」「つかる」「洗う」「出る」まで家族みんなにやさしく、使いやすい浴室をとことん追及したスパジア2000。うれしいニュース満載のバスルームです。

壁フィット型 サーモシャワー水栓：ピタッチ

業界初 スイングアーム方式
ピタッと湯温調節―フロントダイヤル
ピタッと確実操作―ビッグハンドル
ピタッと壁にフィット―お掃除も簡単
さらに、シャワーホースがじゃまになりにくい工夫など使いよさにこだわった一歩進んだ水栓「ピタッチ」です。

業界初 ノングレーチング
浴室と脱衣室との段差をなくしたバリアフリー設計。しかも、ヌメリ、汚れでお掃除がタイヘンだった床面のグレーチングをなくしました。お掃除簡単、洗場広びろです。



□入浴・トイレ・洗面

バリアフリー水まわりユニット アクアハート　松下電工㈱ ナイス・エイジフリー事業推進部　TEL.06-6908-1131（大代表）

特長
「車いすのままで浴室・トイレ・洗面が使用できます」
○車いすが回転できる広い洗い場で様々な介助ができます。
○2坪のスペースで浴室・トイレ・洗面が使用できます。
○身体の状態に応じたプランを選べます。

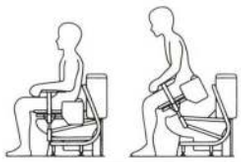
仕様
ユニット内寸　1600×3400ミリ：¥2,800,000



□昇降機能付き便座

1日24時間、いつでもおしりをささえてくれる。
便座が動いて、座ったり立ったりをやさしくサポートします。

TOTO
簡易昇降便座



EWC120　本体価格78,000円（税別）
※便座用接続品が必要です。
※ウォシュレット、便器等は含みません。



新しい視点で、障害・高齢者の快適を考える、レブリス商品群　REVLIS

※お問い合わせは、TOTOレブリス事業推進センターまで 。☎ 0120-20-1790
（10:00～17:00 土・日・祝日を除く） インターネットホームページ http://www.revlisnet.com

きれいに生きる。人も、地球もTOTO クリーンタウン計画 進行中

□昇降機能付き便座

エイジフリーシリーズ 昇降便座Eタイプ

松下電工㈱ アクアシステム事業部　TEL.06-6908-1131（大代表）

特長

○便座が電動で上下に昇降。腰掛けや立ち上がりの動作を補助し、足腰への負担を和らげます。
○暖かみのある木質のひじ置き付き。
○ほとんどの便器に後付け可能です。
○専用の温水暖房便座とセットで、おしりをやさしく洗浄。暖房便座機能も付いています。

仕様

○昇降ユニット＋専用温水洗浄便座
￥153,200～
○昇降ユニットのみ
￥91,000円
（いずれも便器、ロータンクは含みません）



□トイレ

押入改装トイレプラン

松下電工㈱ ナイス・エイジフリー事業推進部　TEL.06-6908-1131（大代表）

特長

「押入をトイレに改装。寝室の横に設置できるため夜も安心できます。」
○寝室からのアプローチが容易にできます。（暗い廊下を歩かずにすむ）
○3枚連動引戸で左右どちらからでも入ることができ、介助もスムーズにできます。
○出入り口段差3ミリで車いすでもラクに出入りできます。

仕様

プランセット標準価格　392,010円
（3枚連動引戸・床材・便器・便座・握りレバー・手洗器・ペーパーホルダー・照明・換気扇含む）
＊3枚連動引戸のみ：186,000円



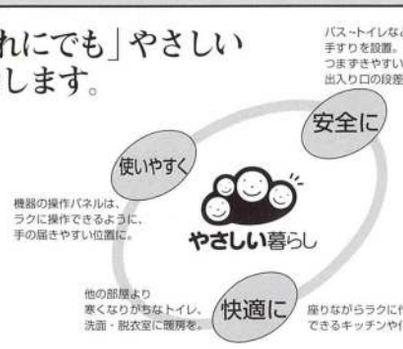
□トイレ

住宅用システムトイレ

㈱INAXお客様相談センター　☎［設備］0562-31-0793 ［住器］0562-31-0792

INAXは「いつまでも」そして「だれにでも」やさしい理想のわが家づくりの実現を目指します。

より多くの人が共有できる商品や空間づくりを積極的に進め、生活に欠かせない水まわりのやさしさを高めます。住み慣れたわが家で、いつまでも安心して快適に暮らすための提案や、だれもが使いやすいパブリックトイレを提案します。





□手すり

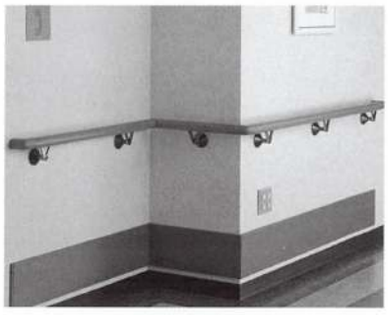
木質調手摺・車摺／(WD)シリーズ　株式会社アトラス　TEL06-6765-2360　http://www.atlas-net.co.jp/

特長

- ○木粉配合により耐久性向上
- ○表面は美しい木目調
- ○デザインはシンプルで流麗
- ○手触りは天然木同様に滑らか
- ○木質特有の温もりがある
- ○抗菌剤配合により衛生的

仕様

- ○WD−45・40(S)・38(S)・34(S)
- ○WD−150N・20N・15N
- ○取付けブラケット各種あり
- ○カラー／4色（木目調）
- ナチュラルウッド・ライトウッド
- ロイヤルウッド・スモーキーウッド



□手すり

パルライン ハンドレール　ケージーパルテック㈱　TEL.0729-23-1311　FAX.0729-94-5008

◆丸型ハンドレールは機能だけでなく建物内のインテリア効果も追及。木粉入樹脂の採用により重厚感のある木目調の仕上りです。又耐候性グラフレックス（屋外用）仕様もあり、抗菌剤入りで院内感染も防げます。豊富なバリエーションでシンプルなデザイン。
BL認定品です。

◆営業品目
パルステップ・パルフラットレール
ハンドレール（丸型・平型）・ジャンティガード
ジャンティサポート・内外装仕上金物

	品番	材質	W	仕上	備考
仕様	GSK1	アルミ・特殊樹脂	40	抗菌剤入	BL認定品
	GSK1-G	アルミ・耐候性樹脂	40	抗菌剤入	BL認定品
	GSK3-M	アルミ・木粉入特殊樹脂	34	抗菌剤入	BL認定品



□補助手すり

愛の手オーバル　ナカ工業㈱　TEL.06-6886-8966　http://www.naka-kogyo.co.jp

新発想・新感覚補助手すり。
人間工学をもとに、最適周長から選定された40mm×32mmの楕円笠木。握りやすく手にフィットし、ひじをあてての体重移動もスムーズに可能。樹脂とステンレスとの組み合わせによる美しく機能的なデザイン。支柱部分はステンレス研磨仕上。優れたメンテナンス性。手元の操作でスムーズに回転する縦可動、横可動タイプをラインアップ。設置場所に応じてセレクト可能な、壁・壁、壁・床、床・床支持タイプ。

製品	価格	製品	価格
C−3	41,000	R−3	59,000
C−2	38,000	R−2	56,000
C−1	19,000	R−1	28,000
CC−1	43,000	C1−50	11,000
CS 横可動 C=850	79,000	C1−60	11,500
CU 縦可動 C=850	89,000	C1−80	12,500
P−3	49,000	C1−100	13,500
P−2	46,000	CL−7070L（R）	29,000
P−1	23,000	W−1	21,000
PP−2	53,000	※価格はプレーン色・メタリック色・木目調色共通です。	
PP−1	47,000		



□みぞ蓋

フリーハードルJ　ミヅシマ工業株式会社　TEL.06-6534-1203　本部営業

特長
- ●人と環境へのやさしさを追求した樹脂素材（脱塩ビ素材）。取り付け・取り外しが簡単、変形S字型にも適応した機能性。
- ●ゴム弾性を持つジョイント駒を採用。1本ずつ外せるから、掃除や修理も手軽にラクラク。
- ●直線、曲線、敷設自在。各種寸法（6mm・4mm・0mm）のジョイント駒で曲線が容易。

仕様●材質：本　体：ABS樹脂
連結部：エラストマー

- ○150X505mm　¥3,800
- ○180X505mm　¥4,500
- ○200X505mm　¥5,000
- ○250X505mm　¥6,300
- ○300X505mm　¥7,500



□デッキ・ファニチャー

屋外・屋内用ウッドデッキ、ファニチャー　近畿中村㈱　TEL.06-6378-2290　http://www.nakamura-mfg.com

人にやさしいベンチ

特長

お弁当をひろげるなど小さなテーブルがさまざまなコミニュケーションのスペースになります。車椅子の方にも利用しやすいスタイルです。

○MB-12BAT
¥146,000
幅1706×
奥行546mm
×高736mm



システムデザインデッキB型

特長

○素材は人にやさしい天然木の高耐久性ハードウッドのセランガンバツを使用。
○バルコニー、屋上などへは敷くだけの簡単設置のパネル式。
○デッキ表面に釘やビスを出さない安全設計。

仕様

○デッキ1枚（1㎡）¥24,200



□折たたみ椅子

玄関折たたみ椅子　マツ六㈱　TEL.06-6774-0605　http://www.mazroc.co.jp/

特長

○マンションや戸建住宅の狭い玄関にスペースを生かす最適な椅子
○使用時の荷重は椅子で受けるため壁の負担がすくない
○スプリング式により、高齢者から子供まで軽く楽に収納できます

仕様

○玄関折たたみ椅子
ラバーウッド集成材
¥68,000

※高齢者住宅リフォーム部材カタログ200ページを発行しました





ハンドレール丸型 木目調



特長

■機能だけでなく建物内のインテリア効果も追求しました。
■病院・オフィス・大型小売店・駅・学校一般ビルなど、巾広い用途にお使いください。
■抗菌剤入りで病院内感染も防げます。
■豊富な部材バリエーションでシンプルなデザインです。
■カラーはライト・ミディアム・グレイオークの3色揃っています。
■サイズは外径34㎜・40㎜があります。

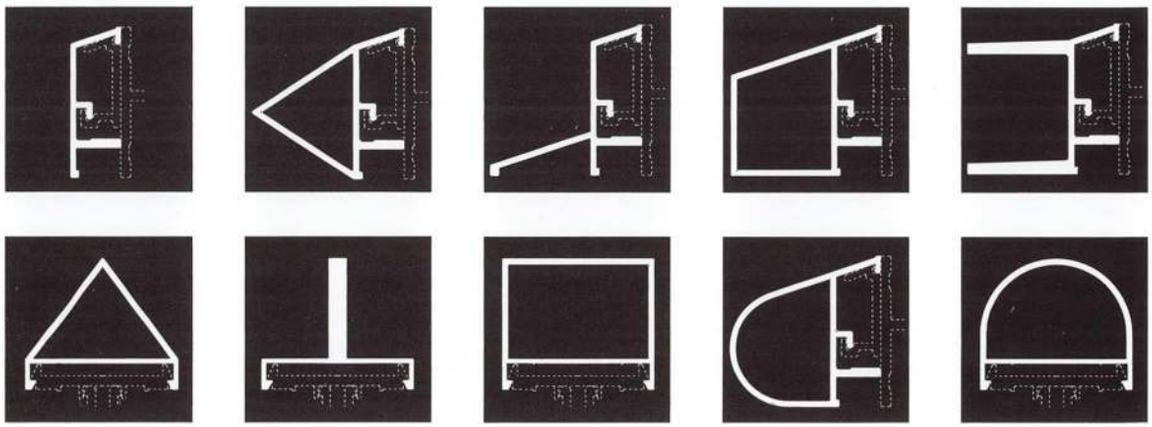
PALTEC
ケージーパルテック株式会社

本　　社 〒581-0041　大阪府八尾市北木の本1丁目51番地　TEL(0729)23-1311(代)　FAX(0729)94-5008
東京営業所 〒130-0011　東京都墨田区石原3丁目16-1-102号　TEL(03) 3621-0331(代)　FAX(03)3622-5008
福岡営業所 〒811-2301　福岡県粕屋郡粕屋町上大隈203番16　TEL(092)939-2881(代)　FAX(092)939-2468

156種類ものバリエーション

EXカーテンウォールII

見付幅45mmと60mm、化粧カバーは方立用6種類、無目用7種類。EXカーテンウォールIIなら、自由な組み合わせで多彩な意匠への対応が可能です。



あらゆる意匠表現に対応したい、そんな意図から開発されたのがEXカーテンウォールIIです。方立、無目ともに見付幅45mmと60mmを用意。さらに方立用6種類、無目用7種類の化粧カバーを組み合わせることで、なんと156種類もの幅広い意匠表現を可能にしました。もちろん耐震性能は見付け45mmでも層間変位1／100に対応、またスリム60PGに出幅200mmのフィンを付ければ空調負荷を低減して省エネが図れるなど機能面も十分に考慮ずみです。トステムの開発体制を駆使して従来のオーダーメイドに比べコストを抑え、工期短縮も可能になりました。

TOSTEM トステム株式会社 ビル建材本部

環境問題を考慮した世界初のケナフ壁紙「ケナフウォール」が、暮らしをいっそう快適に包み込みます。



人にやさしい

- RAL（ドイツ商品安全・表示協会）基準適合商品。
- 低ホルムアルデヒド。
- 化学材料は不使用（水性インクを使用）。

地球にやさしい

- 非木材紙（ケナフ原料）を使用。
- 水質汚染を避ける製法採用。
- 水性インクを使用。
- 焼却時に塩素水素ガス不発生。

非木材紙普及協会

［非木材紙普及協会認定第1号］

東リ ケナフウォール

※東リ ケナフウォールは商標登録出願中・特許申請中です。

おかげさまで80周年 TOLI

東リ株式会社

【URL】http://www.toli.co.jp

■西日本営業開発部　〒540-0008 大阪市中央区大手前1-7-13 OMMビル　TEL.06（6943）1645

■大阪ショールーム　〒540-0008 大阪市中央区大手前1-7-13 OMMビル　TEL.06（6943）1649

MIZUNO
THE WORLD OF SPORTS

安全と安心を約束する防護マット

ミズノの防護マットは、野球場・屋内体育館等スポーツ施設、及び幼稚園・養護学校・レジャー施設等の壁面に施工し、人体が壁面に衝突した場合の衝撃を吸収し、人体を保護するとともに壁面を美しく仕上げます。また、新設・既設を問わず簡単に施工できます。

●お問い合わせは

ミズノ株式会社 スポーツ施設サービス部
建設大臣許可（特7·般7）第4394号
美津濃1級建築士事務所（リ）第2690号

大阪本社　〒541-8538　大阪市中央区北浜4-1-23　TEL. 06-6223-7368　FAX. 06-6223-7369
東京本社　〒101-8477　千代田区神田小川町3-22　TEL. 03-3233-7235　FAX. 03-3295-4286

低価格で、より高い汎用性へ――フリーハードルJ

グレーチング進化論。



人と環境へのやさしさを追求した樹脂素材。
取り付け·取り外しが簡単、変形S字型にも適応した機能性。



●環境を考えた脱塩ビ素材を使用。
●ゴム弾性を持つジョイント駒を採用。1本ずつ外せるから、掃除や修理も手軽にラクラク。
●直線、曲線敷設自在。各種寸法（6mm·4mm·0mm）のジョイント駒で曲線が容易。
●材　質：本体：ABS樹脂　連結部：エラストマー

キレイな環境づくりのパイオニア
ミヅシマ工業株式会社

本　部/〒550-0014 大阪市西区北堀江1丁目6番7号　☎06(6534)1201㈹
京都工場 / 本部物流センター / 関東物流センター
営業所/札　幌011(784)4601·仙　台022(236)7148·宇都宮0289(76)1872
東　京03(3870)4715·名古屋052(911)4306·京　都075(312)6051
大　阪06(6531)7571·広　島082(273)3881·福　岡092(271)2331



ビルには独自の個性が有り、都市景観の一部として街を美しく演出する役割もになっています。不二サッシは、外壁材カーテンウォールを通して、この都市を彩る役目のお手伝いをさせていただいています。私たちの技術が新しい建築文化を創造していきます。

窓から夢をひろげていきます
不二サッシ

大阪支店 〒541-0047 大阪市中央区淡路町3-5-13
電話 06(4706)4101

文化シヤッター
夢を動かす技術がある。

先進の機構で省エネ性能向上
諸経費低減を実現!

NEW MODEL



高気密設計・高速自動開閉で、空調効果を維持。安全性を追求した設計で、働く環境をベストに保ちます。本体にパイプを使用していないため安全性が高く、また車両が衝突してシートがレールからはずれても自動に復帰するセルフリペアリング方式のため、修理等の経費削減ができます。

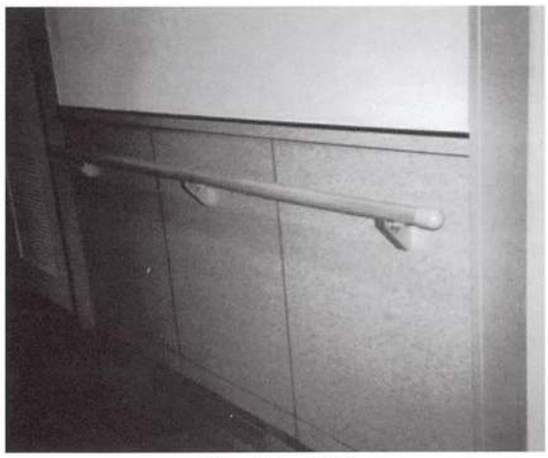
大きな開口も迅速に!
開口部の守護神
〈ダイマジン〉

高速シートシャッター
エア・キーパー 大間迅

文化シヤッター株式会社
URL http://www.bunka-s.co.jp/
本　　社 〒174-8733 東京都板橋区志村3-26-4 TEL 03-3968-6666
関西営業推進部 〒541-0057 大阪市中央区北久宝寺町4-3-11エーユー本町ビル
TEL 06-6282-0945

無公害性・メンテナンスフリー建材
《フェノール樹脂板》

TRESPA
All the best qualities in one panel



施工例—腰壁

トレスパの特長

- ●非アスベスト建材
- ●優れた耐衝撃性
- ●耐水・耐湿性
- ●耐薬品性・耐熱性・耐摩耗性
- ●耐候性良くUVにより変褪色しない
- ●静電気非帯電性
- ●メンテナンスフリー
- ●燃焼時のガス非有害性試験に合格
- ●難燃性
  （難燃タイプにつき建設省認定番号 3283）
- ●防火構造第1053号
- ●ISO9001認定取得
- ●米国のFDA（食品医薬品管理局）認可



施工例—トイレブース

製造・輸入元

トレスパ・ジャパン株式会社

本　社　〒105-0001　東京都港区虎ノ門1-4-2 虎ノ門東洋ビル6F
TEL（03）3500-5080・5081　FAX（03）3504-0034
関西支社　〒530-0002　大阪市北区曽根崎新地2-5-3 堂島TSSビル2F
TEL（06）4799-7061　FAX（06）4799-7062

販売（設計・施工）

株式会社モリブチ

本　社　〒566-0045　大阪府摂津市南別府町15番20号
TEL（06）6340-0883　FAX（06）6340-0752

MITSUBISHI/HITACHI
MITSUBISHI HITACHI HOME ELEVATOR

三菱日立ホームエレベーター
〈スイーとホーム ファミリー〉に、
20m/minモデルがラインナップ。
従来比1.7倍もの速さで、毎日スイスイ昇降できます。

もちろん他にもさまざまなうれしさを満載しています。

豊富なバリエーション
エントランス扉からルーム内まで、豊富なデザイン＆カラーをご用意。住まいの個性に合わせてどうぞ。

省スペース設計
場所をとらない分、お部屋を広めにしたり、空間の有効活用が可能。建築面積の狭い住宅にも最適です。

優れた安全性
停電時自動着床装置をはじめ、連絡用電話機や非常ブザーなども標準装備。安心感をより高めています。

三菱日立ホームエレベーター
スイ〜とホーム

快速 20m/min モデルも新登場



生活快速。

菱電エレベータ施設株式会社
大阪支店　〒540-0012　大阪市中央区谷町2-9-3
（近鉄大手前ビル）
TEL.（06）6944-1071（代）　FAX.（06）6944-1070

建物の汚れ
トラブル事例と解決策

「建物の汚れ」編集委員会・編著
〈建築技術選書・特装版〉

企画・(社)日本建築協会

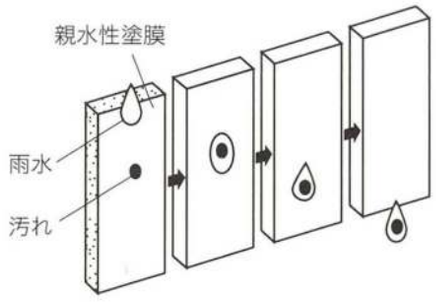
ISBN4-7615-3086-3
B5判・二色刷・168頁
定価　本体3500円＋税

学芸出版社

京都市下京区
木津屋橋通
西洞院東入
〒600-8216

tel 075-343-0811
fax 075-343-0810

建物を美しく保つにはそれなりの**コツ**がある



本書59頁より

汚れにくい設計、効果的なメンテナンスのために
トラブルにつながる要因を事例別に整理——
ゼネコン技術者による再発防止策のノウハウを伝授する

デンカCSAファミリー製品

- **デンカCSA**（膨張性混和材）　コンクリートのひびわれ防止に
- **デンカタスコン**（グラウト用無収縮材）　鉄骨ベース、逆打部の充塡モルタルに
- **デンカキューテックス**（止水・補修用急硬セメント）　コンクリート軀体の漏水補修に
- **デンカES**（土質安定用急硬材）　地盤補強用薬注入
- **デンカΣ1000**（製品用超高度混和材）　コンクリートパイルの早期出荷とハイモメント製造用に

電気化学工業株式会社
近畿地区販売店

浜宗産業株式会社
TEL 本社・京都・網野（07727）2−2220
舞鶴（0773）76−0133

金森藤平商事株式会社
TEL 大阪（06）6332−6861
TEL 東京（03）3272−8501

小浦産業株式会社
TEL 大阪（06）6443−6181

光洋物産株式会社
TEL 大阪（06）6252−6000

東郷化成株式会社
TEL 滋賀・守山（0775）83−2381
TEL 大阪（06）6877−1581

空調・衛生・クリーンルーム設備
（設計・施工）

朝日工業社

本社・本店　東京都港区浜松町1-25-7　電話03(3432)5711
大阪支社　大阪市淀川区加島1-58-59　電話06(6302)2270
支　　店　北海道/東北/北関東/横浜/名古屋/中国/九州

商品は空気です。

熱と空気のエンジニア
株式会社
大気社

●営業種目
空気調和設備　給排水衛生設備　塗装設備　公害防止関連設備の設計・製作・施工

本社・東京本店　東京都新宿区西新宿2-6-1　☎03—3344—1851(大代)　大阪本社☎06—6448—3603(代)
大阪支社　☎06—6448—5851(代)　名古屋支店　☎052—211—1535(代)　中国支店　☎082—247—5541
九州支店　☎092—431—2147(代)　営業所：北関東・横浜・神戸・京都・岡山・四国

電気・空調・衛生・防災・産業廃水設備
設　計　施　工

ダイダン株式会社

本店・大阪本社　〒550-0002 大阪市西区江戸堀1丁目9番25号　電話(06)6441-8231
東京本社　〒102-0071 東京都千代田区富士見2丁目15番10号　電話(03)3261-8231
支　　社　名古屋・福岡
支　　店　札幌・仙台・新潟・大宮・千葉・横浜・金沢・京都・神戸・天理・岡山・広島・高松・熊本
営業所　帯広・函館・青森・秋田・盛岡・前橋・長野・静岡・豊田・津・富山・福井・徳山・松山・高知・北九州・鹿児島・那覇
出張所　旭川・福島・川崎・松江・徳島・下関・長崎・大分・宮崎
海外支店　シンガポール・ホンコン
技術研究所　〒354-0044 埼玉県入間郡三芳町大字北永井390番地　電話(0492)58-1511

より快適な水環境をめざして
給排水衛生設備，冷暖房設備，消火設備の設計，施工

株式会社 西原衛生工業所 大阪本店

大阪本店　〒531-0071 大阪市北区中津六丁目8番4号
TEL 06-6458-3628（代表）
本　　社　〒108-0023 東京都港区芝浦三丁目6番18号
TEL 03-3452-7441（代）
支　　店　札幌・東北・新潟・東関東・横浜・名古屋・九州

空気調和設備　産業設備
給排水設備　水処理施設
電気設備　環境施設

三機工業株式会社

取締役社長　大島　剛
取締役関西支店長　本木　満

関西支店　大阪市中央区北浜2—2—21　電話 06(6202)7554
本　　社　東京都千代田区有楽町1—4—1　電話 03(3502)6103
支　　店　北海道・東北・関東・千葉・横浜・北陸・名古屋・京都・神戸・四国・中国・九州

OKUJU
スペース クリエイター

建築に革命をもたらした技術がある
「大規模天井無足場工法」

内外装創作パネル・システム天井・間仕切
株式会社 オクジュー

本　社
大阪市北区西天満5丁目3番7号　〒530—0047
TEL(06)6312—4131　FAX(06)6312-7998
東京・九州・横浜・名古屋・南九州・京都

空気調和設備
衛生設備 設計施工

三建設備工業株式會社

大阪支店　大阪市北区紅梅町3番5号　電話(6352)1131(代)
本　　社　東京都中央区日本橋蠣殻町2—22　電話(3667)3431(大代)
支　　社　名古屋・仙台・札幌・広島・福岡・金沢・新潟・横浜

Digital Pri-Press
AOBA PRINTING CO.,LTD.,

代表取締役社長 依藤孝行

青葉印刷株式会社

〒534-0027 大阪市都島区中野町2丁目10番11号
Phone.06-6351-5428 Fax.06-6351-5299

空気調和・衛生設備・設計施工

株式会社 三晃空調

本　　社　大阪市北区西天満3丁目13番20号　電話06-6363-1671
東京本店　東京都新宿区西新宿　新宿住友ビル　電話03-3344-7911
大阪本店　大阪市北区西天満3丁目13番20号　電話06-6363-1371
支　　店　仙台・横浜・名古屋・京都・神戸・広島・福岡

空調衛生・冷凍冷蔵・地盤凍結
よりよき環境へ技術で挑む

株式会社 精研

本　　社　大阪市中央区瓦屋町2丁目11番16号（オートセンタービル1・2階）
〒542-0066 電話 大阪（06）6768—5031代表
メンテナンス　電話　大阪（06）6768—1651代表
東京支社　東京都文京区小石川1丁目12番14号（日本生命小石川ビル7階）
〒112-0002　電話（03）5689—2351代表

夢×技=∞ 無限大
何時もあなたの街で
お会いしている
クリハラの技術



電気・計装・空調・土木
栗原工業株式会社
本社/〒530-0017大阪市北区角田町1-1(東阪急ビル)
TEL06(6313)1101
創業1919

CHOYO
人がいる多彩なフィールドで、
新しい限界に挑戦しています。
電気設備設計施工
朝陽電気株式会社
代表取締役 山本貴士
本 社 〒530-0005 大阪市北区中之島三丁目2-4(朝日ビル)
TEL 06(6385)1361(代) FAX 06(6385)1050

電気設備設計施工
株式会社 三興社
代表取締役社長 上田正雄
本 社 大阪市中央区北浜3−6−13（日土地淀屋橋ビル）
電 話 06（6205）3671（代）
支 店 東京都中央区日本橋茅場町2丁目17番3号
電 話 03（3666）1478（代）
営業所 堺・泉州・泉南・滋賀

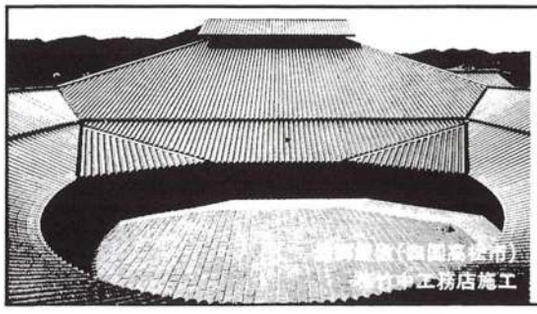
電気設備工事設計施工
東光電気工事株式会社
関西支社
取締役支社長 伊藤義信
大阪市中央区高麗橋4丁目3番7号 電話大阪(6202)0325〜9番
本 社 東京都千代田区西神田1丁目4番5号
支 社 北海道・東北・丸ノ内・新宿・神奈川・東関東・北関東・中部・九州

人と都市の快適な環境をつくります
営業種目 設計・施工・監理
● 電気設備
受変電・幹線
動力・制御装置
電話、放送、インターホン
防犯、防災
中央監視制御
システム計装
● 空調・給排水・衛生設備
空気調和
工場配管
水処理
コージェネレーション
クリーンルーム
● プラント
プラント計装
システムエンジニアリング
● 情報通信設備
情報通信ネットワーク
情報処理
通信システム
放送システム
● 電力流通設備
受変電
架空送配電
地中送配電
住友電設株式会社
大阪本社 〒550-0011 大阪市西区阿波座2-1-4 ☎(06)6537-3400
東京本社 〒105-0014 東京都港区芝2-2-17 ☎(03)3454-7311

学校建築のトータルアドバイザー
二葉工業株式会社
黒板・掲示板・家具
電動黒板装置・サイン・スクリーン
〒547-0001 大阪市平野区加美北3—4—5
TEL06(6792)5858 FAX06(6792)2810

＊奉仕感謝の店
タイル及び規格石一式施工
株式会社 川岸窯業商店
本 社 大阪市西区西本町1の13の33
TEL.06—6532—0641(代表)
FAX.06—6535—5181
天理営業所 天理市丹波市新町49

●情報処理●企画・制作●編集●画像処理●印刷・製本
人と技術をクリエイティヴで結びます
日本データネット株式会社
本 社 〒530-0043 大阪市北区天満1-1-10 TEL.06-6352-7502 FAX.06-6355-2714
制作部 〒530-0043 大阪市北区天満1-9-19 TEL.06-6352-0943 FAX.06-6355-5533
印刷工場 〒530-0043 大阪市北区天満2-5-15 TEL./FAX.06-6352-1551



〒556-0024
大阪市浪速区塩草一丁目二番三号
ナニワ瓦株式会社
あらゆる屋根工事の相談は、
ファックス 六五六一〜七四五四
☎ 六五六一〜七四一六

Construction chemistry for the future.
コンクリート用混和剤／コンクリート用補修材
高性能無収縮材／コンクリート用高性能床材
Master Builders Technologies
株式会社 エヌエムビー
株式会社 ポゾリス物産
本 社：東京都港区六本木3−16−26
大阪支店：大阪市中央区北浜3-2-23(信愛ビル)
TEL06-6202-3294

日本建築協会企画・販売

出版図書一覧

1917年3月に創設された日本建築協会（当時・関西建築協会）は、すでに昭和初期には大阪近辺で住宅博覧会や建築講演会を開く一方、当時は入手しにくかった建築の情報を図書の出版という形で会員に提供していた。

＊

以後、創立周年記念事業として、その時代の動きをとらえて単行本を出版している。

50周年、60周年、70周年、そして80周年に、図書の出版が企画され、現在も継続して発行・販売されている出版物は、以下のとおり。

＊

購入希望者は、㈱日本建築協会事務局（TEL06－6348－0635、FAX06－6348－0634）まで。

日本建築協会創立60周年記念事業

建築技術選書

A５判・130頁～160頁　発行:学芸出版社　本体価格¥1,200～¥1,400

- 1 茶室の話　岡田孝男
- 3 マイコンによる構造設計のすすめ（改訂版）　魚木晴夫
- 5 すまいの語録　茶谷正洋
- 7 構造計画とやさしい力学 1　須賀好富
- 8 建具の知識と意匠　山片三郎
- 9 エレベータ・エスカレータ 立体駐車場　木村利雄
- 10 構造計画とやさしい力学 2　須賀好富
- 13 医院・診療所の計画と設計　池田有隣・船越曠由
- 14 設計のコンピューター手法　飯塚英雄
- 16 石垣と石積壁　窪田祐
- 17 基礎と地盤の手ほどき　中堀和英
- 18 ショッピングセンターの計画　西脇顕正
- 19 住宅設計とインテリア　福岡喜久雄
- 21 住宅の家具　光藤俊夫
- 23 設備技術者のための建築再入門　光安義光
- 24 鉄骨構造の話　金多潔・甲津功夫・西沢英和
- 26 建物と地震災害　竹内吉弘・島田耕一
- 28 建築金物の知識　立野一郎
- 30 住宅三備心得帳　平田純一
- 31 住宅のエレクトロニクス　監修　小林郁
- 32 建築塗装の手引き　児島修二
- 33 建築式典の実際　若林嘉津雄
- 34 建築設計と高齢者・身障者　吉田あこ
- 36 日本壁　山田幸一
- 37 身近な耐震設計法　前川陽一
- 38 住宅の照明　監修　大島博
- 39 建築を志す人びとへ　日本建築協会出版委員会
- 特装本 火災安全学入門　岡田光正

選書シリーズは、在庫図書を掲載

日本建築協会創立60周年記念事業「建築技術選書」姉妹篇

〈プロのノウハウ〉シリーズ

四六判２色刷り　発行:学芸出版社　本体価格¥1,600～¥2,500

- TQCから見た建設業　荒木陸彦
- 躯体工事監理のチェックポイント100　須賀好富
- 空調設備のトラブル50　建築設備トラブル研究会
- 衛生設備のトラブル50　建築設備トラブル研究会
- 現場マンのアイデア発想　合原一夫
- 建築基準法の実際　矢吹茂郎
- ニュー組積建築のすすめ　福島孝之　他
- 建築物の消防法を読みこなすコツ　高木任之
- 鉄筋工事・本音の現場学　荒川治徳
- 建築基準法の難解条文を読みこなすコツ　高木任之
- 工業化住宅・考 これからのプレハブ住宅　松村秀一
- 鉄骨工事の現場学　石田満裔
- 建築紛争の実際　岡本辰義
- 仕上工事監理のチェックポイント　日建設計監理業務研究会
- ゼロ災への道 建設現場の安全管理活動　表　一郎
- 木造住宅のしくみ 在来工法の基本と応用　浅野平八・東　敏博
- コンクリート工事のチェックポイント100　加賀秀治
- インテリアコーディネートの100ポイント　町田ひろ子監修／松本　茂・村元俊子著
- 新版 建築基準法を読みこなすコツ　高木任之
- 木づくりの常識非常識　上村　武
- 建築関連法規を読みこなすコツ　高木任之
- 都市計画法読みこなすコツ　高木任之

日本建築協会創立70周年記念事業

選書特装版

B５判　発行:学芸出版社　本体価格¥2,800～¥3,800

- 構造コストと経済設計　須賀好富
- 新・建築と設備の接点　宮脇　毅・南部　武
- 建築設備の健康診断　牧野　茂
- 外壁構法チェックリスト　飯塚五郎蔵
- 水にまつわるトラブルの事例・解決策〈建築篇〉　「建築漏水」編集委員会
- 建築・都市・住宅・土木ー情報アクセスブック　菊岡倶也
- 建築デザインのための構造計画　須賀好富
- 場所打ち杭の設計と施工　阪口　理
- 建築と緑　瀧　光夫
- 入門・建築積算　生島道春
- 水にまつわるトラブルの事例・解決策〈設備篇〉　「設備漏水」編集委員会

昭和生まれ　関西の建築家50　1987年

A４判　企画・発行：日本建築協会　本体価格1,500円

日本建築協会建築クラブ朝食会300回記念

講演記録集 **話のはなし**　1997年

B６判５分冊　企画:日本建築協会建築クラブ　１セット10,000円（消費税含む）

民間（旧四会）連合協定

工事請負契約約款　A４判のみ取り扱い

工事請負契約書・仲裁合意書・契約書使用上の留意事項

１部¥230（消費税含）送料 実費

日本建築協会創立70周年記念出版

住宅近代化への歩みと日本建築協会　1988年

A４判　企画・発行：日本建築協会　本体価格1,500円

日本建築協会創立75周年記念出版

工高生デザインコンクール入選作品集　1992年

A４判　企画・発行：日本建築協会　定価2,000円

日本建築協会創立80周年記念出版

建築を志す人びとへ

A５判　日本建築協会出版委員会編著　本体価格1,800円

21世紀の快適空間をサポート！ 小松ウォール

豊かなバリアフリー社会をめざして

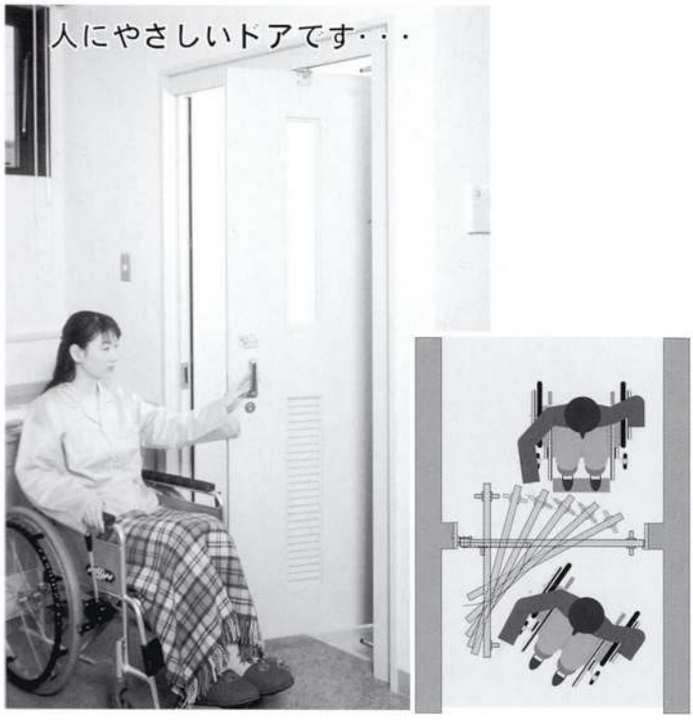
人と環境に優しい製品、それが私たちのモットーです。

人々の生活空間ですべての人に
障壁がないことそれがバリアフリーの
原点です。
小松ウォールは各種間仕切、建具を通じて人
に優しい環境を具現化する製品開発を
進めています。

ドアの概念を変える・・・

カムフォートドア

1. 省スペース、戸袋スペースが不要です。
2. 車椅子でもほとんど体の向きを変える
   ことなくスムーズ開閉できます。
3. 床レールがありません。
4. 自閉装置対応可能です。
5. 非常時に楽にドアを取り外せます。
6. 安全・軽量・静音設計。



壁面スッキリ・・・ハンガードア

LGS内蔵カームドア

1. LGS壁に内蔵されたハンガードアですので
   壁面がスッキリと美しく仕上がります。
2. 軽い力で開けることができ、後はゆっくり
   と安全に自閉します.
   車椅子や高齢者の方でも安心です。
3. リニアモータ駆動のカームアシストドアも
   LGS壁内に組込むことができます。
4. 床レールのないフラットな床面。



ISO 9001 認証取得
JAB JQA-3152

より良い地球環境・福祉環境の
創造をめざして

小松ウォール工業株式会社

本　　社 / 石川県小松市工業団地1丁目72番地 ☎(0761) 21-3131 (代)
大阪市場開発部 / 大阪府大阪市中央区西心斎橋1-1-13 ☎(06) 6241-8416 (代)
URL http://www.komatsuwall.co.jp/

雑誌 03379-11

Vol.81通巻944号 2000年11月1日発行 毎月1回1日発行 昭和24年3月19日第3種郵便物認可 ISSN 0912-8182

社団法人 日本建築協会 〒530-0011 大阪市北区梅田1-6-36-52-100 電話大阪06(6348)0635 FAX06(6348)0634 振替口座00970-9-13696

定価1,200円（●本体1,143円●消費税57円●送料共）正会員の購読料は会費に含めて徴収